

伊田線 直方—伊田 九哩九分

(驛名の下に記せるは直方よりの哩程なり)

直方 直方なうがた 筑豊本線接續點、同線若松より一五哩四、上山田より一七哩九
 中 直方なうがた 二哩六 附近明治、本洞炭坑あり ▼明治鐵業會社、
 南西三十三町 金田 かなだ 六哩一 附近赤池、金田、京城炭坑あり
 箱 ほしひ 七哩九 附近豊國炭坑あり 伊田 いた 九哩九 豊州線田
 川支線接續點

菅笠で犬にも旅のいとまごひ
 川どめにてにはなほす旅日記
 旅だちははでなが早くくたびれる
 旅なれぬうちは桑名で口をやき
 足洗ふ湯も水になる旅戻り
 投入のひからびて居る間のやど
 寝がへりの小つぶでいたむ旅まくら

Handwritten notes and sketches on the left side of the page, including a map-like drawing of a landscape with mountains and a river.

旅は道づれ世は情 旅は人の情

旅路の命は路用の金 裸で道中がなるものか

旅の恥は辨慶状 旅の恥はかき捨て

三人旅の一人乞食

大名も旅は買食するもの 旅大盡

月の七日に初旅せざれ 可愛い子には旅をさせよ

跛も百里 璧の京まゐり

登り大名降り乞食 往き大名の歸り乞食

都も旅は憂し 旅は憂いものつらいもの

留守の疊を疎にすれば旅先に禍あり

旅だちて三日がうちは庭も掃かず櫛も見す

旅に女と犬は連れぬもの

Large area of faint, illegible text or a very faded map on the right page.

東北線とは

一東北本線 上野、青森間、四五六哩九分、及貨物支線

一山手線 品川、田端間、一二哩八分、池袋、赤羽間、三哩五分

一常磐線 日暮里、岩沼間、二二三哩二分、田端、三河島間、一哩、及貨物支線

一平郡東線 平、小川間、六哩四分

一高崎線 大宮、高崎間、四六哩四分

一兩毛線 小山、高崎間、五七哩一分

一足尾線 桐生、間藤間、二七哩四分、及貨物支線

一水戸線 小山、友部間、三一哩三分

東北線



一真岡輕便線 下館、七井間、一七哩七分

一日光線 宇都宮、日光間、二五哩一分

一平郡西線 郡山、小野新間、二八哩三分

一鹽竈線 岩、鹽竈間、四哩三分

一八ノ戸線 尻内、湊間、五哩一分

の總稱で、其本線は帝内鐵道幹線の一部を爲し、東京市内上野驛を起點として宇都宮、福島、仙臺、盛岡等を経て、北海の波津たる青森に至つて止まるのである。その間青森灣頭に於て海光に接するの外は、東北の平野を走るので、風光の變化に乏しいやうであるけれども、峰巒の起伏、平野の曠茫また見るべきものがないではない。特に白河以北は古の奥の地、曠野百里に渉つて天遠く山長く、山河草木皆島國の形

態を脱して、大陸的風物の面影がある。一帯の地は蝦夷人種の跋扈した古より殆ど別世界の觀を爲し、安倍氏、清原氏より藤原氏に至つて愈盛に、平泉の古址今尙當時を想見するに足るものあり、近く徳川氏の時に至つても、時に泰西に使用して私に交を修むる等、殆ど小王國を爲せるが如く、滿目の風物自ら趣を異にして居る。列車の運行は上野青森間相互三回の直通列車の外、常磐線廻り一回、奥羽線廻り二回の直通列車あり、本線は約十七時間、常磐線廻り約十七時間、奥羽線廻り約二十二時間半を要す、別に信越線北陸線を経て山陽線明石に至るもの一回、北陸線金澤に至るもの一回、信越線直江津に至るもの一回、新潟との間には信越線經由のもの二回、岩越線經由のもの二回あり、上野明石間約二十八時間、上野金澤間約十六時間、上野直江津間約十一時間、上野新潟間信越線に頼るもの約十二時間半、岩越線經由のもの喜

地名 氣温平均

最高氣温

最低氣温

(大正四年)

降水量

風平均方向

快晴日

曇天日

降水日

暴風日

多方山都間線路故障中徒歩連絡の爲約十四時間半を要す
本線は支線が多い、山手線は田端及赤羽にて分岐し、東海道本線及中央線との連絡を保ち、常磐線は日暮里より岐れて太平洋岸を経て岩沼に至つて更に本線に合して居る、大宮より岐る、高崎線は高崎に至つて信越線、兩毛線に接し、小山より左に岐れて高崎に至る兩毛線は、桐生より足尾線を岐ち、右に岐る、水戸線は下館にて真岡輕便線を岐ち、友部に至りて常磐線に接続する、宇都宮よりは日光線の岐る、あり、郡山よりは平郡西線の岐る、あり、本年十月小野新町、小川郷間一八哩餘の開通を俟つて、常磐線平より分岐せる平郡東線と連絡全通の豫定である。尙鹽竈線は岩より、八ノ戸線は尾内より分岐して居る。其他郡山よりは岩越線、福島よりは奥羽線の岐る、あり、一は新潟を指し、一は兩羽地方を経て青森に至り、共に獨立して一線をなして居る

宇都宮	五五二	九八〇(四二年)	五四(三五年)
福島	五三、八	九六、八(二七年)	△一、三(二四年)
水戸	五〇、二	九三、〇(四二年)	△四、〇(三九年)
石巻	五二、〇	九四、六(二七年)	七、五(二八年)
宮古	五〇、七	九七、四(一九年)	〇、九(四一年)
青森	四九、三	九六、一(一九年)	△二、〇(二四年)

東北本線 上野—青森 四五六哩九分

附 鹽釜線

岩切—鹽釜 四哩三分

(驛名の下に記せるは上野よりの哩程なり)

上野—青森の東京市内上野公園下に在り、東北地方への交通門戸である
 驛谷うぐいすだに ○哩七 電車驛である 日暮里につぼり 一哩四 常磐線の分岐點 田端をばた 二哩二 山手電車線の分岐點 王子 わうじ 三哩九 王子電氣の接續點、人口二萬九千人を有し、神野川の流に沿ひ、飛鳥山の眺望を控へ、権現あり、稻荷あり、春は櫻、夏は繡、秋は紅葉、冬は雪見、市北郊の勝地である ▼龍ノ川の紅葉、西北十町 ▼飛鳥山、驛前の高丘、櫻樹多く眺望佳、花期東京附近にて最麗かなる遊樂所である、花期四月五日より十五六日まで ▼王子稻荷、西北五町 ▼荒川堤の櫻、東北約三十町、荒川東側の堤上

北東	七四	一一三	一六六	二一
北東	一五	一五四	一六八	五九
北西	八	一一五	二一六	二二八
北西	二五	一五八	一六三	九八
南西	二九	一五四	一五四	一八
南西	一四	一七〇	二三〇	一四四

に在り、渡船場まで人力車賃金三十五錢、王子電氣小臺の渡停留場より十五町、千住大橋よりは和船及モーターボートの便あり、櫻樹は堤上里餘に亘り五色櫻の名あり、一重及八重の雙種多し、花期四月十六日より二十五日まで ▼砲兵工廠支廠、西南十町 ▼西ヶ原製菓講習所、農事試験場、南十五町 ▼農造試験場、西南二町 ▼関東製糖會社、東北二十一町 ▼東京製紙會社、東北五町 ▼王子製紙會社、驛前 ▼名主の郷、西北六町 ○肥料、毛織、洋紙、藥品
 東 有あかばね 六哩二 山手線の分岐點 同線品川より一三哩 ▼荒川堤の櫻、東南三十町、人力車賃二十五錢 ▼浮間の櫻草、西半里、荒川對岸の廣野、若草燃ゆる新緑中に優雅なる紅櫻を見る、家族的散策の適地である ▼陸軍被服支廠、驛附近 ▼陸軍兵器支廠、西二十四町 ▼日本製紙會社、驛附近 ▼小口組製糖場、西南五町 川口 かはぐちまち 七哩六 町に鑛鐵工場多く、各種鑛鐵器の産出多し ▼浮間の櫻草、西十九町 ▼善光寺、東南七町 蔵 わらび ○哩 ▼安行村、東二里、苗木及觀賞植物の栽培地として世に知らる

埼玉	一、六四〇、七六二	静岡	一、二一六、七九七
愛知	一、一六二、九一七	千葉	四四六、五一一
大阪	四四六、五〇〇	愛媛	三四六、二六三
佐賀	二七五、八〇六	茨城	二五七、三九〇
全国	八、三六四、七九六	此價格一、三六一、二二二	

●生薑の主要産地

(大正四年)

●花百合の主要産地

(大正四年)

埼玉	三二八、五七八	鹿兒島	九七、八〇四
群馬	六六、三一五	沖繩	四九、六七九
東京	三四、五九九	千葉	三三、三二一
全国	六七二、〇五九		

●粟の主要産地

(大正四年)

埼玉	七一〇、七九五	山梨	二七一、六七九
----	---------	----	---------

浦和は埼玉縣廳所在地で、縣は武蔵國の一部を管轄して居る、西半の秩父地方は山嶽多く秩父絹を産し、東半は平野連く連りて麥の産多く、養蠶、機業亦盛に、熊谷、川越等其中心地となつて居る。川越地方は又甘藷の産地として名高い

●緑色木綿の主要産地

(大正四年)

長野	一七六、三一〇	愛媛	一三三、六八八
茨城	一一三、五二五	廣島	一一三、一九四
新潟	一〇三、八四七	熊本	九七、六五一
大分	八八、八三七	栃木	六八、一〇六
全国	二、七二四、三六〇		

●胡麻油の主要産地

(大正四年)

埼玉	一、二七、八二二	大阪	五七二、五八四
廣島	五七一、六〇七	愛知	四四一、四六九
愛媛	三六八、五一一	福岡	三五八、六五四
静岡	三四五、四六七	三重	三三八、九〇四
全国	六、四三六、三七二		

興野よの一四哩九 ▼興野公園、西十町、櫻の名所 ▼見沼川、東八町、櫻の名所 ▼二度栗山、西南六町 ○甘藷 大宮 おほみや 一六哩六 高崎線の分岐點、同線高崎より四六哩四、故より川越に至る電車あり ▼大宮公園、東北十一町、馬車賃五錢、人力車賃十三錢、自動車賃切替圓、官幣大針、米川神社境内である、松杉蒼鬱、天空を蔽ひ、櫻樹相交りて池沼を繞つて居る ▼片倉製糖工場、東南十三町 ▼大宮製糖工場、西北五町 ▼山九製糖工場、東南五

町 ▼渡邊製糸工場、西南十三町 ▼川越町、西三里半、電車賃十八錢 ○甘藷
織物、種油、野菜 田はさだ 二二哩二 白岡しらたか 二四哩八
▼八幡宮、西四町 久吉くき 二八哩二 東武線の交叉點 ▼甘藷院、西八
町 ○麦、米 櫻くりはし 三三哩五 露前静御前の墓あり、北三十町
の光了寺には其遺物を存すと云ふ ▼行幸堤(権現堂堤)、東南二里 ▼東京紡
績工場、東七町 ▼河邊鎮整理耕地、西二里、利根の沿岸地千二百町歩に上る
○綿糸 古河こが 三八哩 土井氏の舊城邑、室町時代足利成氏に在り開
東に讓令し、古河公方と稱へた ▼古河桃林、南半里、人力車賃十四錢、土井利
勝の塚増したもの、香雲一里に亘り美觀云ふばかりなし ▼能瀨落山の墓、南三
十町、鮭延寺内に在り ○野菜、柳家製、生糸、奈良漬、糖甘露 間々田ま
まだ 四三哩三 小山をやま 四七哩九 兩毛線、水戸線の分岐點、兩毛線
高崎より五七哩一、水戸線友部より三二哩三、開ヶ原の役、家康、上杉景勝を征
せむとして東下し、石田三成の事を擧げたるを聞いて、旗を旋したるの地である
▼小山城址、北六町、思川の西岸に在り ▼思川、北七町、鮎油に遡する ▼須
賀神社、西八町 ▼今組小山製糸場、北五町 ▼下野酒造會社、西南九町 ○干
瓢、梨、酒、生糸 小金井こがねる 五二哩五 ▼薬師寺、東北一里、古海内
屈指の靈場であつたが、後世廢絶して今僅に鐘樓寺あるのみ、道鏡の竝に駈せら
れたことは史に明かなる所、竊に竹林の中にあり ▼國分寺址、西一里 ▼栃木
陣馬所、北三十二町 ○米、麦 石 堀いしばし 五七哩 ▼開運寺 露前、

869
222
1091
248
1339
282
7621
335

將軍家光、宇都宮釣天井の危機を逃れた時、一時本陣とした所 ○米、干鰯
市、古來鷹羽に通ずる要路であつた、日光線の分岐點である、今人口五萬四千人
を有し、米、麦、粟、干鰯、石村、木片織を産し
米、麦、石村の取引が盛である ▼國 中社二聖山
神社、西十町、市の中央に位す、今公園となり、櫻
樹が多い、境内に蒲生君平の墓がある ▼宇都宮城
址、西十五町、釣天井の陰謀に因つて名高し、今は
市の公樂園となつて居る ▼大谷觀音、西北二里十町、人車鐵道賃金十二錢、岩
石嶺、洞窟多く、小妙觀の觀がある、講國及紅葉の季節は景致更に美なり
▼第十四師團司令部、西北一里十町 ▼栃木縣廳、西十七町 ▼市役所、西南十五
町 ▼煙草專賣局、西十二町 ▼栃木縣農事試驗場、東二十町 ▼下野製紙會社
工場、西南十町 ▼神野木片織工場、西二十三町 ▼日清製粉會社工場、北西四
町 ▼平石村石井青年團、東一
宇都宮市は栃木縣廳所在地で、縣は下野國を管轄して居る。縣の西北境は山
嶽重疊し、男體山麓山水の名聞日光あり、日光の西南足尾は銅山所在地として
名高く、北部には高麗、那須嶽あり、那須野原は近時次第に開發せられ、耕地
を見ること、なつた。鬼怒川の上流には發電所あり、那珂川沿岸には煙草の産
多く、中部の平野には大麻、干鰯を産し、産物は大麻産地の中心地となつて居

25
058
909



宇都宮附込



○●▲○凡花文千
凡 列藩名岩屋南寺學聖川山道町那須
沼布所石榮社院院政司陣馬所界地

線本北東

る。南部は養蚕、植蚕盛に、栃木は藤、生絲を集散し、足利は絹織交織を多量に生産して居る

●大麻(製麻)の主要産地

栃木 八三九、一八九圓
廣島 三三三、〇六五圓
全 國 二、四一三、〇五二圓

●絹織交織類の主要産地

栃木 二、六三六、九六五圓
群馬 五九、九一七圓
全 國 二、八八三、九三九圓

●綿織交織物類入織類の主要産地

栃木 二、八一六、一一四圓
群馬 一、〇五七、五七〇圓
岐阜 五四四、四六〇圓
全 國 八、九六二、四五六圓

●綿織物類の主要産地

栃木 二、六七七、八〇八圓
大阪 八二七、七三二圓
滋賀 二八二、二一八圓
全 國 六、一九一、四一五圓

●凝灰岩の主要産地

栃木 二五五、九九四圓
千葉 七七、五九五圓

(大正四年)

(大正四年)

(大正四年)

(大正四年)

(大正四年)

全 國 八七四、五四六圓

隅 をかもと 六九哩七 羽黒山神社、西南三里 下野綿布會社、西方一里 栃木縣模範耕地、北二十四町 白木綿 寶積寺はうしやくじ 七三哩一 鬼怒川、西六町、鮎漁に憑す 宇津救命丸製造場、東南一里 鳥山町、東五里、馬車賃五十五錢、町の泉溪寺に源翁和尚の墓あり、天性寺には那須與一の墓あり 崇徳寺、東南三里 米、煙草、鮎、救命丸 氏 家うぢいへ七六哩七 片 岡かたをか 八一哩九 勝善神社、西二里 十二社 権現、西南二里 米、木材、薪炭 板やいた 八五哩八 寺山 絶世音、西二里、人力車賃四十錢 赤籠温泉、西三里 日光 鐵山、西南四里 薪炭、木材、銅鑛 野 越のざき 八八哩八 西那須野にしなすの 九二哩一 鹽原軌道及那須人車鐵道の接續點 鳥ヶ野、西北十町、櫻の名所 雲照寺、西北一里 乃木神社、東十四町 千本松馬場、西北一里廿四町、松方侯の經營、牧羊業盛である 雲岩寺、六里、特別保護建造物あり 日本醋酸製造會社鹽原乾鑄工場、西北五里三十町 黒羽町堀ノ内青年會、東四里 鹽原温泉、西北四里 乃至八里、常川の清流に沿うて十餘の温泉場あり、温泉の豊富と溪流の奇に加ふるに瀑布の壯あり、巖石の怪あり、春は八汐の花紅雲と燃え、秋は紅葉の美錦繡を織る、四時人を驚ましむるの山水郷である、驛前より新鹽原まで八哩三分の



泉温須那及原鹽



近附島福

接續點、奥羽本線青森より三〇二哩三、板倉氏の舊城市で、阿武隈川の左岸、福島平野にあり、人口三萬四千人を有し、生糸、絹織物、産、麻織の取引盛である。▼信夫山、北半里人力車賃十五錢、互然として平野の間に屹立し、高さ數百尺、福島の瓦壁を一陣の中に收め、仰て善妻山の噴煙を望むべく、俯して阿武隈の清流を眺めらる。山は湯殿、月山、羽黒の三山に分れ、山上古陵あり、山の中腹には信夫公園岩谷峴あり、此地太古湖中の島嶼なりと云ふ。▼紅葉山公園、東八町、阿武隈河畔に在り、板倉神社境内である。▼文字摺石、東北一里半、人力車賃三十錢、觀音寺境内にあり、石摺を眺らす、曾て石上に草花を織せ布を打て模様を作つたものと云ひ、姿の青葉を以て此石面を摺れば相思の人の面影を見ることが出来る。▼「みちのくのし」の文字摺石を眺れしにわかれならぬに「河原左大臣の詠古來人口に嘯交して居る。▼製糸場富國館、西北一里。▼飯坂温泉、西北二里十町、市内より自動車の便あり、賃金五十錢、三十分を要す。▼福島縣廳、東八町。▼市役所、東七町。▼物産陳列館、東八町。▼原産種製造所支所、北十五町。▼工業試験場、東半里。▼農工銀行、東四町。▼羽二重會社、北十三町。▼玉系改良會社、南七町。▼共同生糸製造所、東五町。▼新聞庫、東北八町。▼福島座、東四町。

の東部には阿武隈山脈あり、中部には吾妻山、磐梯山の活火山聳え、阿武隈川此兩山脈の間を流る、あり、川の沿岸平野は養蠶、牧馬が盛である。▼郡山、二本松、須賀川、福島は蠶、生糸の市場である、福島の東南川、俣は蠶に羽二重を産し、我國主産地の一として知られて居る。白河、三春は馬市を以て名高い。阿武隈山脈の東麓地方よりは多く石炭を出し、平は其中心地である。縣の西半は山嶺多く、其中央は河津盆地あり、若松市其主邑をなし、津島の産がある。

●菊嶺寺の主要産地 (大正四年)

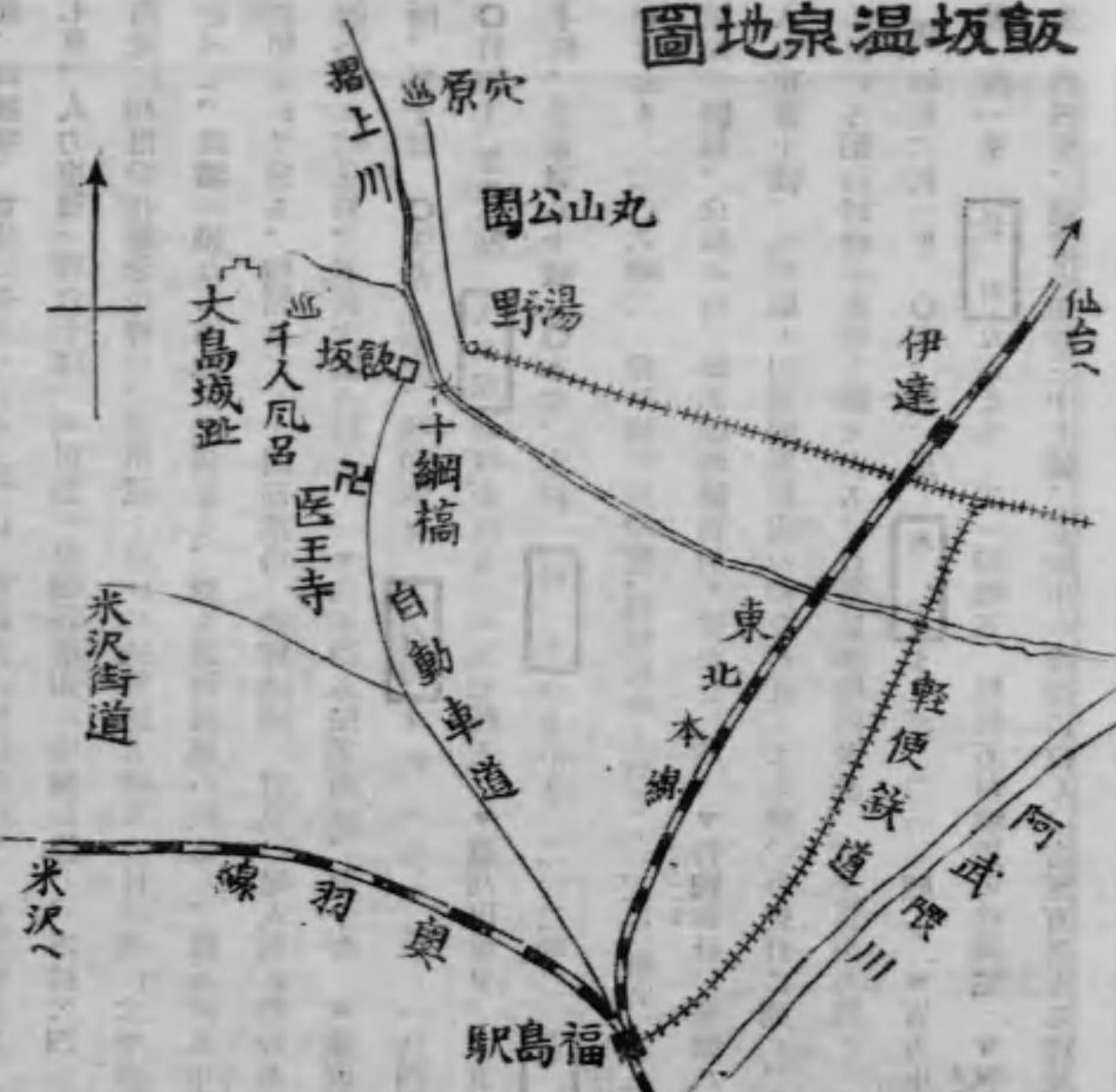
福島	二、〇〇二、三〇五	岡山	一、二二一、七〇八
茨城	一、〇五三、四〇二	廣島	一、〇三八、二二八
群馬	七〇二、四一六	山口	四九五、一八〇
静岡	四二七、五五七	兵庫	五五〇、一八〇
全 國	一〇、八六六、五五三	此價格	二、二八五、八七一

●人參の主要産地 (大正四年)

福島	一四二、〇三六	長野	八五、九二一
島根	一七、五六〇	鳥取	七、八一七
全 國	二五七、八二七		

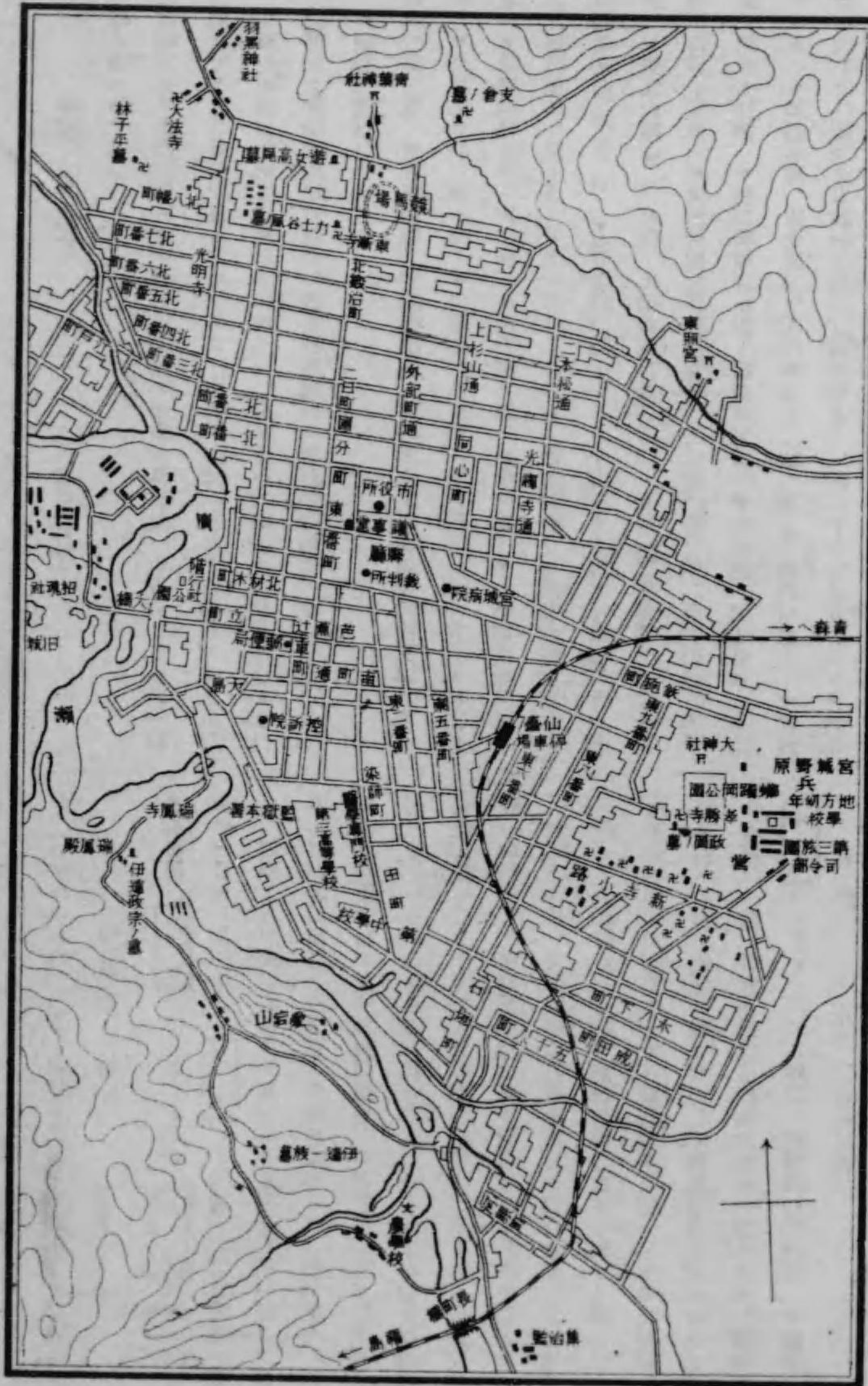
伊達にて一七三哩七、大日本軌道の接續點。▼飯坂温泉、西三十町、輕便鐵道賃金九錢、人力車賃二十五錢、摺上川を隔て湯野村温泉と相對して居る、家屋は懸崖に據つて建てられ構造を極め、浴室皆數丈の斷崖に臨めるが故に、浴槽中に在りて湯山水の騰に親しむを得、丸山は浴客消遣の遊園、醫王寺内には

飯坂温泉地圖



佐藤庄司一族の墓がある、摺上川の上流には赤川、穴原の温泉あり、赤川には近年の新設に成る數百人の浴客を容るべき千人風呂あり、此地は又河鹿の名所にて六七月の候此温泉に浴せば湯々たる涙水と相和して鳴く美妙なる聲を聞くであらう。▼穴原温泉、摺上川の上流半里、地境幽遠である、詠曲攝持の古蹟。▼熊山東北三里、掛田町まで輕便二十一錢、掛田より一里、北畠顯家の據守した所、山麓熊山神社あり、顯家父子を合祀し別格官幣社に列す。▼東北カイト會社、隣附近。▼荒川砂防工事、西四里半。▼保原町、東一里、大日本輕便羽二重會社運給合名會社あり。▼梁川町、東北三里、製糸會社、製材會社あり。○カイトパイ、生糸、羽二重、櫻桃。▼折こをり、一七六哩三。▼桑折温泉、南三町。▼半田温泉、北八町。▼半田山、北二十町、山上馬蹄形の大崩れあり奇觀を呈して居る。○生糸、羽二重、鰯石。▼田ふぢた、一七八哩三。▼伊達の大木戸、東北十六町。▼半澤櫻桃園、東二十町。○櫻桃、桃。▼河こすがり、一八四哩二。白。石。し。ろ。い。し。一八九哩三。片倉氏の舊城下、城址は西五町、戊辰の役、奥羽二十餘藩聯合の盟約を結んだ所。▼鎌先温泉、西北一里三十町、人力車賃十五錢、馬車賃四十錢、鹽類泉にして創傷に效あり、岩橋四境を圍む沼澤不動の勝あり。▼小原温泉、西南二里、人力車賃六十五錢、白石川の上流桂澤山麓に在り、鹽類泉にして神無諸病、眼病に効あり、附近村木野及風穴の勝あり、白石川には鮎、鱒を産す。▼鹽川田温泉、西北五里、人力車賃一四二十錢、列田嶽の麓、松川の左畔に湧出す、三境山を繞らし閑寂なる一區を成す、炭酸泉

仙臺市街圖



あり鹽類泉あり、最近ラジウム含有東北第一なりとて浴客頗る増加せり、價頗高
 所、神經痛、胃腸に効あり、不忘山、青麻山の間に介在す。▼青根温泉、西北
 七里、人力車賃一圓六十錢、刈田嶽の分樹花房山の中腹に位し、海拔二四〇〇尺
 西北に刈田嶽花房嶽を控へ、東南遠く展けて眺望雄大晴天の日は遙に太平洋を望
 むべし、湯瀾の盛なる浴池の宏闊なる、恰も游泳池の觀あり、附近温泉中最世
 に知られて居る、鹽類泉にして開閉諸病、神經諸病、胃腸、婦人病に特效あり、
 附近には物見岩、不動大瀧の勝あり。▼白石製糸機業會社、西十町。▼熊坂製材
 所、西十町。○生糸、詰炭、鹽類木材。北白川きたしらはは。一九四哩六
 ○竹細工、生果、鮎。大河原おほがはら。一九七哩五。▼刈田田温泉、西五里三
 十町、馬車賃八十錢。○木炭、木材。▼木つきのき。二〇二哩二。▼沼
 いはぬま。二〇六哩二。常磐線の終點、同線經由上野より二二四哩六。▼武隈
 城址、驛前、戊辰の役、奥羽軍總督府を置かれた所。▼竹駒神社、東南八町、
 人力車賃十錢、小野嶽の山城國稻荷山の神を祀りたる所、今縣社に列し、奥羽
 に於ける稻荷神社の領袖と稱せらる、社殿壯麗境内廣潤、古來馬市を開く
 の處、神社、北一里。○米、酒、馬。▼田まさだ。二二〇哩七。▼實方中將の
 墓、西一里。長町ながまち。二二四哩五。秋保石材軌道の接續點。▼秋保温
 泉、西四里、鐵道馬車賃三十七錢、名取川の南岸に位し、古來有名なる温泉であ
 る、鹽類泉にして胃病脚氣に効あり、附近視觀の奇勝あり、秋保大瀧は温泉より
 西三里、路空密林の中に懸り、高さ二十四丈測き八丈、雌雄二瀧に分れて居る。



仙臺及附近

▼農事試験場、南五町。○埋木、亞炭。仙臺せんたい。二一七哩二。市は伊
 達氏の舊城市、西に青葉山を負ひ、西南に廣瀬川の流を擁し、東の一方宮城野の
 平野に連なる所に在り、今人口十萬四千人を有し、
 本邦第十一位、東京以北に於て第一の都會である、
 市中央の十字街道を基軸の辻と云ひ、繁華を過りて
 ある、物産には仙臺平、八つ橋餅、埋木細工、漆器
 仙臺味噌、陶器等あり。▼櫻岡公園、北西十二町
 人力車賃十二錢、廣瀬川畔の高丘、對岸は即ち青葉城址、今第二師團司令部あり
 城は青葉山の中腹に在り、廣瀬川に臨む、慶長五年伊達政宗の築く所、戊辰の役
 兵變に罹り、只舊城門のみを存す、本丸の遺跡即ち天主堂の中央に照忠碑あり、
 人力車賃二十錢、青葉山は所謂埋木の産地にして殆ど無遺蹟と稱せらる、その實
 甚だ堅固にして光澤あり、黒色玲瓏雅緻拘すべし、机、卓、茶盤、文房具等に製
 す、東北大學の庭に此邊より掘り出した埋木の類で、大木の幹の根を掘げたる壯
 大なるものを置いてある。▼鶴岡殿、西南二十五町、人力車賃二十錢、伊達家三
 代の廟宇のある所、殿内衣冠燦然たる政宗の像あり。▼青葉神社、北一里、人力
 車賃十七錢、政宗を祀る、附近の光明寺内、羅馬に便した支倉六右衛門の墓
 あり、林子平の墓も亦近き龍泉院に在る。▼愛宕山、西南二十町、人力車賃二十
 錢、愛宕神社等靈堂あり、此地眺望に富む。▼大崎八幡宮、西北二十八町、人
 力車賃二十三錢、政宗玉造の大崎より遷せるもの、社殿の彫刻は左馬五郎の手に

成れりと傳ふ。▼東照宮、東北十町、人力車賃十五錢。▼櫛ヶ岡公園、東十二町、人力車賃十二錢、櫻樹多し、樹は多く老木にして大なるは二抱にも餘れり。花朝四月下旬、岡の北に櫛ヶ岡の建てし禪堂あり、岡の下は古の宮城野で今練兵場である。▼政岡の墓、東十五町、人力車賃十二錢、孝勝寺内に在り。▼宮城縣廳、西北十三町。▼第二師團司令部、西二十五町。▼控訴院、西十四町。▼市役所、西北十三町。▼東北帝國大學理科大學、工科專門部、第二高等學校、西十四町。▼東北大學醫科大學、大學病院、北二十町。▼仙臺公會堂、西二十町。▼仙臺圖書館、西十二町。▼農工銀行、西十一町。▼山三カ一パイト會社、西一里半里。▼仙臺製糖會社、東十町。▼東洋スレート會社、西十四町。▼東北製糖會社、西三町。▼仙臺製糸場、東十町。▼仙臺座、西五町。▼森徳座、西十町。▼模範村生田村、西三里。▼宮城縣感化院修養學園、西一里。▼仙臺基督教教育院、北十町。▼東北警察院、西北三町。

仙臺市は宮城縣廳所在地で、縣は陸前國の大部及磐城國の一部を管轄して居る。縣の西境には奥羽山脈あり、總王山、駒ヶ嶽の火山聳え、又東部には北上山脈延びて遂に牡鹿半島となつて居る。東西兩山脈の間は平野開けて北上川、阿武隈川の下流之を流す米の産出が多い。仙臺は奥羽第一の都會で、東北帝國大學を置かれてある。

●縣の主要産地

(大正四年)



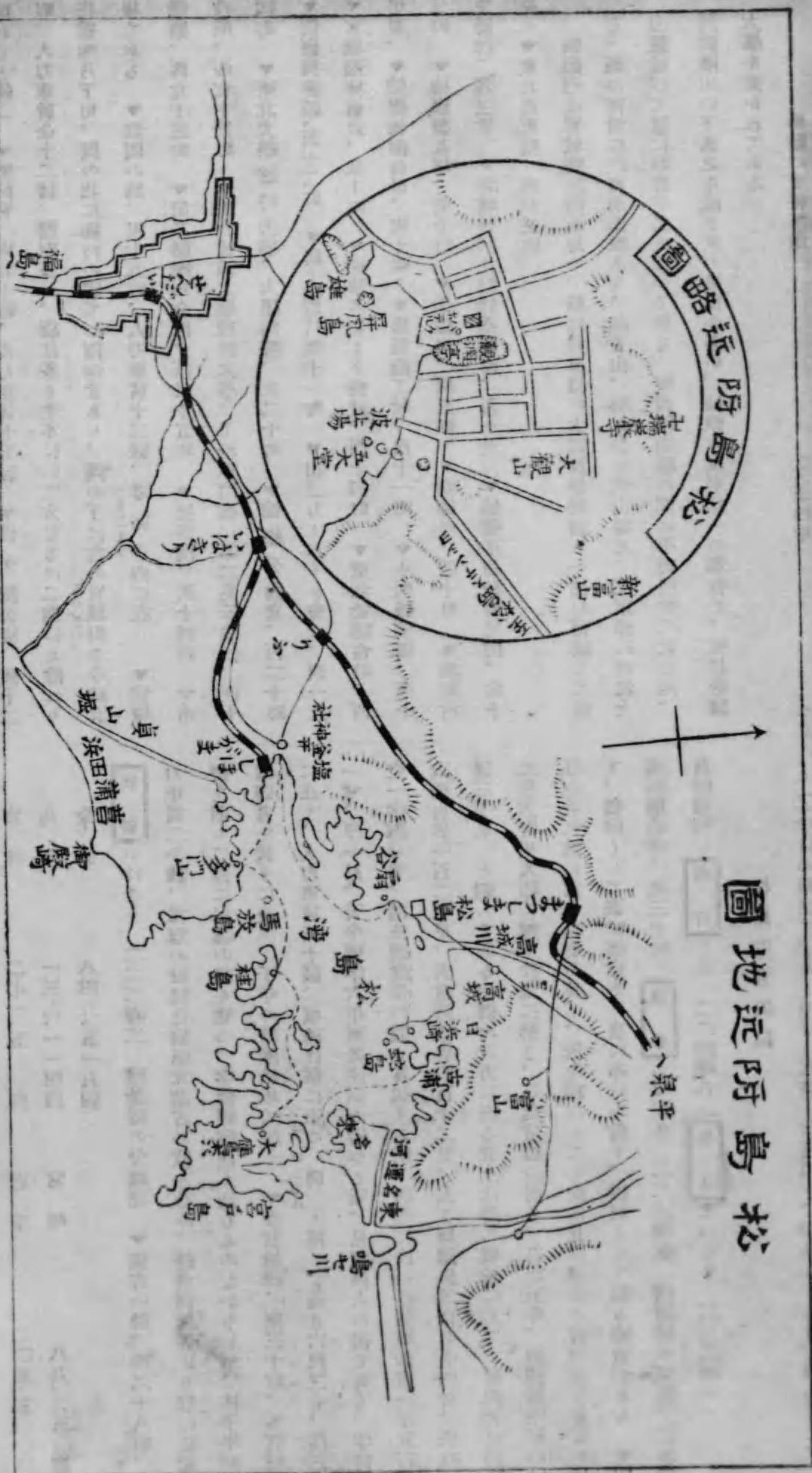
官城 二七一、五〇〇圓
高知 一三九、一一四圓
全圖 八四九、五一九圓

岩手 二四五、五〇〇圓
宮崎 八九、九五〇圓

岩切 いはきり 二二二哩二 鹽釜線の分岐點 ▼蒙古の碑、南二十八町、人力車賃二十錢、元寇の役歸化僧祖元蒙古の敗を悲み、鎌倉圓覺寺より碑に徒弟清俊を遣りて茲に市魂の碑を建て、字體難解能く讀むものなかりしが、林子平が燕邊碑考を著すに及び、千年の疑團始めて解く。▼多賀城碑、東三十町、多賀城址に在り、人力車賃三十錢、城碑は俗に靈の碑つばいしんまと稱し、高さ六尺三寸、横三尺一寸、厚一尺、天平寶字六年風美朝陽の崩つる所、見雲真人の誓である、字體完全一字滅せず、楷法遒健世の邁く賞揚する所、碑面には「多賀城去京一千五百里去鹽釜界一百二十里、去常陸國界四百十二里、去下野國界二百七十四里、去蘇州國三千里」と刻してある、碑の北方に在る丘上は即ち城址にして、聖武天皇神武元年大野東人始て城を此地に築き、陸奥守茲に居る、文治五年、源朝胡東征の時往返共に茲に寓して吏を賞し、民を編ひしこと史に見ゆ、丘の附近往々古瓦を出す、實際として表に痕痕あり裏に布目を附す、硯材として頗る雅致がある。▼官城縣模範林、北三十町。▼鹽釜しほがま 二二六哩五 鹽釜線の終點、記事松島嶺發照 利 所りふ 二二四哩八 松島まつしま 二二三哩一

松島遊覽鐵路

(一)半日の場合、鹽釜—鹽谷—松島—新富山—松島よりは此行程を逆にす



松島近路圖

美耶々松島の記をひるがへす 子 規



蓬とこはいつしかののみまつの島のかはらち人を願ひ渡るかな 人 丸

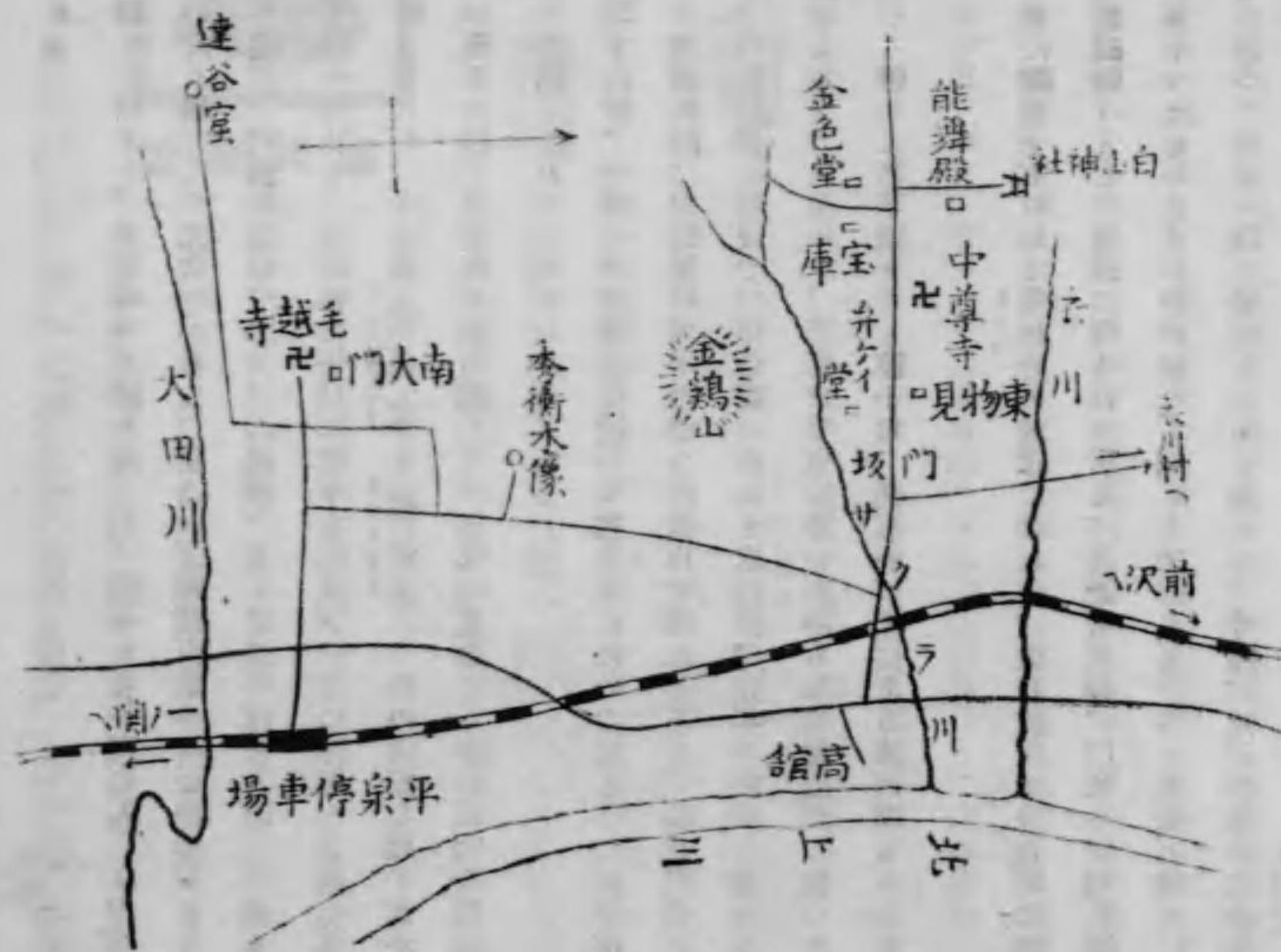
(松島近路図) 島 松

松島は海の中州沿岸の小村落で、松島より一里を隔て、居る。瑞巖寺、觀瀾亭、五大堂、雄島の名蹟皆この地に在る。五大堂は水濱の一離島にあり、堂は版上田村慶が建てたもので、五大明尊像を安んじ、其周圍には老松蟠屈して碧潭に臨んで居る。觀瀾亭は觀月峰にあり、政宗が太閤より桃山殿の一部を賜はつたのを、移して燕游のとなしなしたもので、貝玉垣を圍らして居る。雨奇晴好既望其佳、パークホテル此傍に在り。雄島は亭の南數町、渡月の長橋相通じて松連曲邊、周圍碧湖に臨んで斷崖削つたやうである。村の西端、蔚然として萬松の中に、大伽藍の見ゆるは瑞巖寺、慈覺大師の創建で、中興の祖は法身上人眞壁平四郎である。寺に政宗甲冑の木像あり、短面にして獨眼、半月を飾つた兜を頂き手に軍配を携へて居る。著する所の體骨は、生前常用のもの、英風凛凛正に其人に接するやうな心地がする。堂内の彫刻繪畫、皆政宗當時の巨匠大家の手になり、桃山時代の精華として、斯道の人の推重する所である。

若しそれ松島全島の雄大な風光を、パノラマ的に觀望しようと思へば、更に高きに登らねばならぬ。こゝに於てか松島の四大觀と云ふのがあつた。曰く多門山の美觀、曰く大高森の壯觀、曰く扇溪の幽觀、曰く富山の麗觀、中に富山が最高、山は松島麓の北嶺に屹立し、四近に高嶺がないから眼界頗る廣く、海天一色遙に外洋に及んで居る。遊きは相馬の諸峰肩縋の如く、左胸すれば金華の山亦遙に望むべく、俯視すれば青螺蟠落點々拾ふべく十里の碧瀾亦一泉池かと思はる。崖上の大悲閣は版上田村慶の建立、奥州三觀音の一である。瑞巖は松島と觀

釜との中間にあり、景は富山の宏きには及ばないけれども、雅趣は纏る優つて居る。多聞山は代ヶ崎にあり、内外の怒濤靜波あはせ見ることが出来る。大高森は官戸島太平山のこと、山高く水面を抜きて四顧悉く佳、蓋四大觀中の勝一である。近頃松島村後の丘陵に新富山の稱を附して、五大觀の名を唱ふることもなつた。觀月樓後の大觀山も亦既望の勝を以て聞えて居る。品井沼、北一甲、目下開墾事業經營中、濬穴は既に通水を見るに至つた。鹿島、かしまだい、二三八哩六、驛附近、鴨、雉の狩獵に誘ふ。南郷村不二郷青年會、二里、松山間まつやままち、二四一哩六、小牛田、二四四哩三、陸羽線、仙北鐵道の分岐點。山ノ神社、西北二十町、人力車賃二十錢、木ノ花馬那遊を祀る、古來産神として遠近の崇敬厚し。城山公園、仙北鐵道瀨谷驛より八町、伊達安藝の館址、櫻岡多し。石巻港、仙北鐵道の終點、小牛田より十八哩、北上川の河口に在り、政宗北上川の流を引きて此處に注ぎ、港を開きたるより以來、茶穀の輸出地として聞え、三陸沿岸各港驛路の中軸たり、山水の風光亦佳。金華山、鹽池及石巻より汽船便あり、鹽池より汽船賃七十五錢、小牛田よりは船運速絡券特等一圓二十錢、並等八十錢。田、尻、たじり、二四七哩五、瀨、せみね、二五二哩八、新田、につた、二五六哩九、驛の近くに在る伊豆沼、長沼は好箇の水溜場である。中田沼開墾地、東北四里。上沼村青年會、東北五里。石、越、いし、二六一哩五、鳥澤山、西北六里。高田山、西北七里半。〇米、木村、亞鉛鐵、硫黃、一ノ関、いものせき、二七三哩九、古の蟹井、歴史

平泉附近圖



平泉の古址

上著名の地で陸中の咽喉に當る。維新前田村氏の城邑であつた。東四里半、馬車賃四十七錢、神龜川の兩岸數十町の間、石炭層より成る峭壁にして、舟を漕うて流を溯るべし、東北に於ける耶馬溪の稱あり。五甲の瀧流、西二里、人力車賃五十錢、勢井川の流、嶺に至つて忽ち一峽の聲むる所となり、怒つては瀧となり、流みて瀧となる。瀧皆巖、赤松二三其上を翳うて居る、天工橋あり、眺望最佳、木曾の遊覽の床と并稱せらる。醉川温泉、西八里。八澤村青年會、東六里。〇木炭、小泉、むらいづみ、二七八哩三、一ノ関、後述にすれば、東稻山の秀容車窓に廻り來りて北上の大河を帯にして、江山の景勝漸く凡ならざるを覺え、三代の榮耀一瞬の中にして、上皇の筆を遺し、東北第一の古墟なる平泉の近づくことが知らる。

上國の戰塵飛んで到らず、東風占斷す九十年。白河の關以北縱橫一百餘里、陸奥の黄金花咲く大野に盤踞して、其富王宮に超ゆと稱せられた、藤原秀衡父祖四代の治府であつた、平泉の榮華の奇も夢のまた夢。今は唯一箇荒蕪たる宮村となり、奥卿館、御所、柳の館などいづれに尋ねべきか、七百年の廢墟寂寥として金風とこしへに榮華の跡を吹いてゐる。中尊寺は驛の北西半里、馬車賃八錢、花復十五錢、途に殺經の高館址あり、金龜山の東北に連れる丘陵を占め、判官宮あり九郎の木像を安置してある。遙に北上の大河を隔て、東稻山を望むの風光、平泉中

第一の勝跡である

平泉の村家盡くる所より、老杉暗き丘陵を辿りて、肅々たる寺門を入れば中尊寺で「五月雨の降り礎してや光堂」がある、堂は上下四壁内殿、皆金色燦爛として、三土輝を點じ、阿彌陀三尊、二天、六地藏、悉く定朝の作だと傳へてある寺はもと慈覺大師の開基で、清衡が平泉に住するに及び、大に淨財を喜活して壯麗な堂塔を建立したが、今は唯金色堂と經藏とに、昔の面影を残すばかり、光堂三尊の床下には、金箔塗の棺を藏して、三代の見果てぬ夢の名残を存し經藏には三代の寄附になれる一切經を納めてある

丘を下りて北すれば、一條の溪流開山を繞つて北上川に注いで居る、これが即ち衣川で、上流五町餘、安倍頼時父子の據つた衣川の柵址がある、源氏累代の勇を以てして、尙其討逆に前後十二年を費したかと思へば、當年の勇威の盛なりしことも想像せらる、ではないか、清衡が平泉に移つたのも畢竟此故址に據つたので、廓土空しく礎りて秋草鎮すこと數十町、礎石いづくにある善苦理る、こと位に八百年

道を返して更に驛南十五町なる毛越寺の遺蹟に至れば、蓋汝徒に大泉巡時に茂り、南大門の斷礎離々として遺蹟に埋もれて居る、馬車賃五錢、門址の東端に芭蕉自筆の「夏草やつはものどもが夢の跡」と刻した碑がある、寺は基衝の建立に成り、堂塔竝び連つて梵唄の聲の盛なりしと絶えて、今僅に常行法華の二堂をとゞむるに過ぎない、秀衡父祖六十年の餘威を經ぎてます、一盛に、春は東稻山

の標、秋は北上川の月、舞人を集め樂士を招きて、榮華父祖の上に出たのであるが、祇兒榮衛院を繼ぐや、鑄倉の大崩早く白河の關に翻り、秋風に草木の露を拂はせて、伊達の大木戸先づ破れ、多賀の國府に開守なく、津久毛櫓も掘しあへず、平泉を過ぎて入らず、北方深く遁逸し、御経殿上兵變盛に、三代の華嚴一朝にして焦土と變じたのである、落葉球々たるの秋、來つて此地を訪は、愁人ならずとも丸斷腸の思をなすであらう

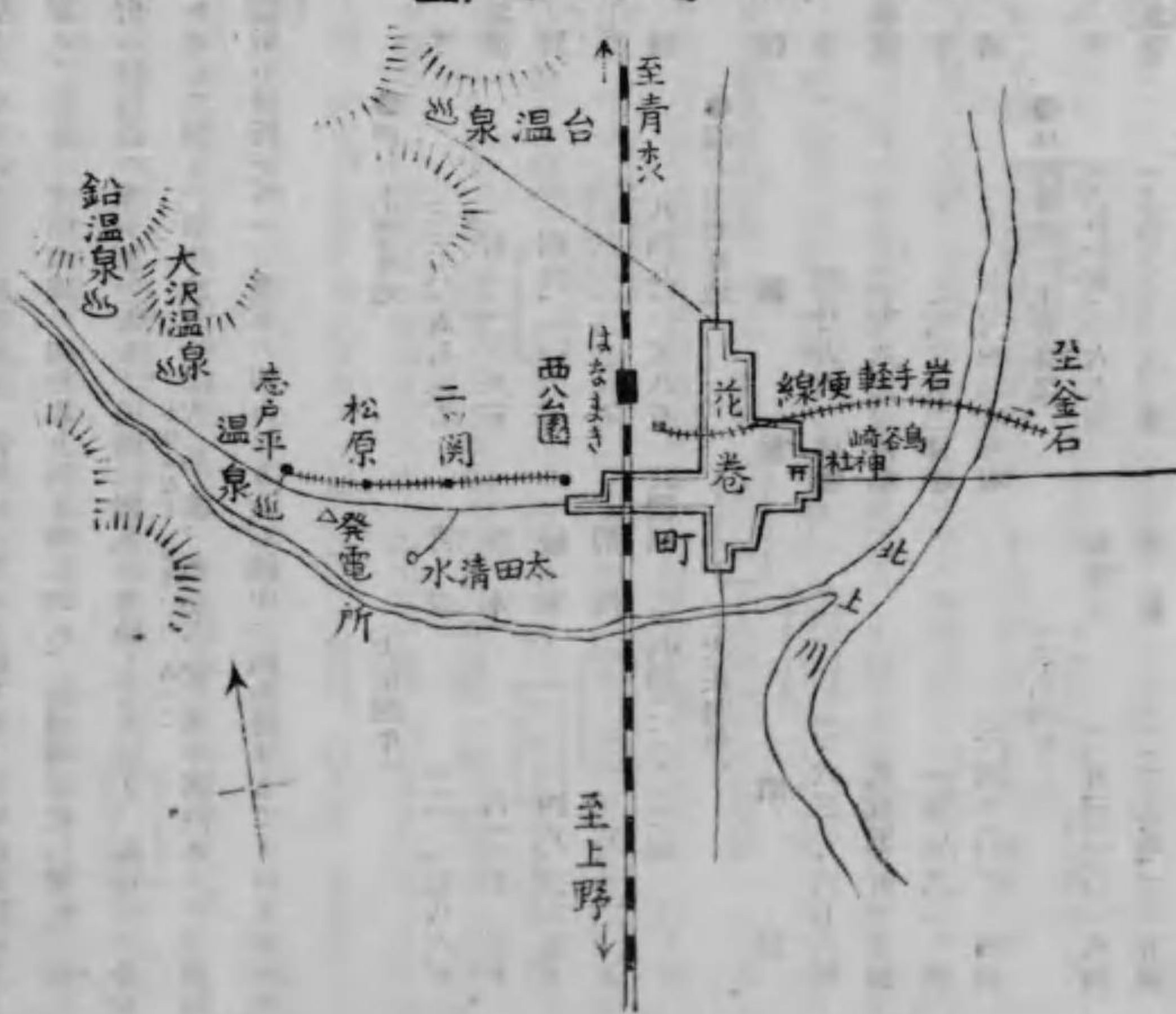
連谷は毛越寺より一里、驛より馬車賃往復六十錢、岩窟の高き三丈長き九間田村鷹將軍征夷の時、真會慈路王の據つた所と云ひ、再會滅亡の報復の爲め、將軍の建立した毘沙門堂がある、これより一小丘陵を越れば五串溪に至るのである
前 窪まへきは 二八三哩一 水 窪みづきは 二八九哩五 水運公園、西南八町、人力車賃十二錢、園内高野長英の碑あり、櫻樹亦多し、園の西四町、世界四觀測所の一なる臨時緯度觀測所あり、人力車賃十四錢 駒形神社 西南八町、國幣小社である 粟木鑛山、東十二里 岩手縣原産種製造所、東五町 鐵瓶、鐵器、木炭、牛馬 窪かながさき 二九四哩二 鑛山城址、東十五町、古の鐵守府址で、今鐵守府八幡宮がある 鳥海柵址、宮の西北十町餘 軍馬補充部支部、西北二里半 黒澤尻くろさはじり 三〇〇哩 驛の西方四里乃至九里の間に細取、水澤、仙人、大荒澤、城の東の懸鑛山あり、驛前より仙人鑛山製鐵所まで五里、馬車賃道あり、賃金三十九錢 金塊、荒銅、鉄鐵、石膏 花巻はなまき 三〇八哩 岩手輕便鐵道及花巻電車軌道



近附岡盛

の接續路、鳥谷ヶ崎城址、東十町 志戸平温泉、西二里半、松原まで二里六町電車の便あり、賃金二十六錢、豊澤川の清流に沿ふ、鹽類泉にして皮膚病に效あり 大湯温泉、志戸平より二十町、人力車賃十五錢、豊澤川の溪谷に在り、幽邃の境、鹽類泉にして硫黄を含み、神經病皮膚病に效あり 鉛温泉、西四里半、大湯より一里、馬車賃二十錢、泉質效能大湯に同じ、土地高燥にして豊澤川に沈む 鹽温泉、西北二里半、人力車賃四十五錢、鹽類泉にして鹽類質新、婦人病に效あり 瀧澤硫黄鑛山、東五里 矢澤村整理耕地、東二十一町 小山田青年館、東三里 米穀、薪炭、木材、硫黄、礫石 石鳥谷 いしどりや 三二五哩一 請ひづめ 三一八哩四 志賀里別神社、北十五町 陸岡 陸岡、北一里、河田次郎其主奏衡の首を齎して頼朝に獻じた處 木材、木炭 矢 幅やばば 三二三哩六 大養生金山、東三里十五町 岩手寶種冷蔵庫 東一町 水 仙北町 せんぼくちやう 三二八哩八 盛岡 盛岡よりをか 三三〇哩 北上河原の平野に在り、土地平坦にして中津川其中央を貫流し、適に岩手山を望む、もと南部と稱し、南部氏の城市であつた、今人口四萬三千五百人を有す、鐵器、木綿織を産し、特に南部鐵瓶名高く牛馬市亦盛である、驛は別に市の南部に仙北町驛を設く、岩手公園、東十四町、人力車賃十五錢、元南部藩の居城址、今拓いて公園とした、地に市の中央に當り、北西に岩手の秀嶺を望み、東は鑛山の奇峯

圖近附花巻



千 曳ちびき 四二六哩九 軍馬補充部七戸支部、南一里半 道の石文彦考地、西三十町 野池地のへち 四三〇哩四 陸奥の東南隅に在り、沿岸一帯は往古千符の浦と稱した處である、瀧を隔て、宇留利山を穿ち、其中腹の開通寺には慈覺大師彫刻の地蔵尊がある、野池地より汽車は海岸を經て、青森に向ふ、風光甚佳 馬門温泉、西一里半 青森理馬所、西八町 大湊、北二十三哩、汽船買一町 木炭、牛馬、帆立貝、米、蕎麥、かりばきは、四三哩四 小湊、こみなと、四四一哩 樽山、北三里、小湊半島の絶端に在り、嶺山脈を以て蔽ふ、橋神社あり 口廣青年團、東三里 格材、木炭、帆立貝、海山脈を以て蔽ふ、四四七哩四 淺瀬温泉地である、三面山を負ひて、北海に臨み、附島、磯島、瀧島等近く散在し、山光海色の美がある、瀧島へ渡船買四入まで四十五錢、六人まで五十五錢 〇久慈良餅



近附森青

野 内のない 四五〇哩六 驛前ライジングサン及スタントト石油會社の時油所あり 浦 町うらまち 四五五哩二 青森あをもち 四五六哩九 奥羽本線接續點、同線經由瀧島より三〇二哩三、青森溪頭に在り、開港場の一で、大正四年の貿易額輸出十一萬六千圓、輸入六十八萬八千圓あり、東北本線及奥羽本線の終點、北海道交通の要路で其間鐵道院經營の連絡船あり、四時間で商館に著する、汽船買一等三四、二等二圓、三等一圓である、市に人口四萬七千人を有し、林檎、海産物、帆立貝、鮎、木運轉部

工を産す 善知島神社、東九町 妙見神の櫻、一里三十町 合浦公園、東一里二町、馬車買二十錢 雪中行軍遺蹟記念碑、南一里三十町、人力車買四十錢、筒井村幸畑に在り、明治三十五年一月二十三日、山口少佐北門の重傷第五聯隊の精銳二百餘人を擄み、田代、田茂木野を經て三本木に至る雪中行軍を企圖し、途上田茂木野に於て大吹雪に遇ひ、悲慘壯烈なる死を遂げたる將士の英靈を祀る 八甲田山、南七里、登路饑餓湯温泉あり、山頂の眺望雄大、太平洋、青森灣、津輕海峡、日本海皆觸目の中に入る、其處より南して十和田湖に行くことが出来る 青森縣廳、東南八町 市役所、東南十町 農工銀行、東十五町 秋田木材會社青森製材所、西十町 大湊木材會社青森製材所、東三十町 ライジングサン製鐵所、東三十町 歌舞伎座、東二十町 徳風學園、東南一里、青森縣代用感化院である 青森市は青森縣廳所在地で、縣は本州島の東北端に位し、陸奥國の大部を占結して居る。三面海に臨み、下北、津輕兩半島北に斗出して其間陸奥灣を抱き其西南岸に青森市あり、北海の濶津となつて居る。那須火山脈は縣に入りて中部に八甲田山、北部に恐山を起し、西方津輕平野には別に岩木火山が屹立して居る、弘前市は津輕平野に在り、苹果の集散地として名高い。東部の平原は牧馬最盛にして三本木、七ノ戸の牧場殊に聞えて居る (大正四年)

青森 六七一、四四六圓 北海道 三三四、三五一圓

Table with 4 columns: Station Name, Distance, Station Name, Distance. Includes entries for 秋田, 山形, 香川, 岡山, 全圖.

山手線

(驛名の下に記せるは品川よりの哩程なり)

この線は東京市の西北東部を一周して、東海道本線と東北本線とを連絡せしむる線で、また近時異常の發展をなしつつある市郊居住者の市内に出入する恰好の交通機關であるから、この線を通じて東京驛より品川、新宿、池袋、田端を経て上野に至る直通電車を運轉して居る、池袋、赤羽間も同じく電車を運轉して居るが、これは新宿より赤羽直通のもの數回あり、其他は池袋にて乗替を要するのである。而してこの線經由の乗車券を以て、東海道本線、東北本線、常磐線を連續旅行せらるる場合は、普通品川、赤羽、田端、日暮里にて

乗換ふべきものであるが、旅客の都合上、東京、上野兩驛に乘降して其間を市内電車に頼るを便宜とせらるる場合は、東京品川間上野日暮里田端赤羽間別に賃金を拂はずして、東京上野兩驛より乘降することを得るのである

品川 ながは 東海道本線參照、同線東京より四哩三、神戶より三七二哩一 大 船 おほきき 一哩一 妙蓮閣、南六町 品川白煉瓦會社、東南五町 東洋製菓會社、東八町 中央屠場會社、東五町 五反田ごたんだ 一哩六 洗足池、南一里十五町、池畔勝海舟の墓、南洲翁留魂碑あり ラジウム泉浴場、東三町 黒めぐろ 二哩三 市南郊の好散策地 日暮不動、西九町、人力車買十五錢、堂後の丘陵に甘藷先生の墓あり 祐天寺、西北十四町 目黒鬼子母神、西北十町 淺岡の供養塔あり 奥溜の九品佛、西一里半 〇 栗 栗比賣 えびす 三哩二 大日本麥酒會社工場、東南七町 日本増場會社、東四町 麥酒、増場 澁谷 しぶや 四哩一 玉川電車の接續點 氷川神社、東四町 松陰神社、西一里九町、三軒屋まで電車六錢、社の後に吉田松陰、米原良藏、額三郎三郎等の墓あり、桂公の墓亦この近くに在り 玉川遊樂地、西一里半、電車十五錢 農科大學、西十五町 駒場農事試驗場、北半里 原宿 はらじゆく 五哩二 明治神宮建設地、隣附近、輸造營工事進行中である 代々木練兵場、南一町 代々木よ、ぎ六哩一 中央線萬世橋中

野間電車乗換へ 新宿しんじゆく 六哩五 中央本線の交叉點、京王電車接續點、中央本線萬世橋より五哩二、同名古屋より二四八哩六 淀橋浄水場、西北五町 淀橋雑草賣場、一町 十二社権現、西二十町 日本種苗會社、北八町 新大久保しんおほくぼ 七哩二 藤園、驛附近一帯 陸軍戸山學校、東十三町 高田馬場たかたのば、八哩一 穴八幡宮、東八町 早稻田大學、東十町 白めじろ 八哩六 雜司ヶ谷鬼子母神、東北七町 學智院、東三町 雜司ヶ谷雀橋 池 校いけぶくろ 九哩五 赤羽行電車乗換、武蔵野鐵道、東上鐵道の接續點である、武蔵野鐵道は所澤を経て飯能に至る線で、所澤は陸軍飛行場あるを以て名高く、小手指原の古戰場も亦近し、飯能は人間川に臨める名邑にて、附近天覽山、能仁寺、多峯山等の名勝あり、名栗村は飯能より三里を隔て、鬱蒼たる森林多し。東上鐵道は川越を経て坂戸町に至り、白子、膝折、鶴瀬驛の附近には遊覽に値する湖あり、川越には川越城址、名栗喜多院あり 學者塚、東南半里 〇陸軍大根 大 塚おほつか 一 〇哩六 王子電氣接續點 飛鳥山、北東二十二町、電車五錢 〇陸軍兵隊、東二町 養育院、東南七町 護國寺、東南十町 學者塚、東南十町 植物園、南十二町 東 鴨がも 一哩三 刺拔地蔵、西三町 關本時計ゼンマイ製造工場、東南四町 駒込こまごめ 一哩七 飛鳥山、半里 〇農事試験場、農業講習所九町 吉祥寺、十町 田端たばた 一二哩八 東北本線接續點、同線上野より二哩二、青森より四五哩七

常磐線 日暮里—岩沼 二二三哩二分

(驛名の下に記せるは上野よりの哩程なり)

この線は市内上野驛を發し、市外日暮里にて東北本線と岐れ、常總の平野を貫いて水戸に至り、それより太平洋岸に沿ひ、岩沼に至りて東北本線に合する大支線で、汽車は上野よりこの線を通じて仙臺へ二回青森へ一回の直通列車あり、其青森直通列車に頼れば、仙臺まで八時間、青森まで十七時間にて達するのである 日暮里より東北本線に岐れると、やがて南千住に至る、こゝは陸羽街道の首程で荒川を隔て千住と相對して居る、千

住は俗に北千住と云ひ、陸羽街道と濱街道との分岐點で、これより汽車は哈ど濱街道に沿うて走るのである、金町より小利根川を渡りて松月に至れば下總國で、小金ヶ原を過ぐれば更に大利根りの大鐵橋を渡りて取手に至る、佐貫はばや常陸國、これより汽車は牛久沼を左に見て女化原の荒涼たる高原の間を走る、高原を過ぐれば低地顯はれ、前に筑波の双峰を望み、眼下に浩蕩たる霞ヶ浦を見る、土浦は即ち霞ヶ浦の西岸に於ける繁華の地で、驛は直に湖光に接して風趣揃すべきものがある

水戸より以北は鐵路概ね濱街道に沿ひ、久慈川を渡りて海岸に近づき、其間幾多の海水浴場あり、多賀山脈の海に迫る所、小徒屋小岩壁多く松樹亂立して風情ある景致が多い、高萩、南中郷、磯原は無煙炭の産地で、緩、湯本の磐城炭と共に世に常磐炭と稱せられて居る、關本より一隧道を過れば勿來、地は既に磐城國で、岩石の起伏、松林の連嶺、波濤の掀翻、風光の美目を拭はしむるものがある、緩、湯本、平附近

は所謂磐城炭の産出地で車窓より其盛況を見る、ことが出来る、四倉に至れば再び海光に接し、木奴美ヶ浦あたり勝景が多い、久の濱より木戸に至る間は小隧道多く、木戸よりは更に金山隧道を過ぎて富岡に至る、隧道は長さ五四三〇尺常磐線中第一の長隧道である、大野以北は所謂奥州相馬の地、其首邑は中村である、新地に至れば三度海岸に近づき、亘理より阿武隈川を渡り、岩沼に至りて東北本線に接するのである 上 野うへの 此線の列車運行は皆この驛を基點とするので、便宜上哩程も上野驛より起算す 日暮里 につぼり 一哩四 常磐線の分岐點、東北本線參照、三河島 みかはしま 二哩一 喜樂園、北二町 三河島整理新地、驛附近 南千住 みなみせんじゆ 三哩四 王子電氣の接續點、驛の附近には東京種物會社、東京板紙會社、尼ヶ崎紡績工場、千住製紙所等あり 北千住きたせんじゆ 四哩六 東武鐵道交叉點 日本製革、製靴會社、共に西南十町 〇淺草紙、野菜賣物、郵便機 龜 有かめあり 七哩六、〇清籠村湖止村、北一里廿八町、人力車賣四十五錢 〇野添類 金 町かなまち 八哩七 京成電車の接續點 柴又あしたしんじゆ 南十二町、電車賣四錢、申の日を賑日とす、附近江戸川の風光佳 江戸川堤の櫻、東南十町 東京府農事試験場分場、北一町

筑波山附近略図



大、八州の山河帯の勢ひ全く雙眸の裡に在るのである、山上筑波神社、故山階宮殿下御經營の觀測所あり、霞ヶ浦、驛前に在り、本邦第二の大湖で周囲三十六里、北浦と通じ利根川に連絡して、長汀曲浦楚漢の風密佳麗なり、具に水國の美を備へて居る、沿岸には勝地多く、官幣大社たる香取、鹿島の兩神宮は著はすもがな、麻生の天王崎は湖野第一の眺望地として聞え、潮来は高滝吹の歌に名高く、加藤洲の十二橋亦古より聞えて居る、汽船實業生二十六錢、潮来三十錢、大船津三十四錢、大船津より鹿島神社へ半里である、佐原は利根川の要津、土浦より汽船實三十錢、本邦地理學者の泰斗伊能忠敬先生の出身地で、地圖、測量器等伊能家に傳へて居る、佐原より香取神社へ南三十町、立かむだつ四四哩九、縣境範農場、驛前、高、深、大かはま、四八哩九、霞ヶ浦に臨んで汽船便あり、穀物、規、石、洞、いしをか、五一哩一、もと府中と稱し、古へ常陸國府があつた、醤油、清酒の醸造地として聞え又穀物、蠶の産出多し、府中城址、町の西端、古の國府址か、附近總社神社あり、▼國分寺、町の北端、▼平福寺、西南十町、境内平國香の墓と云ふのがある、羽、鳥はどり、五五哩二、岩、間いはま、五八哩五、○木材、薪炭、炭、無ともべ、六二哩八、水戸線の分岐點、向線小山より三一哩三、内、原うちはら、六五哩八、赤、坂あかつか、六九哩三、水、戸みと、七三哩、水戸鐵道修繕場、もと徳川氏御藩の地、北に那珂川を控へ、南は仙波沼に臨み、舊水戸城址を中央にして、上市、下市の二つに分れて居る、今人口四萬三千二百人を有し、雲井煙草、水戸産、

○野菜、川魚、煉瓦、松戸まつど、一一哩二、江戸川の東岸に臨む、▼國府、南三十町、馬車實十五錢、▼千葉縣農事試験場、同園藝學校、東南八町、▼松戸競馬場、南四町、○野菜、甘藷、馬、糞まばし、一三哩三、流山輕便鐵道修繕場、▼萬壽寺、二町、仁王門の仁王尊は運慶の作で國寶となつて居る、▼流山、西北一里半、味噌の製造地として名高く、又醬油の産多し、輕便實金十錢、北小金きたがね、一五哩一、▼東漸寺、南四町、淨土宗の古刹、▼本土寺、北八町、○野菜、甘藷、柏、かしは、一八哩一、附近の廣野を小金ヶ原といふ、千葉縣鐵道はこの驛より分岐して野田に至る、實金二十錢、野田は醬油製造を以て名高く、聖樂公園、愛護公園、常敬寺等がある、同鐵道横田驛附近には横田整理耕地あり、同野田驛の北半里には、七福村野田町聯合整理耕地あり、○産、甘藷、皮革、我孫子あびこ、二、哩九、成田鐵道の接續點、同鐵道は故より成田に至りて二つに分れ一は佐原に至りて止まり、一は佐原に至りて總武線に接續する、成田山新勝寺、宗吾靈堂、官幣中社小柳門神社、官幣大社香取鹿島の兩宮等同線附近亦名所が多い、成田は即ち新勝寺の在る所で、單に成田不動といひ、東國第一の靈刹と稱せられ結核壯麗である、成田よりは宗吾靈堂へ電車の便あり實金十九錢、堂のある處は義民佐倉宗吾を埋葬した所である、小柳門神社は滑川驛の東南二十町、今別格官幣社に列し、藤原師賢を祀る、地は實に柳が墳墓の地に當つて居る、▼布施辨天、北三十町、人力車實二十五錢、利根川畔の丘上に在り、▼手賀沼、東南八町、沼畔子の神權現あり、風光の勝を占む、取、手とりて



霞ヶ浦の舟

二四哩七、故より水戸線下館に至る常磐鐵道あり、▼長福寺大師、東一町、利根川畔の風光を見るべし、▼板橋不動、北三里、馬車實三十三錢、堂階御産宏、大、本尊不動明王及二童子は國寶となつて居る、境内に寛政三博士の一人で名代官たりし岡田喜泉の碑あり、▼相馬古岡所、西北三里、平將門一時薨を岡東に唱へた遺跡、▼岡塚、西北一里、馬車實十二錢、櫻花多し、○米、酢、奈良漬、燈心、藤、代、ふぢしろ、二八哩四、▼岡塚、西北二里半、▼板橋不動、東北二里半、○米、蕨、生糸、佐、野、さぬき、二九哩七、故より龍ヶ崎に至る輕便鐵道あり、實金九錢、龍ヶ崎には土岐氏の城址がある、町の附近は古霞ヶ浦の水の浸した所で、地質學上頗る興味多い所だといふ、▼牛久沼、北七町、沼は開闢大凡五里、北に向つて変形を爲して居る、草菜を産す、牛、久、うしく、三二哩九、▼牛久沼葡萄園、東北三町、▼牛久沼園、西北二十町、▼女化稻荷、東一里、人力車實三十錢、女化原に在り、○新、牛久沼葡萄園、霞ヶ浦の西岸に在り、土屋氏、▼岡谷製糸場、驛前、土、浦、つちらら、四一哩、霞ヶ浦の西岸に在り、土屋氏の舊城下、霞ヶ浦に産する魚類、穀物、蓮根、霞ヶ浦の砂利等の産あり、公魚を名物とす、▼木田奈整、理耕地、西一里、▼筑波山、西北六里、北條まで四里二十町、馬車實四十五錢、山麓白井まで人力車實八十三錢、山は海拔二九〇尺、男體女體の二峯に峻れ、秀容真に親しむべし、而も四邊に之に次ぐの峰嶺がないので、四眼觀界湖



水戸及附近

水戸城址、五町、弘道館、五町、今其一部を第二公園とす、人力車賃十錢、館はもと徳川齊昭其祖義公の遺志を繼承して建て、藩中の子弟に文學を講じ、武術の教練を施した所、今は幼稚園となつて居る、園内鹿島神社あり、孔子廟あり、八段堂あり、堂内には烈公白鬚の弘道館記碑を建て居る、所謂水戸學の大本はこれにある、園内梅樹數十株あり清香昔のまゝである、常盤公園、西二十町、人力車賃二十錢、又第一公園と云ふ、烈公の經營に成り、好文亭あり、結構甚古雅、欄上を歩遊眺といひ、仙霞湖を下瞰し、近く櫻山と相對し、遙に筑波、加波の翠嶺を雲際に見ゆ、亭をめぐりて瀟瀟、萩、芙蓉あり、四季共に紅白妍を争うて居る、園の東北は即ち梅林で、この園の世に名高いのも亦此の梅あるが爲である、梅樹千株、幹枝蒼蒼として蒼苔厚く之を蔽ひ、松翠其間に點綴して雅致を添へて居る、園の下名高き水あり、別格官幣社常磐神社は園の東隣に鎮し、義公烈公を祀る、社殿清麗崇高、祠に近く舊彰考館書庫あり、大日本史の編纂もこれに頼つて成り、水戸學の基礎も之に頼つて成つた、本邦教育史上看過すべからざるもの、一である、▼福田東部の某、三十二町、人力車賃二十錢、▼太田、水戸鐵道の便あり、賃金廿五錢、水戸黄門光緒の隱栖の地として有名な西山は太田の西三十町、水戸家廟墓のある福山は北一里である、▼茨城縣感化院養蠶場、一里半、▼茨城

縣物産陳列館、六町、▼御大禮記念教育養考館、五町、▼茨城縣養蠶場、一里、▼茨城縣農事試験場、一里、水戸市は茨城縣縣所在地で、縣は常陸國及下總國の一部を管轄して居る、縣の南部は千葉縣に連れる平野で、鹿ヶ浦北浦等の湖沼多く水運漕漕の便あり、土地豊沃にして麥、大豆、蕎麥の産出多く、鹿島湖沿岸は鰯、鱈、鮭、秋刀魚等の漁利がある、縣の北部は阿武隈山脈連亘して、石炭大理石を産し、又日立鑛山ありて銅を産し金銀を鑛鍊して居る、久慈川、那珂川の流域には蘆草を産し、其集散地は太田である、石岡、土浦は鹽造業盛に、筑波山の北面よりは花崗石を出して居る、(大正五年)

Table with columns for location (府、縣、市、町、村), quantity (數量), and price (價格). Includes entries for 茨城、埼玉、香取、千葉、水戸、等.

Table with columns for location (府、縣、市、町、村), quantity (數量), and price (價格). Includes entries for 群馬、茨城、千葉、等.

Table with columns for location (府、縣、市、町、村), quantity (數量), and price (價格). Includes entries for 秋田、山形、青森、等.

金十錢、水戸の門港、犬吠崎と鹽崎との中間に位し、陸奥よりの漕運多し、附



連海 ね水 れ浴 る場

遊園町整理耕地あり... 大洗海岸、浪より三十町、人力車賃三十銭、海水浴地として有名である。後山磯前神社あり、日の出の眺望最佳、國幣中社に列して居る。▼平磯海岸、浪より東北半里、人力車賃二十銭、風光の勝あり、海水浴に適す、磯列磯前神社あり、國幣中社に列して居る。佐和さわ 七九哩三石 磯 いしがみ 八二哩一 ▼村松磯空磯寺、東南二十四町、人力車賃往復五十銭、海岸の砂上風景明媚の地に在り、毎年陰曆三月十三日の祭日には俗に「十三詣り」と稱し、齡十三歳の男女の参詣するもの多し。大 磯 おほみか 八六哩七 ▼泉ヶ森、北六町 ▼水木澤、東十二町、人力車賃十五銭、海水浴に適す ▼久慈海水浴場、南半里、人力車賃十五銭 ▼久慈町青年會、南十五町 ▼太田町、西二里半、馬車賃二十銭 ○鯉、鮎、秋刀魚、海産肥料 下 原 しもまご 八九哩六 ▼河原子海水浴場、東十町、人力車賃十五銭、馬車賃六銭 ▼鮎川海水浴場、北十五町、人力車賃二十五銭、馬車賃十五銭 ○甘藷、寒水石、石灰 助 川 すげがは 九二哩七 海水浴地として名高い、磯の附近助川、會 郷、宮田濱寄地である ▼日立磯山、西北一里半、磯山事務所、製煉所等あり 採掘所は事務所より一里を隔つ ▼日立製作所、西北廿町、規模宏大なり ▼助川セメント工場、西北三町 ○銅、金銀、電氣器具、機器具 セメント、大理石、葉黃 小水津をぎつ 九六哩一 川 風 かはじり 九八哩七 ▼豊浦、



平 附 近

ゆもと 一二六哩六 茲より小名濱及平に至る馬車鐵道あり ▼湯本温泉、西北三町 ▼小名濱海水浴場、東南二里、馬車賃十二銭 ▼磐城炭礦、西北三十四町 ▼入山炭礦、北半里 ▼品川耐火煉瓦工場、磯前 ○石炭、耐火煉瓦 磯 つつら 一二八哩八 本州第一の產炭地、いはゆる磐城炭はこの附近より出づるのである、磯の西方、古川合名、磐城鐵業、偶田川、磐城、津川、磐前 王城の諸炭礦あり ▼白水阿彌陀堂、西二十町、秀 衛の妹徳尼御前の建立にして、平泉光堂の模造、八 百年の古建築である ○石炭、粘土 平 たひ ら 一三一哩五 平郡東線の分岐點、濱街中水戸以 北第一の郡邑、濱街道と磐城街道との交叉點であ る、もと安藤氏の采地であつた ▼壽稱寺、東二十五町、浄土宗皇州總本山 ▼品川白煉瓦會社第一分工場、東北三町 ▼同第二分工場、南二町 ○石炭、木 炭、耐火粘土、煉瓦 平 野 くさの 一三四哩九 ▼鹽谷御燈臺、二里 四ツ倉 よつくら 一三七哩六 ▼木奴美ヶ浦、東十町、風光佳、海水浴地であ る ▼玉山温泉、西北一里廿六町 ▼八堂磯山、西北三里 ▼磐城セメント會社 工場、磯前 ○セメント、銅、魚介、鹽節 久ノ原 ひきはま 一四〇哩六 ▼設立醫師堂、南十五里 ▼海水浴場、東五町 廣 野 ひろの 一四五哩八 ▼高田、廣野炭礦、一里 ○石炭、木材 木 戸 きと 一四九哩二 能 田 たつた 一五一哩一 富 岡 とみをか 一五五哩四 ▼碓野煉瓦工場、十三町

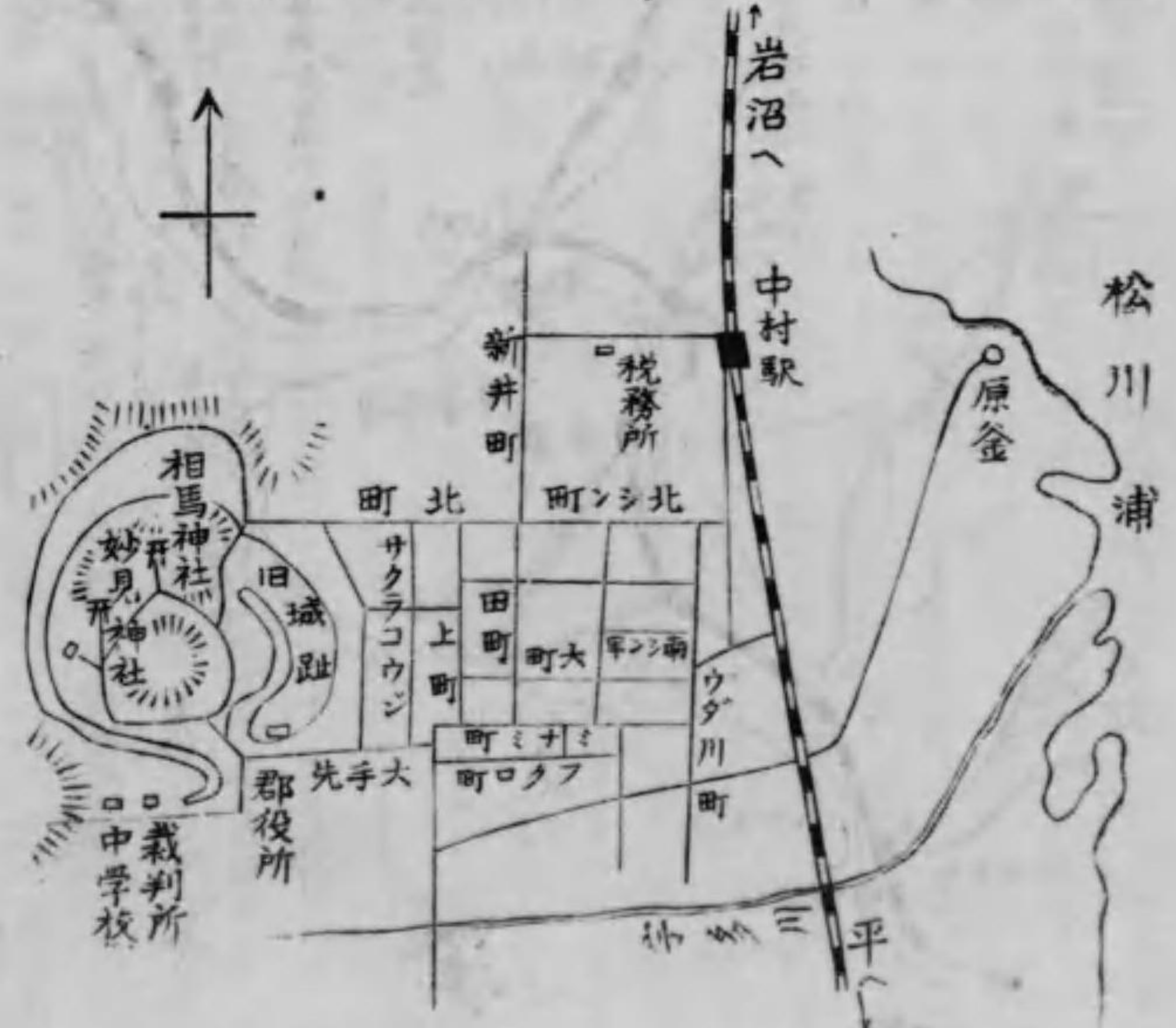
平 附 近 圖



海水浴場、東南二十二町 ▼廣部炭礦、半里 ○沢度、魚、鹽鹽辛、木材 高 たかはぎ 一〇二哩四 ▼千代田炭礦、西北一里十六町 ▼茨城炭礦、 西一里 ○無煙炭 南中郷 みなみなながう 一〇五哩二 磯 いそはら 一〇八哩 ▼天妃山、東北五町、大北川の河口にあり 風光甚佳、海水浴場あり ▼二つ島、東北半里 ▼茨城無煙炭礦、一里半 ▼茨城探炭、二里 ▼山口炭礦、 一里五町 ○無煙炭、木炭、木材 岡 本 せきもと 一一二哩四 ▼平磯、東 北半里、人力車賃十五銭、風光の勝を以て聞えて居る、地左右より脚角突出して 開門の狀をなし、海水深く潮入して壺形を爲して居る、右方の脚角には、船巖海 に沈んで醫師堂あり、左方の脚角には八幡神社あり、山秀で水端に、一島一脚角 佳趣あり、狩野派の山水畫を見ようである ▼大津海水浴場、十七町、人力車 賃十八銭 ▼五浦、東十七町、風光佳、鐘 磯 洞の奇勝あり ○魚介、沢度 勿 來 なこそ 一一五哩二 勿來馬車鐵道の接續點 ▼勿來開地、西南半里、 白河の開と共に、古陸奥に入るの開門、地は小丘の頂古松蒼鬱として居る、樹間 に木樨を纏らした碑がある、飛花銀袖に落ちて將軍拂はず、馬を立て、「吹く風 を勿來の開」と高吟したるはこの邊であらう ▼松川磯、磯東一帯の海濱、海 水浴場あり、風光佳 ▼三星、中村、二葉、三澤炭礦、西北一里十町 ○石炭 能 田 うまだ 一一八哩一 磯西二里、磐城探炭、茨城無煙炭礦、大瀨洞山あ り ○石炭、銅礦、木材、木炭 泉 いづみ 一二二哩六 小名濱馬車鐵道 接續點 ▼小名濱海水浴場、東三十町、馬車賃七銭 ○魚、海産肥料 湯 本

▼雙葉製糸會社、九町 ▼富岡羽二重會社、十五町 ▼四十八社山神社、二十町、大
 澤見命を祀る、古來船神として遠近の尊信篤し ▼牛谷果園園、廿五町 ○木
 材、木炭、煉瓦、馬 大野おほの 一六一哩六 長 坂ながつか 一六
 五哩二 ▼調戸海水浴場、東一里、人力車賃三十五錢、風光明媚の境、調戸明神
 あり ○木材、木炭 浪江なみえ 一六八哩三 ▼大堀相馬製鐵所、一里
 十町 ▼鮭孵化場、半里 ▼廣範村津島村葛尾村組合、四六里半 ○木材、陶器
 小高をだか 一七三哩八 ▼小高神社、北五町、相馬三妙見の一、人力車往
 復二十五錢 ▼相馬整練會社、西南十町 ▼羽二重組合工場、三町 ○羽二重、
 生糸、蕎、米穀 磐城太田 いはきおほた 一七六哩九 ▼太田神社、西北十五
 町、相馬妙見の本社である 原町はらのまち 一七九哩六 ▼太田神社、南
 一里、小高、太田、中村神社を相馬三妙見と云ひ、七月十一日より、十三日に亘
 りて、野馬追祭あり、相馬氏の祖平將門が八州の兵を下總小金原に集めて訓練し
 たるに瀧部し、中村町、原ノ町、小高町を通じて、南北七里に亘れる大祭典であ
 る、初日は原ノ町に集つて宵祭を試み、二日は雲野にて野馬を追ひ、三日は小
 高野にて野馬掛を行ふ、其雲野に於ける野馬追の隊列を見れば、純然たる古の
 武裝で、眼を刮せざるものはなからう ▼夜の森公園、西十町 ▼新田川鮭漁、
 東十町 ▼鮭人工孵化場、東二十町 毎年約三萬尾の捕獲あり ○木炭、木材
 鹿 かしま 一八四哩三 中村 なかむら 一九二哩一 相馬氏の舊城
 下、相馬城を遺す ▼中村城址、西十五町、相馬氏累世の居城の址なり、中村神

圖 近 附 村 中



社及相馬神社あり、相馬神社は藩祖利胤を祀り、中村神社は相馬三妙見の一に
 て境内櫻樹多し ▼松川浦、東三十町、人力車賃二十五錢、遊覧船四人まで一日
 四十錢、宇田川の河口開けて宛然一潟湖をなす所、江中岩礫星散し、小松島の風
 光をなして居る、全景收めて鶴の尾の夕顔観音より望見せらる ▼原釜海水浴
 場、東一里、馬車賃十八錢 ▼福島縣感化院薬陶園、西南八町 新地しん
 ち 一九七哩六 ▼釣師濱海水浴場、東十五町 ▼大和田水産養殖場、南一里
 坂 元さかめと 二〇一哩 ▼浪江、南二十八町 風光佳 置吉田 はまよし
 だ 二〇六哩二 豆 理わたり 二〇九哩三 ▼荒濱鮭漁地、東一里 ○茶、
 蕎、鮭、鮎 岩 沼 いはぬま 二二四哩六 東北本線との接續點、列車は東京
 より此線を通じて仙臺、盛岡、青森へ行くことを得、東北本線上野より二〇六哩
 二、青森より二五〇哩七

平 郡 東 線 平 — 小 川 郷 六 哩 四 分

平 郡山間開通後に於ける平郡線の一部で、郡山、小野新
 町間の西線に對して東線と云ひ、本年十月小川郷、小野新町
 間約一八哩の開通に賴つて全線開通を見る豫定である

平 大ひら 常磐線参照、同線經由上野より一三一哩五岩沼より八三哩一
 赤井あかみ 三哩 驛の西北畑子澤、品川、常磐、大倉、寶山の諸炭坑あり
 ▼赤井嶽薬師、西一里廿町、境内幽邃、眺望の勝あり、夏秋の候豊井川を潤る所
 調露燈を見ることがあり、甚美觀である ○石炭、粘土、煉瓦、梨果 小川郷を
 がはごう 六哩四 ▼豊井川鮭人工孵化所、東十町 ▼鹽場の瀧、北二里半、附
 近鹽園多し ○粘土、木材、木炭、梨果

高 崎 線 大 宮 — 高 崎 四 六 哩 四 分

この線は大宮より分歧し、高崎に至つて信越本線、兩毛線
 に接する線で、東北本線、信越本線の仲介線である、信越本
 線、兩毛線に至る列車の多くは、東京上野を基點として此線
 を通過することになつて居るのである、故に便宜上哩程は上
 野よりのを記した

大宮おほみや 東北本線参照、同線經由上野より一六哩六、青森より四四〇哩三
 上尾あげを 二二哩七 ▼秋葉神社、南一里廿七町 ○茶、甘藷 福川
 をがは 二二三哩九 ▼瀧櫻、西一里 ▼山田村整理耕地、南三里 ○甘藷、綿

市 河 川 二九哩一 勝 廟 寺、東九町 箕田八幡宮、北三十町 吉見の百穴、西二里半、自動車道三十哩、馬車道十八哩、本邦に於て有名なる横穴、穴の總數二百を超え、丘腹全面に規則正しく排列して居る 松山 流本青年會、西二里廿四町 上層子青年團、西四里 米、麥、甘藷、瓦

歌 上 ぶきあげ 三三哩六 茲より行田に至る馬車道あり 玉鈴山、南一里 青山塚、南西一里、武藏國造の墓と云ふ 行田、北一里九町、馬車道十二哩、足袋、織布の工場あり 足袋、青綿、コール天、白木綿 熊谷くまがや 三八哩 織物、米穀の取引盛に、名物五家製あり、人口二萬一千人を有す、町に熊谷製糸、林組、尾瀬組、片倉組の製糸場、松本製粉工場、埼玉製麵會社、荒川砂利會社等あり、秩父鐵道は茲より西南を指し、秩父銘仙の産地として名高い秩父町に達して居る 熊谷堤、南二町、櫻樹園、一里に長く花時其美觀を呈す、櫻樹園あり、三層樓の建物で、花季觀覽客の用に供して居る、花期四月七八日より十六日まで 池亭、西北八町、星川の泉源 熊谷寺、北西八町、熊谷運生坊、茲に草庵を結んで入寂したので名高い 聖沼聖天宮、北三里 上岡觀音、南一里、馬頭觀音として名高し 埼玉縣原種製造所、西北十町 水無村赤岩青年會、北三里 星宮青年會、東北一里十四町 上須戸青年會 北二里 嵐山重忠の墓、秩父線武川驛より一里、瀧原寺内に在り 長瀬、同 寶登山驛より二町、百尺の懸崖を鑿立して荒川に臨む所、流水大岩に遮ぎられて深淵をなすこと三町餘、秩父赤壁の名其實に負かず、鮎魚の遊地である 秩

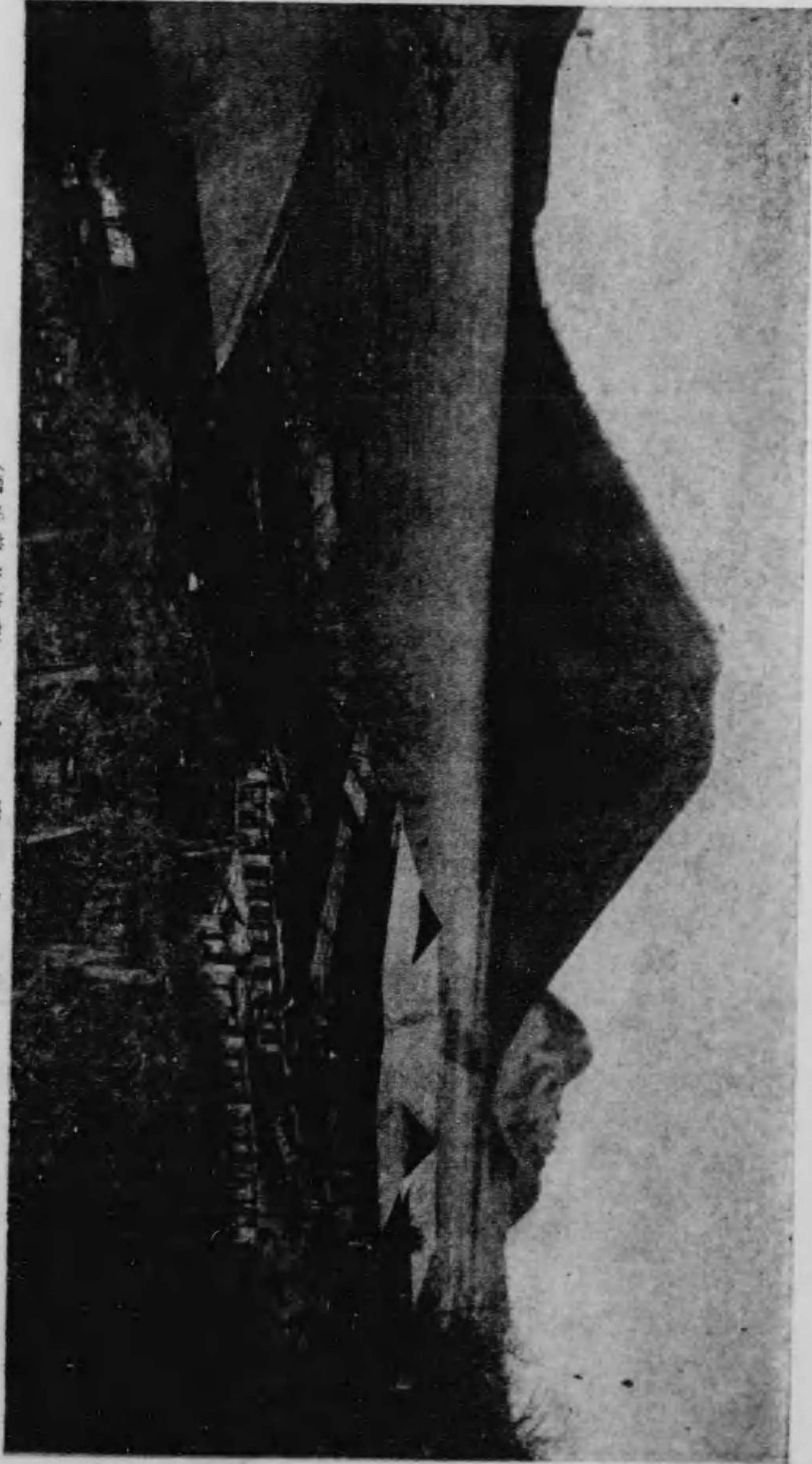


秩父の父

父神社、同秩父驛より二町、秩父町は秩父銘仙の産地として名高い 武甲山、大官より二里、秩父の龜山海拔四三三三尺、形狀秀拔、勇者の怒り立つて居るやうである、山頂の眺望甚雄大、關八州の名山皆眸中に入る 橋立觀世音、大官より一里、鐘乳岩洞があるので名高い 三神神社、大官より六里、三峰山上に在り、其境幽邃、其社宏莊武州第一の靈地である、詣道は荒川に沿ひ、兩岸盤駁高く對峙し、高さ四五丈より十餘丈に及べる處あり、奇景繪も及ばず、大官より山麓まで六橋を渡る、橋のある處必ず濁流懸崖の勢がある、これ實に帝都を貫流する隅田川の源、下流沿岸に住するものは一度は上流を窮めて、其風光を賞せねばならぬ 秩父三十四番の札所、大官町を中心として二里四方の地に散在して居る 鉢形村林、同鐵道客居驛より一里 埼玉縣模範林、同秩父驛より三里、横瀬村影森村に亘る

原 かとら 四二哩一 農事試驗所、東北廿町 深谷 ぶかや 四五哩一 深谷城址、北五町 忠茂櫻、西十三町 上敷面煉瓦工場、東北三十町 富國製糸場、西九町 開國製糸場、北一町 世良田村平塚青年會、北二里 煉瓦、生糸、陶、土器 同 都をかべ 四七哩七 烏龍寺神社、北十町 本 庄ほんじやう 五一哩二 茲より兒玉町に至る電車あり 金鑪神社 西南三里、馬車道二十四哩、武藏二ノ宮と稱し官幣中社に列して居る 兒玉町 南西二里、電車道十四哩 横瀬村秋平村、南西二里廿五町 玉町より人力車

山麓を流る名上れば草の花



山麓を流る名上れば草の花

質三十錢 新原じんほら 五三哩七 大和製糸場、北一町 原製糸

場、瀧瀬工場、西南三里半 桑苗、生糸、梨 新町しんまち 五六哩五 並

より曳石に至る馬車道あり 八沙彌泉、南三里半、馬車道二十二錢 鐘ヶ

淵紡績新町工場、北六町 公製糸會社、隣附近 桑切機械、ノイル糸、真綿、

真綿貯 金置野くまがの 六〇哩二 慈眼寺、東北三十町、櫻の名所 岩

鼻火草製造所、東十九町 高崎たかさき 六三哩、信越本線、兩毛線接續點



近 附 崎 高

河内氏の舊城下で、古來中仙道の要路に當り、今高崎線、信越線、兩毛線及上野鐵道、伊香保行電車の連絡點となつて居る、人口四萬四千人を有し、生糸生製、太鐘、繭の産出が盛である、赤坂、櫻名、妙義の三山通に市の東北西の三面に方りて聳え、展覧

雄大である 高崎公園、西南五町、烏川の清流に臨んで遙に淺間の噴煙を望むべし 大信寺、十町、境内駿河大納言忠長の墓あり 清水観音、西二十町、人力車賃二十錢、馳騁數十里に及び、淺間の噴煙、妙義の尖峰、碓氷、烏の清流、高崎市街皆一眸の下にあり、市附近景勝第一の地である 伊香保温泉、西北七里、電車賃六十四錢、二時二十分を要す、夏期は直通電車十三回あり、温泉は慶名山東麓に在り、人家帳に據つて眺てられ、乙種、甲種の上に聳え、丙種、乙種の上に聳して居る、風は絶佳空氣清冷、好箇の避暑地である。温泉の噴口は

伊 香 保 附 近 圖



(藤田源及戸永) 岩 嶽 池 大

藤原見入す、大洗橋、松が見入す、庄のへと、松が木、見入す、

前橋市地地圖



二嶽の下なる溪間にあり、瀧を伏せて各旅館の浴室に導いて居る。摩名湖は伊香保より登路二里、摩名火山の火口原湖で周囲約一里、海拔三千九百尺の高處に在り、水光一碧、山影投寫、明媚秀麗の趣に富んで居る。湖畔より山中の最高點摩名富士に登る途がある、山は秀美なる圓錐形をなし、三十度内外の傾斜を作して峻立し、湖面より高きこと八百餘尺である。湖の西北南には鳥帽子、餐籠、硯、掃部嶽屹立し、掃部嶽腹に摩名神社がある、祠邊には奇巖怪石多く、葛籠岩、觀音岩、雷電岩、大黒殿等最世に知られて居る。▼四萬温泉、而北十四里、遊川まで電車賃三十一錢、遊川より中條まで鐵道馬車五十錢、中條より四萬まで馬車賃五十六錢。▼河原湯温泉、西十五里、中條より馬車賃六十錢。▼草津温泉、西二十里、中條より馬車賃一圓三十錢。▼舊城址、西三町、今兵衛となれり。▼市役所、西三町。▼高崎織物市場、驛前。▼高崎織物市場、西北七町。▼高崎板紙會社工場、東二町。▼小島織工場、二十五町。▼高崎座、驛前。▼富岡製紙工場、上野鐵道富岡驛附近に在り、機織工場として名高し。▼寶前神社、同一ノ官驛附近に在り、國幣中社に列す。▼下仁田、同鐵道の終點にて水産、木材、礫石を産す。▼豊岡村青年會、西一里。

兩毛線 高崎—小山 五七哩一分

(驛名の下に記せるは高崎よりの哩程なり)

この線は小山より分岐し、足利、桐生、伊勢崎等の機業地を經、前橋を過ぎて高崎に至り、高崎線及信越本線に接する線で、列車は多く東京上野より大宮、高崎を經て小山との間に運行して居る、記事も高崎方面より始む



前橋附近

高崎 大かきき 高崎線終點、上野より六三哩。前橋 前橋まへはし 六哩二利根川の左岸に在り、南は関東平野を控へ、北は越後、東は下野に通ずる要路に當つて居る、松平氏の舊城市で、上毛生糸市場の中心地をなし、生糸工場十數、工女壹萬一千人あり、生糸、真綿、麥、新炭、竹細工を産し、今人口五萬人を有す、故より遊川、伊香保に至る電車あり。▼前橋公園、十三町、電車賃往復六錢、舊城址にして利根の清流に臨み、赤城、摩名、妙義の三山及淺間の噴煙を望む、園内公會堂臨江開あり。▼伊香保温泉、電車賃五十七錢、伊香保まで直通二回あり、他は遊川にて乗換を要す、記号高崎線参照。▼四萬、河原湯、草津湯温泉、遊川まで電車賃二十五錢、遊川より中ノ條町に至る馬車鐵道あり、中ノ條より四萬、草津、湯渡の各温泉行馬車に連絡す。▼赤城山、北六里、小暮村まで三里、人力車賃六十錢、山頂歌峰に分れ、中央に大壑ありて水を瀉ふ、これが火口原湖の大沼で、周囲約一里、四千六百尺の高處に在る、酷暑の時と雖、水霧は直に凝結して、

屢々湖面の露筋様相たるを見る、赤城神社は湖畔に在り、櫻津曲水の境である。沼の北に小黒池、東に大黒池、南に地蔵、西に鈴鹿峰聳え、鈴鹿の西更に荒山、鈴鹿山あり、其最高峰は大黒池で海拔六千二百四十七尺、上毛三山中の最嶺である、神社より三十町、頂上に達すれば、天高地闊氣宇頓に豪壯なるを覺ゆ

▼群馬縣廳、十二町 ▼物産陳列館、北西五町 ▼農事試験場、二町 ▼農工銀行、五町 ▼産業研究所、半里 ▼九交製糸會社、十三町 ▼共同製糸會社、十町 ▼九大糸工場、十町 ▼交水製糸工場、十四町

前橋市は群馬縣廳所在地で、縣は上野國を管轄して居る。縣は三面山を繞らし、唯東南の一面のみ平坦である。赤城、榛名兩火山中部に相對峙し、西南部の妙義の奇峯と聳立して居る。縣下一般に養蠶、機業甚だ盛に、前橋は繭、生絲の市場をなし、伊勢崎は銘仙を以て名高く、桐生は關東第一の絹織物産地として知られて居る。

●輸出向タフタ及琥珀類の産地 (大正四年)

群馬	一、六七七、〇八〇圓	栃木	四五五、八八八圓
京都	一〇〇、〇〇〇圓	富山	一四、九五三圓
計	二、二四七、九二二圓		

○石炭 野きの 四〇哩五 東武鐵道接續點 ▼古城山公園
北三町 ▼唐澤山神社、北一里半、人力車賃三十五錢、藤原秀郷を祀り、別格官幣社に列す、山は秀郷の居城で、風景絶佳遊覽甚佳 ○綿布、織器
いはふね 四五哩 釜より三町に至る人車鐵道あり ▼岩舟地蔵尊、北八町
○石炭 釜山とみやま 四七哩六 新木とちぎ 五〇哩三 人口二萬四千人を有す、釜より鍋山に至る人車鐵道あり ▼錦着山公園、北二十町 ▼太平山公園、西一里、山上太平神社あり ▼綿織製造會社、北十三町 ○米、麻、瓦、石灰、燧燧灰 思川おもひがほ 五三哩七 ▼思川鮎漁、東二十町
○砂利 小山をやま 五七哩一 東北本線及水戸線の接續點、東北本線より四七哩九、青森より四〇九哩、水戸線友部より三一哩三

業組合、南十町 ▼名和整理耕地、南三十町、一千町歩に上る ○伊勢崎銘仙、桑切器 國定くにさだ 一七哩七 ▼長岡院、十五町、國定忠治の墓あり ○桑苗木 啓窓いはじゆく 二二哩七 ▼飯塚温泉、南一里十五町

○石灰 桐生きりふ 二四哩二 關東第一の機業地、産額一千三百萬圓に及び、京都西陣と相匹敵するに足る、足尾線の分岐點である、人口三萬四千人を有す ▼桐生天満宮、北十五町 ▼西の宮神社、北十町 ▼桐生製糸會社工場、南四町 ▼兩毛製織會社工場、南半里 ▼東洋織布會社工場、南半里 ▼桐生織物同業組合、北四町 ▼桐生高等織造學校、北十五町 ▼桐範村境野村、南廿八町 人力車賃二十五錢、機業地にして年産額百三十萬圓に上る ○絹織物、わさび漬 小保をまた 二七哩七 ▼鶴足寺、北十五町 ▼岩切浦備前山、東北二里三十町 ▼飯塚織物工場、西南一里十町 ▼桐範村境野村、西北廿五町、人力車賃廿五錢 ○絹織物、花崗石 山前やままへ 三〇哩四 足利あしかゞ 三三哩三 足利氏物興の地、渡良瀬川の北岸に在り、機業地として世に知られ、人口二萬九千人を有す、附近織物同業組合、木村織物工場、山保毛織物會社、足利製糸會社、足利織物會社等あり、絹織毛織物を産す ▼足利學校の遺跡、西四町 ▼大日堂、西五町、金剛山鐵阿寺と云ひ、足利氏の創立、堂宇壯麗、古蹟が多い ▼足利公園、西二十町 ▼行道山、西北二里、人力車賃三十五錢、山頂淨因寺あり、關東有数の靈刹である 富田とみた 三七哩七 釜より出流原に至る輕便鐵道あり ▼石尊瀧、北半里 ▼出流の岩窟、北一里半、輕便鐵

足尾線 桐生一問藤 二七哩四分

この線は云はゞ足尾銅山鐵道である、桐生を後にすれば、汽車はやがて赤城山麓を縫うて渡良瀬川の溪谷に入るので、青嵐時に窓に襲うて山氣透徹、心氣自ら爽なるを覺ゆる、原向驛を過ぐれば展望稍廣く、足尾銅山は既に眼前に見ゆるの

(驛名の下に記せるは桐生よりの哩程なり)

赤城山附近圖



である

相生 三丁目 同毛線接続点、同線高崎より二四哩二、小山より三二哩九
相老 あひおい 一哩九 東武線接続点 **大間々** おほま、四哩六 **高津**
 戸の地、東三町 **赤** 施業森林、二里 **元三太郎**、西四町 **上** 山より
 かんばい 七哩八 **梨木** 鑛泉、北西一里、垂馬貫四十五錢 **赤城山**、北三里
 梨木まで一里、人力車 二人曳九十錢 **水** 沼みづぬま 一〇哩五 **赤城山**
 北西二里半、赤城登山の最遠路である、徒歩約四時間を要す、記事前橋驛参照
生系、木材、木炭 **花** 輪はなわ 一三哩一 **備後**、庭石、玉石、木炭、
 木村 **上** がうど 一六哩四 **清水寺** 観音、北七町 **釜戸** の奇跡、東十
小 中山施業森林、一里 **座間** 施業森林、二十町 **木炭**、材木、木材
入 をおろし 二〇哩八 **草人塔**、腰廻廻石、西一里半 **渡良瀬** 興業會
計、北一町 **運入** 施業森林、一里 **花崗石**、石灰石、木炭、満橋粉
原 向はらむかふ 二四哩一 **庚申山**、西北三里、途中銅山小淵まで一里、
馬車 貫十錢 **足** 尾あした 二六哩六 **足尾銅山**
 所在地で人口三萬三千人を有す、銅山は最近産額一萬噸に達し、足尾鑛山所、製
 煉所、鑛山所等あり **庚申山**、西三里 **古** 崎ヶ原、東三里半、内一里馬車貫
 十錢 **日光** 照宮、北東六里半、内二里、馬車貫十錢、清浦より日光まで電車
貫 二十一錢 **銅**、まぶき、金の共 **關** 藤まつり 二七哩四 **中** 禰寺、北
 四里、上り三里、夫より船の便あり、賃金三人六十錢

水戸線 小山—友部 三二哩三分

(驛名の下に記せるは小山よりの哩程なり)

この線は小山より分岐して友部に至って常磐線に接する線
 で、列車は多く友部より常磐線に入りて水戸まで運轉せられ
 て居る、即ち小山より水戸に至るべき線であるから水戸線と
 云ふのである

小山 をやま 東北本線接続点、同線長野より四七哩九、青森より四〇九哩
結 城ゆうき 四哩三 水野氏の舊城邑、結城本郷、米、麥の産地とし
 て名高い **稱名寺**、西北四町、結城朝光の墓あり **五日** 庵の廟、十町、人力車
 貫十錢 **源** 齋禪師の墓、十町、人力車貫十錢 **川** かはしま 六哩七
原 齋禪師の墓、南十三町 **伊** 賀美原整理耕地、三十町 **銅** 子、砂利
下 館しもだて 一〇哩三 石川氏の舊城邑、眞岡輕便線の分岐点、常磐線道
 の接続点である **筑** 波山、東南五里、大島まで四里半、馬車貫三十五錢 **開**
 城址、南二里、北島親房の據つた所 **長** 讀當年同志會、東南二里半 **米**、
新 竹にひはり 一四哩一 **岩** 田いはせ 一八哩五 **富** 谷觀世音、北半
 里、人力車貫十五錢、僧行基の開基、其三重塔は天平以後の古建築である **雨**

引見世音、西南一里半、人力車貫二十八錢、山櫻多し、花期四月十日より十五
 日まで **加** 波山、西南二里半 **大** 泉石炭場、西北一里 **米**、麥、石材
羽 黒はぐる 二〇哩六 **磯** 部の櫻、十町、古より名高い櫻川は笠殿、櫻の
 ある處は木花、咲き廻るに起つた境内で、社前の馬場に老木が多い、謠曲にも出て
 居るが、紅花櫻、句櫻、毛櫻等、東北地方の固有なる櫻の變種が集まつて居
 る、花期は四月十五日より二十日迄まで **大** 覺寺、一里 **花** 崗石 **福** 原
 ふくはら 二三哩四 **花** 崗石、庭石 **田** いなだ 二五哩一 當地一帯花
 崗石を産し、年々此縣より搬送するものもにても四萬噸を下らず **西** 念寺、
 西北八町、親屬上人一宗開立の基を始めた地、門徒の最神聖視する所である
玉 日橋房の墓、三町 **花** 崗石 **笠** 田かさま 二七哩一 牧野氏の舊城邑
 である **笠** 田稻荷、北十三町、俗に細下稻荷又は紋三郎稻荷と呼ぶ、社宇宏
 壯賓客の多き成田不動と稱せらる **共** 懸園、西北二十五町、人車軌道貫三錢
笠 田整理耕地、隣附近 **陶** 器、木材、胡桃芋菜 **戸** ししど 三〇哩三
友 部ともべ 三一哩三 常磐線接続点、同線岩沼より一五一哩八、同線經由
 東京上野より六一哩八

眞岡輕便線 下館—七井 一七哩七分

(驛名の下に記せるは下館よりの哩程なり)

この線は田野の間を走る平坦線で、眞岡附近の米穀、七井
 地方の櫻草輸送鐵道とも云ふべきものであるが、高僧哲人の
 遺蹟沿線に點在するので、曳杖の遊客も亦尠なくはないので
 ある

下 館しもだて 水戸線接続点、同線小山より一〇哩三、友部より二一哩
折 本をりもと 二哩九 **久** 下田くげた 五哩四 **寺** 内てらうち 七哩
九 高田山尊修寺、一里、人力車貫三十五錢、親屬上人東國化達の古蹟、後伊勢
 の一身田に移つた、同派を高田派と稱するは、此地名に因るのである **二** 官尊
 徳翁の遺跡、三十町、人力車貫三十錢 **眞** 田まをか 一〇哩三 眞岡本郷の
 産地として聞えたれど、今僅に其名残を留むるに過ぎず **西** 田井にし
だ 一三哩二 **笠** 田かさま 二七哩一 **陶** 器製作所、二十町 **益** 子
七 井な、あ 一七哩七 附近煙草の産地多し **煙** 草、石材

日光線 宇都宮—日光 二五哩一分

(驛名の下に記せるは宇都宮よりの哩程なり)

本線は本邦有数の名勝地たる日光に至るの線で、上野日光
 間七回の直通列車あり、約四時間乃至四時間半にて達せらる

るのである

【字】 宇都宮より東北本線接続、同線上野より六五哩八、青森より三九一哩一、【田】 つるた、二哩九、宇都宮石付軌道の接続点、大谷観音、西北二里、人車鐵道十八錢、宇都宮兵器支隊、東北十六町、大谷石村、【産】 八哩八、三日神社、西南一里、古塚ケ原神社、西七里、馬車賃四十八錢、帝國製麻鹿沼製品工場、三町、○ 漆器、麻織物、麻糸、【文】 神、【地】 小百、幸嶺山、高德金山あり、二宮尊徳翁墓及報徳、東、東二町、川治温泉の勝景、北二里、軌道賃十三錢、麻屋温泉、瀧の温泉、北三里半、【物】 日光電氣精製所、西二里、西深金山、西北八里、足尾銅山、細尾尾由六里、清瀬まで電車二十一錢、夫より四里、中禪寺經由八里、日光附近電車人力車賃、電車神橋七錢、精製所前二十一錢、馬返三十一錢、人力車神橋十二錢、山内廻り往復四十五錢、馬返五十五錢、中宮祠二人鞍二圓、往復二圓六十錢、湯本二人鞍三圓五十錢、自動車五人乗神橋二圓五十錢、馬返し五圓、社寺拜觀料九十錢、○ 精製鋼線、金礦石、麻、漆器、日光羊羹

日光の一區は本邦山水美の鍾まる所、峯巒あり、瀑布あり、湖水あり、溪澗あり、荒原あり、温泉あり、之れに加ふるに殿堂樓閣の美あり、自然の秀麗、人



水山の光日

工の精華、相俟つて雙美の盛名を獨占して居る、宇都宮より日光線に入り、例幣使街道の古杉蒼鬱たる間を走ること數里、文挾驛に至れば、一帯の山嶽既に車窓の眺に入り、今市驛に至れば山容いよ／＼明に、男體山の偉大なる姿、高く群峰中に挺立して居るを見る、日光驛に下車して、坂道一路鉢石町を過ぐれば大谷川の急瀾あり、左に神橋を穿む、朱欄金珠、碧水に映じて綺麗繪を見るやうである、橋を渡りて左へ長坂を登れば、右に輪王寺あり、正面は即ち別格官幣社東照宮である、寺は即ち古の日光門跡で三佛寺あり、往時の金堂で偉大なる建築である

寺を出で、老杉の間を行けば、石の鳥居高く眼前に聳えて、其西に五重の塔がある、門を三つ三神庫、御水屋を過ぐれば、金碧を盡したる陽明門、既に數歩の前に現はれ、人をして思はず躍若たらしむる、門は三手先造四方唐破風造、柱は皆觀の白木の圓柱、天井には狩野探幽守信筆の昇龍、降龍の畫あり、墨汁淋漓天下の逸品である

陽明門を距ること數間唐門がある、四方唐破風造で、正面破風上の屋棟に唐銅で製した悉と云ふ龜の形を装飾してある、門の左右一道の欄干あり、長く木殿及拜殿を圍み、鍍金を以て疊んだ五級の殿階直に拜殿に通じて居る

拜殿は其結構更に壯麗、黒、鐵色の高欄、及び清浄、物金だ、みの殿内の柱、高彫金で彩色した承塵、唐草の詩繪を畫いた唐戸、折檻二重に重ねた格天井、



其の内に敷いた緋青色の九龍、景園の上に掲げたる廿六歌仙の額、探幽の筆に成つた東西の樓、舞殿と石の門に昇したる雄朱の燈柱等、その美を盡せる到底筆紙に盡すことは出来ない。唐門を出でて左すれば奥の院の入口に瑞門あり、其上に刻める眠猫は左甚五郎の作と傳へて居る、それより長さ大凡一町半ばかりの石階を登れば東照宮の真社がある、寶塔は其拜殿の正面にありて、家康の英靈は長へに並に眠つて居るのである。

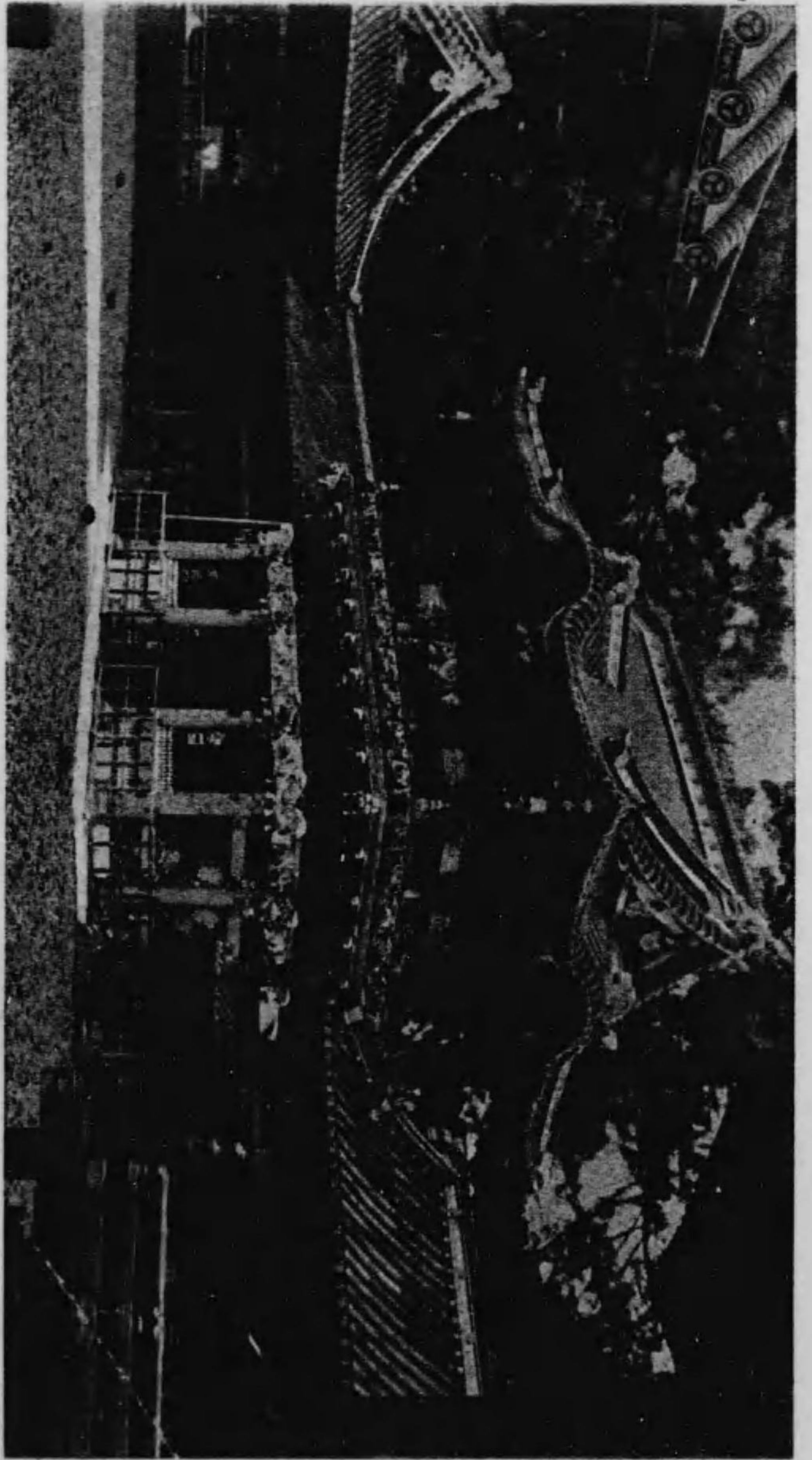
東照宮の裏門を出で、西に一町ばかり行くと、二荒山神社、社は大己貴命を祀り、一千年の古社で今國幣神社に列す、本殿拜殿共に總朱塗、兩妻千鳥破風、二軒簷である、境内に在る唐銅燈籠は世に名高き化燈籠で今國寶となつて居る。社前の石階を下れば、常行堂、法華堂、相並びて立つて居る、二堂の間より更に古杉蒼鬱たる間を過ぐれば慈眼堂がある、天海僧正の墓で、近年其近くに北白川宮の廟を築造した。

大猷院廟は三代將軍家光の遺骨を葬つた處で、東照宮と共に其殿室の美を以て聞えて居る、常行、法華二堂を西に距ること數十間、二玉門を入りて御手洗屋を過ぐれば、石階の上に二天門が聳えて居る、丹塗にして處々に黄金を飾りてある、鼓樓、鐘樓を過ぐれば、夜叉門、丹塗黄金を以て之を飾り、左右の欄其美麗である、唐門は其構造東照宮と均しく、鏤刻の精あり、采畫の妙あり、瑞籬の拜殿を圍繞せる、黒耀色の殿階を設けたる等、皆東照宮と同じである。

の木像を安んじ、格天井は緑色、格子の内は百間百色、紺地は金の婚調を彫刻し、景園は花鳥を刻して金の彫色を施してある。正面の破目には金地に獅子を畫き、彦頭には二十四個の鍍金の釣鐘をかかげてある、ことに金色煙燭として、殆ど人目を眩するばかりなのは、中央にかかげられた金製の天蓋で、其下に金梨子地の高机及び三具足の美を盡したのを据えてある。本殿は佛殿造二重屋根で其の周圍は朱塗の欄と黒漆の縁とで透らしてある。唐門を出で、更に右の瑞籬を過れば、龍宮に擬した皇嘉門あり、これより奥の院に行くのである。

景園の拜觀がすんだならば足を蒲團りに向くるがよい、霧降、各瀧、裏見、ほうとう、はんやけん、ぬのび、しる、とりお、相生等、晃山七十二瀑と云つて居るが、中方等、般若、華嚴、布引、白練、相生等、晃山七十二瀑と云つて居るが、其に最偉觀なのは華嚴である、瀑は即ち大谷川の源で、中禪寺湖水の決する所、其初めて落つるや、一曲また一曲、之字の様をなして流下すること七八町、大岩缺くる所直下四十丈、草木震動して巖石砕けむとし、餘沫霧となり、驚動として梢嶺に上り、去つて雲となるのである、石間に岩罅あり、水煙を破りて翺々して居る。中禪寺湖は日光より四里、華嚴よりは十數町のみ、湖は東西二里、南北三十町、水光一碧拭へる鏡の如く、倒瀾の四山、浮遊の閑雲、法洋として畫も亦及ばず、湖上舟を泛べて遊べば身も亦畫中の人となるのである。(1)レーキサイドホテル前より歌ヶ濱を経て中宮祠前に至る、和船五人乗六十錢、モーターボート十人乗一四七十五錢。(2)同所より歌ヶ濱、上野島、松ヶ崎を経て中宮祠前に至る、和船一圓、モーターボート三圓。(3)中宮祠前より菖蒲ヶ濱に至り門頭湖見物の

あちたふと青葉若葉の日の光



あちたふと青葉若葉の日の光

線光日 門 明 照 宮 東

この線は平、郡山間開通後に於ける平郡線の一部で、平、

平郡西線 郡山—小野新町 二八哩三分

(驛名の下に記せるは郡山よりの哩程なり)

上中官前前に隣著、和船一圓、モーターボート四圓、外に和船貸切半日一圓、一日一圓五十錢、モーターボート一時間三圓、湖周遊約二時間半六圓である。湖畔には又櫻田多く五月中旬花を開く、花は多く、紅梅で東京附近の白い花を見た目にはなかく、に珍らしくて美しい。中官前も湖畔に在り、祠背より男麓山に登るがよい、山は日光連山の主峰で、海拔八千二百尺、眺望甚壯快である、夏期登山者が多い。湖の北岸に沿うて一里すれば富河ヶ濱、夫より地獄川を渡り、龍頭灘を過ぐれば、戰場ヶ原である、原は夏初に至りて漸く春の時氣を得、百花一時に開き、爛漫として花餅を連ねるので、植物採集家の寶庫とする處である。原の盡くるところは古賀谷で湯淵は森林より歌町の奥にある、湯に沿うて急坂を上れば、幽寂なる湯ノ湖更に一景を開いて風光の美をなして居る、湯元温泉はこの湖畔にあり、中禪寺より此に至る道程三里である、地は後に白根山、温泉ヶ嶽を貫ひ、前に湯湖の青藍を望んで居る、旅館は毎歲除日四月八日より九月八日まで客を引き、其餘は家を閉して去るのである、海拔四千尺、盛暑尙輕涼を覺ゆ

尻内しりうち 東北本線接續點、同線上野より三九七哩七、青森より五九哩

八戸線 尻内—湊 五哩一分

(驛名の下に記せるは尻内よりの哩程なり)

小川郷向の東線に對して西線と云ひ、本年十月小野新町、小川郷間約一八哩の開通に賴つて全線開通となす豫定である。郡山 二ほりやま 東北本線岩越線接續點、東北本線上野より一三九哩四、青森より三一七哩五、岩越線新津より一〇八哩二 木まふき 三哩六 三 春 みはる 七哩四 秋田氏の舊城邑、良馬の産地として有名な地である。舞鶴城址、東南廿三町 三春公園、南二十町 湖の櫻、東南一里二十五町 〇川系、野斗系、木製子育駒 船引ふねひき 一四哩四 常葉町、二里、燕窩及馬を産す 片倉根製糸會社、三十町 大 池 おほこえ 一九哩四 遠谷の鹽、東南一里半、又鬼の穴とも云ひ、大船根山の中腹に在り、往古會原鬼五郎の住んだ所、田村將軍東征の際之を討滅したと傳へて居る 大越整理耕地、驛附近一帶 〇生石灰、大理石、石綿 小野新町 かのにひまち 二八哩 谷の鹽、東北一里 〇煙草、馬、薪炭、石材 三 東室山觀世音、西北一里十町、坂上田村麿、夷の爲に獲ひたる愛馬を祀る馬の神として遠近の尊崇篤し 〇薪炭、木材、麻



(華光日) 湯 巖 華

泉山勝望甲天下、華巖瀑布冠昇山、偉哉造物工夫作巖泉、更作大湖遊其間、湖決一隅如天缺、水勢奔騰大澤懸、一落千丈又萬丈、怒濤撼地雷轟聞、是亦非水雪非雪、亂爲玉散爲烟、山日倒射溪風激、使人耳聾目眩心膽寒、小野湖山華巖瀑布歌前半

二 八月はちのへ 三哩四 元南部藩の支封地、馬淵河口の南に位し、土地豊饒にして近く鼓港あり、海陸の交通便利である、此地菊の栽培盛にして、特に大輪菊花名高し ▼三八城神社、南二町 ▼長 香山公園、南五町 ▼八幡八幡宮、西一里半 ▼是川桃林、東南一里 ▼館鼻、東三十町、眺望の勝あり ▼白銀海水浴場、東一里半、▼鼓浦、東一里三十町、海水浴に適す、蘇島の勝あり、

○石灰石、木炭、海産肥料、魚類 産 みなと 五哩一 ▼鼓港、東三十二町、東洋捕鯨會社の鯨鯨解体場あり、海濱は海水浴に適す、蘇島は海岸を距る三町餘、全島無草を生じ、春時草花青波と相映じて美觀を呈す ▼水産試験場傳習部、東五町 ○魚類、海産肥料、石灰石、大理石、鯨、木材、水産、軸木

氣 象

地名	氣温平均	同最高	同最低	降雪量	風平均方向	快晴日	曇天日	降水日	暴風日
筑波山	四九.五	八六.四(四二年)	一一.一(四二年)	一四一.八	南	五三	一四三	一七二	二六六
水戸	五五.二	九四.三(三六年)	一〇.九(四二年)	一六二.六	北東	六一	一三五	一六二	四三
小名濱	五四.三	—	—	一四七.〇	北東	三九	一六五	一六〇	三四
熊谷	五六.八	九六.八(四二年)	一六.五(三七年)	一六八.五	北西	六一	一六〇	一五二	六三
前橋	五六.三	九六.四(四二年)	一五.六(三九年)	一五三.四	北西	四七	一三九	一五八	一四五
足尾	五〇.五	九六.四(三四年)	一一.五(三五年)	二一三.五	南東	二七	一六〇	一九〇	三一

(大正四年) △印は零度以下

うきことは珍らしからぬ身なれども旅にも袖のぬれまざるかな 俊頼
胸なづむいはきの山をこえかれて人もこぬみの濱にかもれむ 定頼
朝まだき山路こえゆく旅人の小笠にあまる木々の下露 涌蓮
やどりしてわれも一夜の松がねをわかるゝ岸の横雲の空 宣長
わが爲にうたぬ砧の音きけばいと々寒けき草枕かな 契沖

信 越 線



信越線とは

一信越本線 高崎、新潟間、二〇三哩六分
一村上線 新潟、村上間、三六哩九分

の總稱で、其本線は高崎を起點として、長野、直江津を経て新潟に達して居る、列車は東京上野驛より高崎線を通じて新潟に直通するもの二回あり約十二時半を要し、別に上野より直江津を経て北陸線金澤に至るもの一回、同上野より北陸線を経て山陽線明石に至るもの一回、新潟より北陸線を経て山陽線姫路に至るもの一回あり、上野、金澤間約十六時間、上野、明石間約二十八時間、新潟、姫路間約二十五時間を要す

高崎は先に記せる如く、正に上毛三山の觀望臺とも云ふべ

く、烏川を渡り碓氷川に沿うて磯部に至れば、妙義の奇峯殊に明に車窓の眺に入るのである、松井田附近は最妙義の崎嶇を見るに適し、金洞金雞兩山の間に聳ゆる蠟燭岩の奇狀を呈するあり、白雲山の山腹に在る妙義神社の森林、及それに連りて逶迤たる妙義町の人煙も、注意深き旅客の目には映ずるであらう

碓氷峠は坂東平野と信濃高原との通路に當り、古來申仙道第一の天險と稱せられて居る、今鐵道は山麓に横川驛を置き、中腹に熊ノ平驛を置き、峠を横斷して信州の輕井澤に至る、其間七哩、我邦鐵道線路中第一の難所で、アプト式鐵道により十五分の一の傾斜線を登り、二十六の隧道を出入し、忽ちにして明、忽ちにして暗、一時間半にして二十六晝夜あり、

此間仰ぎては峻嶺を望み、俯しては深谷に對し、嵐氣捲曳、白雲空湧、坂東平野の平凡なる景色に倦んだ旅客をして、襟を披いてこれに向はしむるの趣がある、嶺上には楓樹多く、秋錦繡を織るの時最美麗である、近年横川輕井澤間に電氣機關車を使用することになったので、往時の如く車内煤煙の侵入に惱まざるゝことなく、心靜に此風光を觀賞することが出来るのである

輕井澤は碓氷峠の西麓の高原、海拔實に三千八十尺、中央本線の富士見驛と共に、本邦に於ける最高停車場の一である。これより汽車は右に淺間の煙を見つゝ走り、上田よりは千曲川に沿うて下り、川中島を過ぎて長野に至る、此間坂城、戸倉、屋代のあたり、右に鏡臺山あり、左に冠著山あり、姥捨山あり、風光甚佳である

長野を後にして柏原に至れば南に飯綱、北に妙高、西に戸隠、東に斑尾、各數里を隔て、對向し、黒姫其中央に在りて驛の前面に聳立し、思はず人をして車窓を開かしむるのであ

る、特に大雪の朝左窓より望めば、山高く野潤く、滿目皓々世に稀なる壯觀を現する。柏原より信越の境を超えて田口、關山に至る間は、冬季積雪甚しく、汽車亦しばしば進行を阻止せらるゝので、所々に雪除け隧道を設けてある、田口に至れば妙高山正面に聳えて、富士式の山容秀麗である

直江津より、鐵路右に折れて日本海岸に沿ひ、米山の麓を縫うて柏崎に至る間眺望潤大である、鉢崎を過ぎてよりは狂瀾鐵路に逼り、飛沫時に車窓を打て、列車波浪の隧道に入るの趣がある、中に青海川驛附近勝景第一と稱せられて居る、柏崎よりは海岸に離れ、やがて信濃川の流域なる越後平野に出で、石油市の名ある長岡、及三條、新津を経て新潟に達するのである、新津よりは東して郡山に至る岩越線あり、北して村上に至る村上線がある

信濃路や宿かる家の葺棚 子規
角つゝむ越後の牛の寒さかな 北山

(大正四年)

Table with 4 columns: 地名 (Location), 氣温平均 (Average Temperature), 同最高極 (Same Maximum), 同最低極 (Same Minimum). Rows include 長野 (Nagano), 加茂 (Kamo), 新潟 (Niigata).

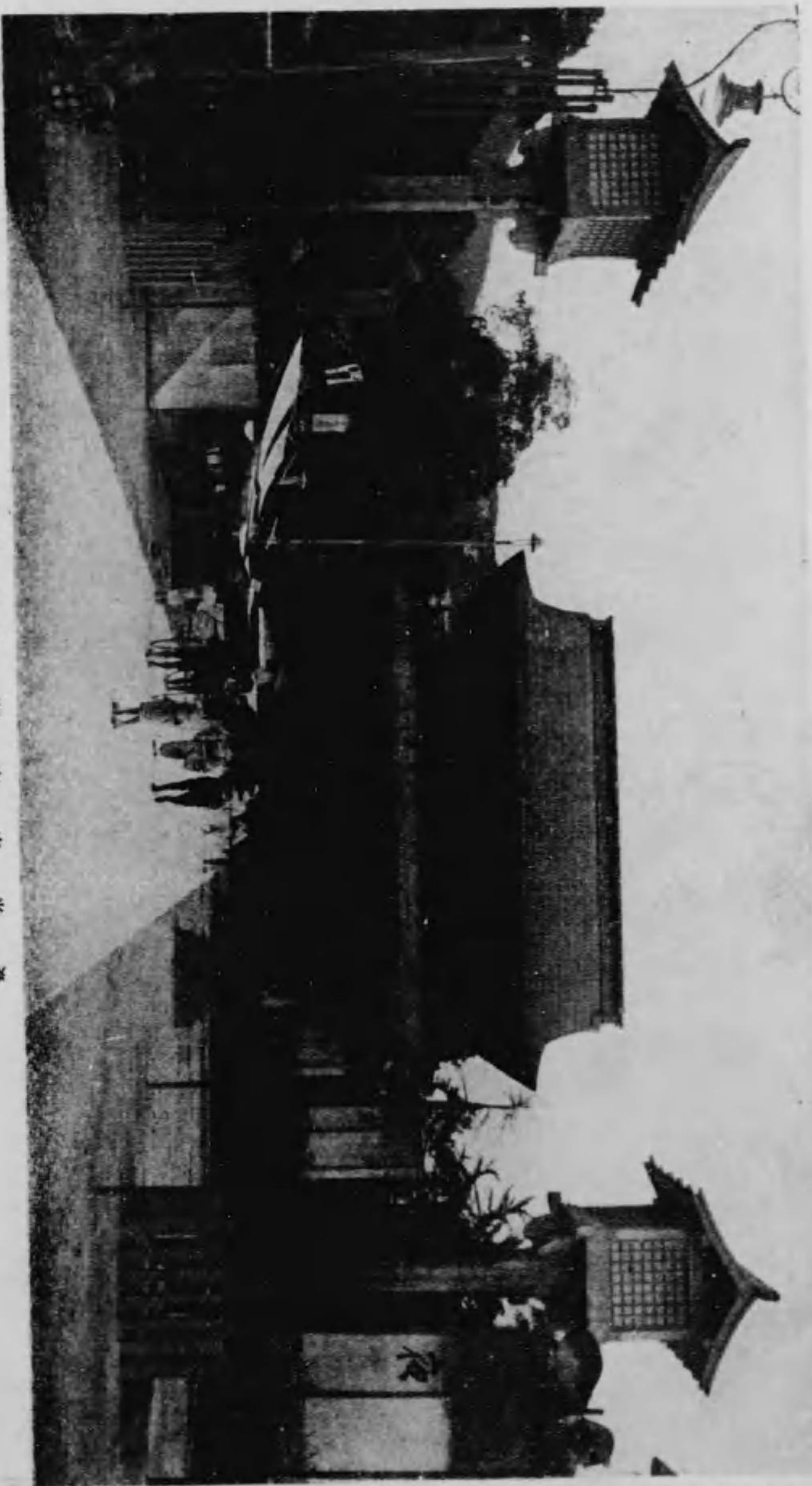
Table with 4 columns: 降水量 (Precipitation), 風平均方向 (Average Wind Direction), 快晴日 (Clear Days), 曇天日 (Overcast Days), 降水日 (Rainy Days), 暴風日 (Stormy Days). Rows include 八七三, 二〇九, 一七二, 一七二, 一七二.

信越本線 高崎—新潟 二〇三哩六分

(驛名の下に記せるは高崎よりの哩程なり)

高崎 たかさき 高崎驛、同線大宮より四六哩四、東北本線上野より六三哩、飯塚、ひさか、一哩四、高崎公園、南二十五町、安中、あんなか、六哩五、鷹巣山、北十二町、岩瀬崎立上琴平神社あり、碓氷川この懸崖を洗ふ、湯瀨温泉、東十四町、人力車賃十五錢、安中製糸會社、北半里、湯瀨炭山、北半里、〇生糸、〇部いそべ、一〇哩九、磯部温泉、北四町、人力車賃八錢、城山遊園地、東十町、佐々木盛綱の城址といふ、松岩寺内盛綱の墓あり、妙義山、西二里十町、人力車賃五十錢、碓氷社製糸場、北二十八町、小林製藥所、西四町、〇生糸、磯部餅、鏡泉サイダー、松井田まつみだ、一五哩、妙義山、西南一里十町、人力車賃三十錢、馬車賃片道二十錢、往復三十五錢、碓氷川の橋を渡れば、前面既に蘆葉の三山の如く、屹立するを見

る、山は海拔三九六〇尺、白雲、金洞、金鑛の三つに蔽れ、山勢の秀拔峻壁の削立、岩柱の競峙洞門の開通等、神斧鬼鑿を極めて居る、三山の中金鑛は最低くして最險、何故折かの野風を立てたるが如く、石は挺秀山は聳立、膝行尚難んずるが如き處もある、金洞は石門の奇を以て三山中最高、石門の數幾十、人の稀に至るもの其第十六門までに過ぎず、第四門の邊最奇景である、白雲は最高くして最幽邃、山麓に妙義神社がある、要するにこの山は火山岩の奇秀を極致するもの、殊に霜葉紅をなすので秋季に登山する人が多い、群馬縣第一模範林、南二里、〇川よこがは、一八哩四、碓氷川の麓碓氷川の北岸に在り、碓氷嶺を越ゆる電氣機關車の準備驛である、驛南には鼻曲山、妙義裏山の麓ゆるあり、碓氷の溪澗深く、晴嵐氣涼しく翠微直ちに來つて眼前に迫り、山色水聲俗塵を絶つて居る、〇桃園、北五町、〇不動瀧、西八町、〇霧積温泉、北三里半、飛馬驛、二里、〇新炭、木材、〇熊野櫻現、西北一里、〇碓氷の紅葉、驛附近數里、東京附近紅葉の稱すべきもの、霜根や鹽原や日光や甲斐の御嶽などがあるが、何れも竝峙の大觀に及ぶもの



(陽野原) 門山寺光

月影や四門四葉もたより

注

金三十九銭

掛

二七哩八

草津温泉、北九里、浅間火山の



麓山間浅

野野と、その密生火山小浅間の麓を過ぎて行くのである。乗馬賃一圓六十五銭、地は四方丘陵を纏らして踏み跡をなして居る、海拔四千四百尺、七月老鷹を聞き八月草花を見るべく、所謂高嶽の氣候自ら人體に透す、温泉は古來關西の有馬と併稱せられ、時

間過とて隊長の命令による奇しき入浴法もある。浅間山、北三里、案内人一日金貳圓、乗馬賃まで一圓、次駒追分、御代田、小諸等よりも登山せらる、登路甚容易、何れよりするも一日に上下することが出来る、山は有名な活火山で海拔八千二百尺、濃煙幾條天を衝て昇り、轟々たる噴聲砂塵を降らし、硫氣瀰漫して咽喉を刺激す、山頂の隆起宏潤豪壯である。浅間牧場、東北三里、浅間山麓に在り。星野製材場、東北八町。赤岩温泉、北半里。津吹製材場、東北四町。星野製材場、北半里。原永製材所、北十町。甘藷、木材、薪炭、水。分。おひわけ。三〇哩。夏期臨時驛、海拔三千百尺を超え、避暑に適す、地は往時中仙道と北國街道との追分で、俗語追分節は實に此地より弘まつたのである。御代田、みよた。三三哩。四。浅間山、噴火口迄北三里。黒瀬、南一里二十六町、馬車賃十五銭。関川、瀧山明泉寺、東南三里、馬車賃三十五銭、奇岩怪石が多い。岩村田町千尋の光、南一里廿町、人力車賃二十七銭、洞穴は高さ五六尺幅六七間深さ四間餘、他の植物なく、唯光禿の緑の一面に藍る

を見る。佐久良社製糸場、南一里半。佐久社製糸場、所、東南二里。小諸。こもろ。三九哩。佐久鐵道接濟所、ノ牧野氏の城邑、千曲川の東邊に在り。浅間山、噴火口迄三里。小諸城址、西二町。布引、山崎、一里半、総まで人力車賃五十銭、一山皆岩石より成り、懸崖百餘、宛も昇降の如く千曲川岸に聳えて居る、山腹を拓いて堂宇を設け、一條の危壁之に通じ、風光頗佳。森山桃林、南一里。島田風穴羅摩野所、西一里。日本産桃會社、南一里。島田製材工場、驛前。純水館製糸所、東一町。木材、石材、木炭、銅系、桃、苺ジャム。山。中。たなか。四五哩。鹿澤温泉、東、乗馬賃一人乘一圓二十銭、二人乘一圓八十銭。大。おほや。四七哩。分寺、西半里。温泉寺温泉、西南四里餘、馬車賃四十五銭、人力車賃一圓。鹿澤温泉、西南四里半、馬車賃五十五銭、人力車賃一圓二十銭。和野所、北東一里。大門村造林、西南七里。生系、生皮亭、製種、製紙。上。田。うへだ。五〇哩。小。盆。地。に。在。り、千曲川に臨む、元眞田氏の城下で、維新前は松平氏の城下であつた、信州に於ける養蠶繅絲業の中心をなし、今人口二萬四千人を有す、製種及製紙の取引盛に、上田織を産す。上田城址、西北九町、關ヶ原の役眞田氏の城に據つて、徳川秀忠の西下を阻止した。田。澤。泉。西四里、青木まで馬車賃二十二銭、青木より人力車賃二十一銭。別所。温泉、西南二里半、馬車賃二十二銭、安樂寺あり、其八角四重の塔は天下一品の稱あり。杏掛温泉、西四里、馬車賃三十五銭。松平神社、西北九町。國分

ることは出来ないと思つて居るのである。本堂の内佛像の後面に幽冥に入るの道がある。案内者あり賢者を導いて居る、これを戒壇廻りと云ふ。隧道の内斷壁としてものあいろも分らない、行くこと半にして一個の鍵がある、人此鍵に觸れることが出来なければ、極樂浄土に入ること出来ないと云ふので、歩毎に南無阿彌陀佛々の低唱哀れに如來の來迎を冀ふのである、かくて道は曲折して自然に外界に通じて居る

寺の境内の一部は今公園となつて、泉池あり竹林あり、梅柳桃李其美を争ひ、四時の風光がよい。本堂の東南に、弘化四年三月十四日所謂善光寺の大地震に横死したる旅客約一萬人の爲に建立した地蔵橋死塚と云ふのがある。公園より東に至れば歌町にして一丘阜がある、横山氏の古城址で城山と云ひ丘上に八幡宮がある、城山の三面は今拓いて公園とし、竹筒泉石の美韻を備つて居る、城山の中腹には城山館あり、樓上より眺望すれば、姥捨の翠巒、千曲、犀川の碧流、松代、須坂の瓦巒、川中島附近の平野等一時の下に集まり、宛然一幅のパノラマを見るやうである。▼往生寺、北西廿八町、加藤重氏之遺跡。▼刈萱堂、北西四町。▼諏訪神社内の神代櫻、西北一里半、千年の老木、周圍三丈六尺、其餘三方に枝れ垂れて、東西十三間、南北十五間に亘る、花開けば恰も一大白雲の細引が如し、花期五月上旬。▼ぶらん堂、北東二里、人力車賃四十八錢、人力車を下りて約十町、全山岩石より成つて絶壁削るが如く、中腹に洞窟あり、窟中の小堂は即ちぶらん堂である。▼戸隠山、北西五里三十町、平維茂に鬼女を退治したり

とて夙に世に知られて居る、山勢雄偉、男體の秀麗と妙義の奇峻とを兼ね、加ふるに地質變遷の證と幾多の奇草とのあるあり、山水の麗あるもの、必ず登山すべき山である、戸隠神社あり、規模宏大、國幣小社に列して居る。▼長野縣廳、北西十二町。▼市役所、北十六町。▼農事試験場、南十町。▼商品陳列所、北二十町。▼農工銀行、北西十二町。▼知山鐵工所、北八町。▼信濃福澤園、西十町。▼免因保護に従事して居る。▼千歳座、北十町。▼三幸座、北二十一町。長野市は長野縣廳所在地で、縣は信濃國を管轄して居る。西境には飛騨山脈高く聳え、南部には木曾、赤石の山の山脈高く連り、東境には白根、淺間の活火山あり、中央には富士火山脈連亘す、此等山地の間には谷狀の盆地あり、其間を千曲川、天龍川、木曾川の大河が流れて居る。縣下は到る處養蠶業盛に、上田、松本は蠶の集散地として開え、諏訪湖畔の岡谷には製糸所多く、縣下の生絲産額は全國に冠絶して居る。縣の西南部の木曾谷には有名なる森林あり、木曾五木の名風が開え、福島此地方の中心地となつて居る

大蔵(皮麩)の主要産地 (大正四年)

長野	二六四、六四二圓	橋本	二四三、六三二圓
廣島	一九九、七七九圓	熊本	一五三、八一〇圓
岩手	一一五、四三二圓	島根	一〇四、四八三圓
全國	一、八六七、三八八圓		

●乾柿の主要産地 (大正四年)

長野	一六七、三六四圓	福島	一一九、六三八圓
----	----------	----	----------

●繭の主要産地 (大正四年)

廣島	九二、九四四圓	愛媛	六九、四〇三圓
山梨	六八、二二九圓	福岡	六一、四二九圓
佐賀	五四、七七五圓	宮城	四七、六五〇圓
岐阜	四二、一一六圓	兵庫	三七、四二二圓
全國	一、三三八、五〇五圓		

●繭の主要産地 (大正四年)

府縣	養蠶戸數	繭産額	價
長野	一五六、〇五二戸	六八三、八八五石	二二、九四九、七三四圓
愛知	九七、五七二戸	三六八、八四七石	一三、二二六、八五九圓
群馬	七七、六一五戸	三一五、八六八石	九、一九二、五一五圓
岐阜	八三、五七二戸	二四三、三八七石	八、六〇一、五八一圓
福島	八〇、一四〇戸	二四四、四四二石	七、五七六、五二四圓
埼玉	一〇〇、〇七一戸	二七一、四六一石	七、三六三、六一一圓
山梨	五四、六二九戸	一八七、四六五石	六、一八九、八四八圓
静岡	五九、三〇〇戸	一七八、二〇一石	五、八一四、八〇五圓
三重	五二、四二二戸	一五七、八二三石	五、六八四、四三〇圓
山形	四二、七八六戸	一六一、四九三石	五、二二九、六五九圓
茨城	六一、二六九戸	一六二、四二二石	四、六三三、七七三圓
京都	二八、〇六四戸	九六、七三三石	三、六三六、二〇四圓
全國	一、六七三、四六〇戸	四、六四七、四二八石	一五二、七七〇、七二五圓

●繭の主要産地 (大正四年)

愛知	二、三四九戸	二九、二三一圓	二一、八四六、五八一圓
埼玉	二〇、四三〇戸	三六、八六二圓	一五、四八九、三五五圓
群馬	二九、三七五戸	五七、五一二圓	一四、五一八、七三六圓
山梨	一一、六八四戸	二九、八一五圓	一〇、一六八、四八七圓
岐阜	一〇、一〇三戸	二〇、八九六圓	九、九四八、二一九圓
福島	二一、五六五戸	三七、四三三圓	九、三八五、九五七圓
山形	二〇、九八五戸	二九、〇二七圓	五、八五八、八〇五圓
三重	七三二戸	五、二五一圓	四、四六六、三五九圓
愛媛	七二一戸	六、一九〇圓	四、二八二、八六六圓
京都	七、五三七戸	一〇、六九八圓	三、七五九、八〇〇圓
茨城	二、九四六戸	七、一五五圓	三、六二五、〇〇八圓
全國	二八八、四〇七戸	五九五、一一二圓	二一、七、七四六、〇八九圓

●繭の主要産地 (大正四年)

長野	一五五、二八六圓	新潟	九五、〇〇八圓
滋賀	九一、三三三圓	岐阜	六八、五八九圓
愛知	五六、三四六圓	京都	四五、四七〇圓
山形	四二、七〇三圓	東京	四一、八六八圓
全國	一、〇七二、一三三圓		

●繭の主要産地 (大正四年)

吉田よしだ 七四哩二 ▼吉田蠶絲會社、▼升新製絲場、西北八町 ▼須坂 俊明社蠶絲場、東南二里十二町 ▼同東行社蠶絲場、東南二里十六町 ▼小田切 機業場、東南二里十二町 ▼米子硫黄礦山、東南六里二十六町 ○硫黄、炭化石 辰、生絲、羽二重 長野とよの 七八哩五 ▼湯田中温泉、東北四里十四町

自動車賃八十五錢、馬車賃上八十錢、並四十一錢、人力車賃八十八錢、此地にも植物學上有名なる光霧あり、角間温泉は湯田中より半里を隔て、居る。▼温泉、東北四里二十六町、自動車賃九十錢、馬車賃上九十錢、並四十五錢、人力車賃九十錢、海拔一六四〇尺の高處に在り、山水の風光に富んで居る、附近地獄谷の奇観がある、熱泉横川の流岩面の孔洞より噴出すること二丈餘、其聲雷の如く、時に蒸氣上騰して濃霧となり、朦朧として咫尺を辨じないことがある、安代、上林の温泉も皆近くにある。▼中野温泉、東北二里半、自動車五十錢、馬車上五十錢、並二十五錢、人力車賃四十八錢。▼山田温泉、東北四里、馬車賃上九十錢、並五十錢、人力車賃五十五錢。▼登雨温泉、湯より二里半。▼野澤温泉、東北八里十六町、馬車賃上一圓九十錢、並九十五錢、人力車賃一圓。○木蓮産細工、白雲、和紙。▼車田八三哩四。▼柏原かしはばら 八九哩八。▼明尊寺、東三町、境内俳人二茶の墓あり。▼月照山、西五里、此處よりの登路平易、踏路長野に出るがよい。▼地蔵洞、西北三里、妙高、黒姫の峽間に在り四層にして四ノ瀑最大、丈六丈、水聲響絶、大地も震ふ。▼野尻湖、東北一里、又芙蓉湖と云ふ、周圍三里圓形をして居る、湖中琵琶島あり、宇賀神社を祀る、翠湖湖を繞りて湖上に映じ風光甚佳、黒姫、妙高、飯綱、斑尾の諸山を仰がる。▼黒姫山、驛より登路二里、海拔六千五百五十尺、山勢孤圓にして秀拔である。○鎌、蕎麥粉、木炭。田口たぐち 九五哩。▼赤倉温泉、西一里二七町、人力車賃往七十二錢、復四十錢、妙高山腹に在り、海拔二千五百尺、北方



近附田高

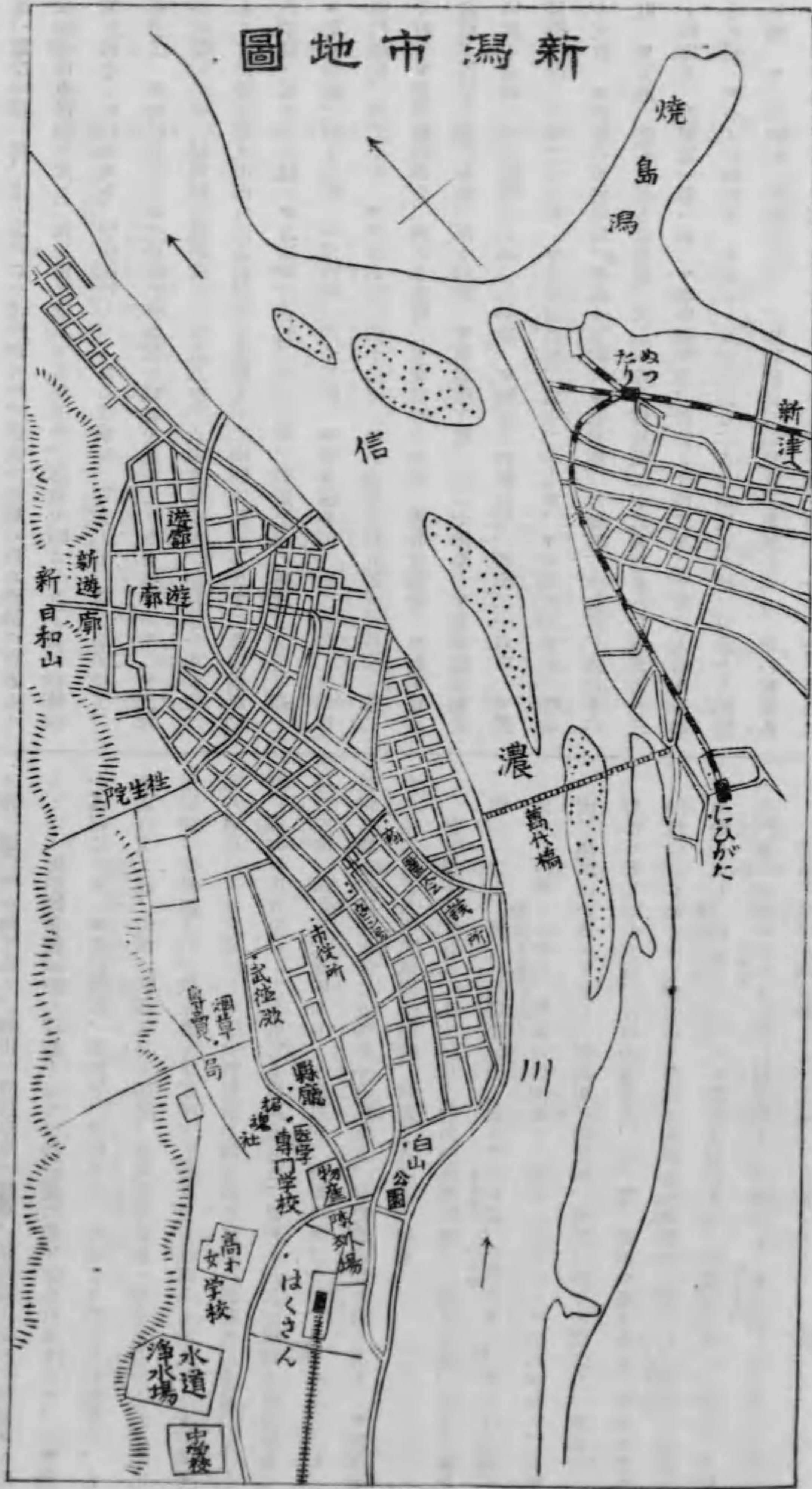
日本海を望み、右に米山の山脈蜿蜒たるを見る、近時驛の西南七町開川の清流に臨んだ所、分湯場を設けて妙高温泉と云つて居る、人力車賃十六錢、正面直に妙高の大嶽に對し左に黒姫、飯綱を望んで眺望雄大である。▼妙高山、温泉より頂まで三里、七時間上下することが出来る、海拔八千百尺、眺望雄大。○木材 蕎麥粉。關山せきやま 九九哩九。▼開温泉、西南一里廿町、垂馬賃四十五錢。▼無温泉、西南二里半、垂馬賃五十五錢。二本木にほんぎ 一〇三哩八。新井あらあ 一〇七哩四。▼新井御坊、北五町。○米、糞物、葉糞、石材、無花果産詰。高田たかた 一三三哩七。楠原氏の舊城市、荒川の西岸に在り、有名な積雪地で嚴冬の候市街丈餘の堆雪に埋れ、この下に高田市あり」との榜示を立つるの奇觀を呈する、今人口三萬二千人を有す。▼高田城址、東十五町。▼高田別院、西十町。▼金谷山、冬期スキー練習場たり、西二十町。▼淨興寺、西五町、稲田禪坊と號し、親鸞上人の開基である。▼岩ノ原葡萄園、東三里半、人力車賃七十錢、二十餘町歩に三百五十種類七萬株餘あり、菊水印葡萄酒の醸造地である。▼春日山、林泉寺、共に西一里半、人力車賃三十五錢。▼第十三師團司令部、東十五町、人力車賃十八錢。▼市役所、南七町。▼高田織物機織工場、南十三町。▼高田製絲會社、西二十五町。▼東洋ブレイト會社、東七町。▼日本製綿會社、北六町。▼寶田石油油精所、南五町。▼越後電氣會社、南十町。▼高田瓦斯會社

北七町。▼上越ブレイト會社、東十二町。▼玉井鐵工場、南四町。▼上越製材會社、南五町。▼大魚座、南七町。○酒、味噌、綿布、絹布、米、スキー、ブレイト、製材、葡萄酒、鮎、毛拔、鐵器、原油。直江津なほえつ 一一七哩八。北陸本線の接續點、同線米原より二二八哩三。荒川の吐口に在り、北越の要津、直に日本海の怒濤に臨んで居る。▼五智園分寺、西十五町、人力車賃十七錢、今往古の壯麗なく三重塔、經藏、仁王門を存するのみ。▼小丸山西本願寺別院、西十二町、親鸞上人配流の地として、眞宗門徒の崇敬する處。▼春日山城址、西一里人力車賃三十錢、此處當年不慮庵の據つて天下を睥睨した處、馳騁快洵に要害の衝である、山麓の林泉寺に謙信自畫像一幅あり、古英雄の面目髣髴として居る。○黒井くろゐ 一一九哩四。頸城鐵道接續點。▼日本石油製油所、東二十五町。○石油、米、木材。▼黒湯さいがた 一二二哩二。▼高町かたまち 一二四哩八。▼柿かきさき 一二八哩七。▼米山藥師、東三里半、内一里人力車賃三十錢、米山の絶頂に在り、山海の展望清絶である。▼鉢はつさき 一三二哩四。▼米山藥師、東南二里。▼大清水觀音、西南二十町。○木材、木炭、魚、無花果。青海川あをみかは 一三六哩二。驛は米山の聖殿を後に負ひ、前に日本海の煙波あり、佐渡の青鯨呼ばば應へむとす、展望秀麗である。▼鉢波くぢらなみ 一三八哩一。海水浴の適地である。▼福浦八景、西南八町、船賃六人乗六十錢。▼柏かしはざき 一四〇哩四。附近畑田多し、越後鐵道は笠より岐れて新島に至る。▼番神ヶ鼻、西南二十町、人力車賃三十錢、海水浴に悉す。



近附岡長

日蓮が佐渡の配流地より上陸した處である。▼日本石油油輪製油所、西北十町。▼寶田石油製油所、東二町。▼新潟鐵工所分工所、西北三町。▼硝子工所、北二町。○石油、硝子油、綿布、魚、網代煎餅。安田やすだ 一四四哩。北條きたでう 一四五哩六。▼原山つかやま 一五二哩五。來迎寺らいかうじ 一五七哩二。鉦より鉦れて小千谷に至る魚沼鐵道あり、賃金三等二十五錢、小千谷は信濃川の西岸に在り、古來小千谷産布の集散地として知らる。宮内みやうち 一六一哩三。長岡ながをか 一六三哩二。長岡鐵道、栃尾鐵道の接續點、牧野氏の舊城市、信濃川に臨み、越後平野の中樞に位して居る、維新の際會津藩に與みして頑強に官軍に抗した、附近石油の産出多く、繁華昔日に倍進し、石油市として治く世に聞えて居る、驛に連れる夥多の油槽車亦此線の一奇觀である、今人口三萬九千人あり、石油、米、板紙、綿布、カーバイト、薬種、鐵、銅器を産し、越の雪の名物あり、舊城址は現在停車場及公園となつてある所で、當時の城將河井繼之助の墓は榮涼寺に在る。▼荻柴神社、東南一里、人力車賃二十五錢、悠久山に在り、舊藩祖を祀る、山光蔚色宛然たる一大公園である。▼市役所、西五町。▼寶田石油會社、西三町。▼北越製紙會社、北二十五町。▼中島製油所、西十七町。▼羽賀羽二重工場、北十一町。▼長岡鐵工所、北十五町。▼農事試験場、東十町。▼長岡座、南九町。▼栃尾町、栃尾鐵道の終點、汽車賃三等三十六錢、栃



尾油の産地である。▼寺泊町、長岡鐵道の終點、汽車賃三等四十八錢、日本海に臨み、海水浴に適す、水産試験場其他順徳院何日蓮の遺跡あり、此地佐渡に最近く、越佐定期汽船冬期の發着所なり。城 關じやうをか 一六四哩七。▼浦瀬 浦瀬、東一里。▼北越製紙會社、西九町。○ボール紙 押切 おしきり 一六七哩五。見 附みつけ 一七〇哩二。○米、絹綿布 帶 繰 おびおり 一七二哩八。▼日本石油大田工場、二十町。三 悠きんでう 一七六哩六。信濃川の畔五十嵐川の交會する所に在り、形附本郷、鐵器、銅器、足袋等を産す。▼本成寺、西八町、人力車賃十二錢、法蓮宗總本山である。▼西東兩本願寺三條別院、北十二町、人力車賃十五錢。一ノ木戸 いちのきど 一七七哩六。▼彌彦神社、西北五里半、此方面よりは三條及此驛より行くがよい、人力車賃七十五錢。▼新潟縣種畜場、東三里。加 茂かゝ 一八二哩三。▼青海神社、東三町。▼北農社絹布工場、東北十三町。▼廣進社木綿工場、東北十二町。▼橋本村七谷村役場、東一里十二町、人力車賃三十錢。○絹布、綿布、建具 羽生田はにふだ 一八四哩九。▼田上鑛泉、東北一里。▼羽生田子育地蔵、南半里寶者多し。○米、石材 矢代田 やしろだ 一八九哩二。驛の附近中野鐵油、寶田石油、中央石油製油所等あり。○小須戸織 新津 にひつ 一九三哩。村上線の分岐點岩越線の登瀆點、同線郡山より一〇八哩二、信濃川、阿賀川の中央平野に在り、附近石油の産出多く、日本石油、寶田石油、吉澤、奥田、廣田、大場の各製油所あり、此地古は入海で北海の要津であつたので、新津の名あり。▼柄日本油田、

東二十町、人力車賃往復三十錢。▼小口油田、南一里二十町、人力車賃往復七十錢。地 田かめだ 一九八哩五。▼龜田製糸所、同綿布工場、東十三町。○布、梨子 沼 垂ぬつたり 二〇二哩四。新潟市の對岸、信濃川の右岸に在り往時沼足の標を置いて蝦夷に備へた所、舟楫の便に富んで居る、今新潟の一部となつた。▼新潟鐵工場、北十町。○米、人造肥料、硫酸、石油類、鐵器、魚、梨子 新 沼にひがた 二〇三哩六。信濃川の河口に位し、南方越後の大平野を控へ西北は砂丘を隔て、日本海に臨んで居る、我邦五港の一として早く開港せられたれど、港淺く且つ海波を防ぐに便ならざるのみならず、信濃川より吐出せる土砂の爲め、漸次淺となるので、港運が進まないが、多年の宿習たりし築港問題も今や具體的に進捗しつゝあり、信濃川の分水工事と相俟つて築成の暇は面目を一新することとなるであらう。今人口六萬七千人を有し、大正四年の貿易額輸出二十五萬圓輸入三十一萬圓に上つて居る、沼垂町に在る驛を出れば、前には新潟市の瓦甍粉壁畫が如く、長さ四百二十八間、恰も紅雲の如き萬代橋の信濃川に跨るあり、物産は漆器、石油類、鐵器、肥料、白玉粉、糧物、綿織物、味噌、硫酸、燐等あり、梨子は此地の名産である。▼白山公園、西二十町、人力車賃二十錢、市第一の遊覽地。▼日和山、西北二十三町、人力車賃二十四錢、砂丘にして西は一帯帯水を隔て、佐渡の青森を望み、東は新潟全市を一眸の中に収む。▼新潟市砂防工



近附新潟

事、海岸一帯の地、市の海岸は一帯の砂丘で、西北の烈風の爲め飛砂の害甚しく、家を埋め耕地を荒し、住民常に安んずる能はず、藩政の頃より上下共に砂防政に苦心したのである、現在施行しつゝある工事は、管立工事、葦上菜更枝工、藤芥工、里松植栽等で漸次砂防造林事業の成功を見むとする有様である、▼國幣中社彌生神社、越後鐵道彌生驛より西北八町、人力車賃十錢、越後第一の神社である、越後鐵道は市内白山公園附近を起點として柏崎に至つて居る、白山彌生間汽車賃三等五十六錢、▼鳥屋野の逆竹、南一里半、親鸞上人の靈蹟として名高し、▼新潟縣、西十七町、▼市役所、西十五町、▼物産陳列館、西二十町、▼醫學專門學校、西二十町、▼農工銀行、西十七町、▼新潟縣立理化院新潟學園、西二十町、▼新潟縣農會社、西北十五町、▼東洋物産會社、西北十四町、▼越後鹽炭會社、西田川鹽炭會社、西十六町、▼新潟鐵工場、北二十四町、▼新潟鑛業會社、西北十五町、▼川崎鐵工工場、北半里、▼寶田石油製油所、西南二十六町、▼新藤製油所、西南二十七町、▼早川製油所、西南二十七町、▼新潟汽船會社、西北十五町、▼新潟商業會社、西北十五町、▼改良座、永樂座、大竹座、西北十六町、▼東港、佐渡に在る貿易港、大正四年の貿易額二十二萬圓あり、新潟より三十四海里、汽船賃一等一圓、▼黒木御所跡、東港より西二里二十町、人力車賃四十九錢、▼一ノ谷妙照寺、東港より西三里五町、人力車賃五十錢、日蓮上人配居の地、▼二宮神社、妙照寺に近し、順徳院第二の皇女玉島姫を祀る、境内御墓あり、▼相川町、東より西北六里十二町、人力車賃一圓、島内第一の都會、有名な

る相川鐵山所在地である、鐵山は身長年間の發見、當時徳川幕府の經營する所なりしが、明治維新後政府の管轄となり、後三藩に拂下げられたもので、年産額九十萬圓に上る、▼眞野御陵、眞野宮、眞野入江、東港より四里乃至四里半、人力車賃八十三錢、御陵は順徳天皇の御陵、承久三年此島へ遷幸あらせられ、仁治三年崩御、聖算四十六、御在島二十二年、九月十三日崩御あらせられ、や、隨身他藏人清範、自ら彫刻せる天皇の御腹籠の御木像を眞野の眞輪寺に安置し奉りしが、明治の世を廢して眞野宮と改稱せらる、眞野の入江は順徳の御著船あらせられし所、海岸に記念碑あり、▼妙寶寺、眞野の東三十町、人力車賃二十錢、日蓮宗に屬す、櫻門の傍に五輪形小石塔あり、日野齋藤の墓である、▼根本寺、東より二里、人力車賃四十四錢、日蓮上人請居の墓場、新潟市は信濃川の河口に在り、新潟縣所在地で、縣は越後、佐渡兩國を管轄して居る、東には越後山脈長く連りて朝日嶺、飯盛山あり、西には三國山脈聳え、西南には妙高、燒山の火山あり、海岸は砂丘にして出入少なく、其間米山、彌生山が聳えて居る、信濃川、阿賀川、荒川は縣下を灌溉し、其沿岸の平野には米を始め大豆、小豆の産多く、柳、梨、葡萄の産もある、平野の間の丘陵地には石油を出し、東山、西山、新津等の油田特に著はれ、長岡は其取引の中心をなし、柏崎には大なる製油工場がある、信濃川上流の小千谷、十日町と阿賀川流域の五泉とは共に植業地として知られ、直江津に日本海の要津をなし、其南の高田は積雪地として名高い、佐渡の相川には古來有名な鐵山があ

Table with columns for location (府、縣、町、村), yield (收穫高), and price (價格). Includes entries for 新潟、兵庫、愛知、山形、秋田、富山、山形、茨城、愛知、千歳、福井、兵庫、新潟、石川、新瀧、石川.

Table with columns for location (府、縣、町、村), yield (收穫高), and price (價格). Includes entries for 兵庫、愛知、山形、秋田、富山、山形、茨城、愛知、千歳、福井、兵庫、新潟、石川、新瀧、石川.

村上線 新津—村上 三六哩九分

(驛名の下に記せるは新津よりの哩程なり)

新津にひつ 信越本線岩越線接續點、信越本線高崎より一九三哩、新潟より一〇哩六、岩越線郡山より一〇八哩二 水原すあばら 六哩三 維新の始後府を置いた所 出湯温泉、東南二里半、人力車賃五十錢 村杉温泉、東南三里 八房の梅、西南一里半 水原製糸會社、東南二十一町 阿賀川鐵橋、新津とこの驛との間に架す、長四〇七七呎、本邦第一の長鐵橋である 天王新出でんのろしんでん 一哩 福島の南岸に在り、牛頭天王堂あり 〇米 新發田 しばた 一六哩二 元禮口氏の城邑、城址は西北十町、今兵營となつて居る 菅谷不動尊、東北三里、人力車賃往復九十五錢、源頼朝の開基、本尊不動明王の頭首は毘首尾摩の作である 〇米、白土、梨子 加 給かぢ 一八哩八 金 藤 なかづか 二一哩九 中 條 なかであう 二四哩三 平木田 くらきだ 二七哩八 きのと大日如来、西三十二町、人力車賃十八錢、乙寶寺境内に在り、大日堂は名だたる大伽藍で、寶曆年間改築、本尊は天平年中行基菩薩の作、胎藏大日如来として圖贊たり 坂町さかまち 二九哩八 湯澤、高瀬温泉、東三里半 廣泉温泉、東四里半 金山製糸所、北二十五町 〇新設 木村、栗 岩船町いはふなまち 三四哩三 村上むらかみ 三六哩九

村上城址、東十五町 瀧波松山温泉、西十三町、馬車賃十五錢、徒歩二十五分、石油採取の目的で掘鑿百三十七間に達したるに突然噴出した温泉で、晝夜間断なく地上六十尺の半空まで熱湯を噴き上げ壯觀を極む 栗島、瀧波より海上十五哩、周圍四里、島峯を小柴山と云ふ、島中に二村あり、戸數合せて百餘、島の四面に絶壁にして暗礁并び列なる、夏期は新潟酒田間航海船寄港、汽船賃並五十錢、特七十五錢、約二時間を要す 笹川流れ、瀧波より海上八哩、瀧新保 瀧川間約三里の沿岸を稱す、断崖絶壁奇岩突出し、海上よりの眺望絶佳である、汽船賃並二十五錢、特三十八錢、約一時間を要す 山邊里織物會社、東北三十四町 小田織物工場、東北一里 鮭産育養所、東北十六町 〇鮭、新津、山邊里織、海府海苔

なつかしき先祖の櫓や越後者 許 六
行きく越路にさらせ汗拭ひ 琴 堂
月ひとり荒海をすむ今宵かな 曉 臺
荒海や佐渡に横だふ天の川 芭 蕉
筋かひに寝て涼しいか佐渡の山 支 考
行く春に佐渡や越後の島曇り 許 六

總武線

總武線とは

- 一 總武本線 兩國橋、銚子間七二哩七分、及貨物支線
- 一 房 總 線 千葉、勝浦間四四哩三分
- 一 木更津線 蘇我、勝山間四四哩
- 一 東 金 線 大網、成東間八哩六分

の總稱で、其本線は東京市内兩國橋驛を起點とし、千葉にて房總線を岐ち、成東にて東金線を岐ち、銚子に至りて止まつて居る、列車は兩國橋より銚子行六回の外、勝浦行六回、勝山行五回あり、兩國、銚子間約三時間乃至三時間半、兩國、勝浦間約三時間乃至四時間半、兩國、勝山間約四時間を要す、木更津線勝山より北條町まで約九哩餘は七年八月開通の豫定である

總武本線 兩國橋—銚子 七二哩七分

(驛名の下に記せるは兩國橋よりの哩程なり)

兩國橋りやうごくばし 東京市内本所區兩國橋近くに在り、故に驛の名に負ふ、回向院及相模常設館たる國技館等此驛附近に在り、房總地方への交通門戸である 船系町 きんしちやう 〇哩九 龜戸 かめあひ 一哩九 驛の附近には日清紡績會社、東洋モスリン工場、大日本人造肥料會社工場、富士紡績小名木川工場、東京臨海會社工場、東亞製粉精製所、日本製粉小名木川工場、大日本製糖會社工場、東京瓦斯會社等あり、驛は亦東武鐵道の接續點である 龜戸天満宮、西北七町、人力車賃十錢、社殿壯麗、境内池を穿つて二個の太鼓橋を架す、蓋し太皇府の造營に擬したものだ云ふ 社前池畔紫白の藤を植ゑ、花房長さ丈餘に及ぶものがある、毎年一月初卯の日、及一月廿五日、覺悟の神事を行ひ、都下の子女争うて参詣す 菰寺、西北九町、菰を多く植う、寺と細流を隔て、柳島妙見堂あり 平井 ひらゐ 三哩三 平井聖天堂、西二町 最勝寺目賀不動



東南三町 ○布海苔、クゴ糖 **小** 小いはいは 五哩九 **善** 善養寺、東北十二町、境内星下松あり **柴** 又帝釋天、南二十町 ○**傘** **市** 川いちかは七哩五 京成電氣接續點 **市** 市川桃林、北一町、次野中山まで桃林斷續して花時頗る美觀を呈す **弘** 弘法寺、眞間の觀橋、手古奈靈堂、共に北八町、人力車賃十錢、寺は國府臺高地の御崖に在り、境内には櫻樹多し **國** 國府臺、北半里、馬車賃六錢、高さ七十尺の崖に過ぎないけれど、江戸川に臨みて眺望の勝あり、古の國府址は今の總持寺境内である、附近今兵營あり **八** 八幡不知の藪、東半里 **八** 八幡町外九ヶ村組合整理耕地、此際より中山驛の南北に亘りて千四百町歩餘、掘水機、排水自動門閘の設あり、地域内縱横に溝渠を設け、舟楫の便に供して居る ○梨子、桃 **下** 下野中山しもふさなかやま 九哩八 行徳に至る人車鐵道あり **法** 法華經寺、北五町、正中山法華經寺と號し、日蓮上人最初の轉法輪の道場だと云つて信徒の崇敬が厚い、堂宇宏麗、常唱堂の後に有名な日頂上人の泣銀杏あり **行** 行徳菖蒲、西一里、徳願寺内に在り ○大根切干、桃、梨子 **船** 船ふなばし 一二哩四 **船** 船橋大神宮、東南八町 **三** 三咲の櫻、東北二里半、櫻樹里餘に連る **船** 船橋無線電信局、西北半里 ○甘藷、落花生、切干 **津** 津田沼つだま 一四哩五 **智** 智志野原、東北一里、自動車賃十二錢、十分間を要す、騎兵隊及騎兵官學校あり ○甘藷、介蟲生 **幕** 幕まくはり 一七哩六 **長** 長作夫婦梅、東北半里 **海** 海水浴場、南西三町 ○甘藷、貝類 **稻** 稲毛いなげ 二〇哩二 **稻** 稻毛海水浴場、十一町、人力車賃十二錢、袖ヶ浦



近附葉千

の海濱、松葉を凝して假蓬沙上に俯仰し、小舞子の觀がある **淺** 淺間神社、西十町、人力車賃十二錢、木花陰摩姫を祀る、小兒の守護神として知られ、七月十五日の大祭には七五三にあたる子女の髪詣多し **民** 民間飛行練習所、西十二町、人力車賃十二錢、千湖里飛行機の滑走著陸に便なりと云ふ ○甘藷、介蟲生 **千** 千葉ちば 二二三哩七 房總線の分岐點、東京灣の東北に在り、人口三萬五千人を有す **猪** 猪鼻、東南十五町、舊城址で袖ヶ浦の風光を見渡される **千** 千葉神社、東南六町 **千** 千葉寺、東南二十二町 **千** 千葉縣廳、南東十五町 **陸** 陸軍歩兵學校、西北十七町 **千** 千葉醫學專門學校、東南十五町 **農** 農工銀行、南九町 ○藥漬、甘藷 **千** 千葉町は千葉縣廳所在地で、縣は安房、上總及び下總國の大部を管轄し、南半の房總海岸には木更津、北條、館山の漁港あり。北半の平野には森林原野多く、湖沼亦夥なからず、印旛沼、手賀沼等魚鳥の産が多い。海濱河岸の地は土地低平にして開墾第一の米産地となつて居る。九十九里沼は鰻の漁場として名高く、縣下又鰻、鮪、鱈の漁獲多く、水産の利甚大である、銚子よりは醬油、鰻節を産出し、野田、流山、亦醬油、味淋の醸造地として知られて居る

●落花生の主要産地 (大正四年)

千葉 一八七、〇九二石 靜岡 六八、八八二石
 神奈川 五四、三七二石 茨城 二一、〇四四石

愛知 一七、三三二石 鹿兒島 一四、七七六石
 大分 九、八二三石 長崎 五、五六一石
 全國 四〇三、三〇八石 此價格 一、八三七、〇七〇圓 (大正五年)

●鶏卵の主要産地 (大正五年)

千葉 二、三二二、二二二圓 愛知 一、八二〇、八八六圓
 茨城 一、〇八八、二七〇圓 福岡 七、一七、一二三圓
 北海道 七、〇〇、一一二圓 鹿兒島 六七四、三三二圓
 兵庫 六七二、三一一圓 埼玉 六三〇、九九七圓
 全國 一九、八〇三、五八七圓

●煉乳の主要産地 (大正四年)

千葉 三、三三三、三三三圓 靜岡 二五〇、八五七圓
 北海道 一、三三三、五〇八圓 石川 七二、五八八圓
 全國 八五六、五〇六圓

●春蠶繭(ひし)の主要産地 (大正四年)

千葉 七九一、八四四圓 廣島 二二七、三一八圓
 山口 二、三三、一四八圓 愛媛 二、三三、七九〇圓
 靜岡 二、〇一、四二〇圓 三重 一六九、〇七五圓
 鹿兒島 一六七、三三四圓 香川 一六一、九七二圓
 愛知 一三八、五七六圓 神奈川 一六六、三一二圓
 全國 三、三二八、一九九圓

●蛤の主要産地 (大正四年)

千葉 三、一、五三一圓 三重 一九、五五三圓
 茨城 一七、四八八圓 愛知 一四、七一七圓

全國 一四四、六六二圓

四 四街道よつかいだう 二七哩一 **陸** 陸軍野砲兵射擊學校、北三町 ○甘藷 **成** 成田鐵道の接續點、堀田氏の舊城下、印旛沼の南に在り、佐倉港を産す **舊** 舊城址、北半里今兵營を置く **宗** 宗吾靈堂、北一里、成田鐵道酒々井驛より二十町、義民宗吾の靈を祀る、香華堂に絶えず **門** 門山城址、東北三十町 **堀** 堀田農事試驗所、東南二十町 **南** 南酒々井みなみしすみ 三四哩八 **八** 八街やちまた 三八哩八 千葉縣廳三里塚線の接續點 **三** 三里塚、縣廳線三里塚驛附近、賃金十九錢、飼料牧場あり、櫻樹多し、春陽の候爛漫たる櫻花の下、無数の奔馬の馳驅する様畫中の景である、花期四月中旬 ○落花生、里芋 **日** 日向が 四二哩四 **布** 布田薬師寺、西南二十六町、眼前に靈驗ありと云ふ、九月七日の施餓鬼には參籠者萬を以て敷ふ **橋** 橋籠村源村、西南二十町、橋籠村中の橋籠村と稱せらる、村の青年會も亦文部大臣より表彰せられて居る ○板戸 **成** 成なるとう 四五哩七 東金線の分岐點、大綱に至りて房總線に接續す **浪** 浪切不動尊、西五町、怪岩奇石重疊相倚り、一大假山の觀あり、明王の堂其上に朱欄高く聳えて居る、登臨すれば兩總の山水眸中に在り、堂下成東鑛泉あり、胃腸に特效ありと云ふ **松** 松尾まつを 四九哩一 **芝** 芝山仁王尊、西南二里、人力車賃五十錢 **横** 横芝町東部聯合整理耕地、此際より次野横芝驛附近一帶二千七百餘町歩 ○落花生 **備** 備芝こしは 五一哩八 **八** 八田金比羅、西十四町、人力車賃十三錢 **出** 出漕製糸場、驛前 ○米穀、

介島生 八日市場、うかいちば 五六哩一 干 湯 ほか 五九哩三 ○落花生、米 旭 町 あさひまち 六二哩二 ▼九十九里濱、南三十町 ▼萬成村青年團、北二里十四町 ▼中和村青年團、北一里二十七町 ○落花生、甘藷 飯 阿 いひをか 六三哩九 ▼岩井不動尊、北二十八町、人力車賃廿五錢、三十分を要す、空海の建立、三面丘陵に圍まれ、老樹陰森たる間、四十八條の懸崖落下す ▼飯岡海水浴場、前二里半、人力車賃四十錢、四十五分を要す、九十九里ヶ濱の巖くる所、遙に犬吠岬と相對して風光佳 ○甘藷 藤 田 さるだ 六七哩四 ▼網戸山の櫻、西北十五町 ○甘藷 松 原 まつきし 七〇哩七 ○甘藷、魚類

銚子てらし 七二哩七 利根川の吐口に在り、本邦最東の御嶺である、港口には岩礁多く、大船の出入碇泊に不便なれど、東海岸の要港であるから漸次發展した、此處より利根川及舊ヶ浦沿岸への汽船便あり、利根の大江を測りて鹿島、香取、鳥栖の三社巡りをするも興が多い、物産には醤油、銚子縮及海産物、甘藷、メ粕肥料、瓦、石材等あり、海岸は勝地多く、其風光を巡覽するのを銚子磯巡りと云ひ、今

銚子遊覽鐵道の便がある ▼飯沼觀音、東十二町、遊覽鐵道賃三錢、銚子第一の大御堂である ▼川口明神、東三十町 遊覽鐵道賃四錢、眺望佳 ▼銚子無線電信局、東一里、目戸ヶ鼻臺上に在り、通信距離千四百哩に及ぶ ▼犬吠岬燈臺、東南一里半、遊覽鐵道賃十一錢、霧ヶ濱の聳くる處、御嶺海拔百六十八尺の燈臺



近附子銚



圖地岸海子銚



(子銚) 岸海子銚

海上の沖つ八の路路まき入てうらわの千舟あさひらまきり

龍虎の窟をなして居る。海浴場、東二十町。長者町、ちやうじやまち。三三二。
六 海浴場、東十五町、人力車賃十五錢。〇蜜柑、梨子。三 門、みかど。
三三三 海浴場、東半里。〇白土。大 原、おほはら。三五哩八。千葉縣
管轄便線接續點、一帯の海濱海水浴に適す、人力車賃十五錢。八 嶋、いしま。東九
町、人力車賃十五錢、百尋の懸崖轟々として峙ち、海波之に激す、岩上の松樹優
美嬌小奇趣多し。▲大聖寺不動堂、東六町、人力車賃十五錢、名匠建田番匠の手
に成り、欄間三間造り、内部の施工珍らしく、特別保護建造物となる。▼照願寺、
東六町、寺寶に國寶見真大師御繪傳あり。▼大多喜町、北西四里、人車鐵道賃三
十一錢。▼荻谷整理耕地、西三里。〇魚類、海産肥料。花 なみはな。三七
哩九。御 宿、おんじゆく。四〇哩九。海浴場、南七町。〇海産肥料。
勝浦 かつうら。四四哩三。勝浦灣に臨む、近海は鰻鱺漁場である、勝浦御東
南に斗出し、全灣一帯の海濱の西に聳くる所、丘岡波に洗はれて起伏し、暮色一
度至れば沖濤く、波浪動搖する所、漁火點々星散し、光景畫のやうである、海濱
は清澄と云ひ海水浴に適す。▼小波、西南四里、馬車二時間四十五錢、人力車
三時間六十錢である、日蓮上人誕生の地、小波山の麓に誕生寺あり、堂宇壯麗、
小波の海濱は妙の浦と云ひ、日蓮の鯛漁を禁じた處だと傳へ、土地の人は今尙此
の禁を守つて居るから、近海の鯛が多く此處に集まり、大なるものは長さ四五尺
に及ぶものあり、舟行歌町、即松鮓を投すれば鮓を競うて波に戯れ、群を成して
浮び来る、蓋し天下無比の奇觀である。▼清澄寺、西南六里半、馬車賃天津津

木更津線 蘇我—勝山 四四哩

で五里三十町、五十五錢、三時間を要す、清澄山の絶頂に在り、寺の西方一岩石
の上に朝日堂がある、日蓮が旭に向つて始て南無妙法蓮華經を唱へた所と云ふ。
▼貝清青年團、南七里。〇魚、干鰯、肥料。
蘇我(蘇我)が 房總線參照、同線千葉より三哩、勝浦より四一哩三、總武本線南
國橋より二五哩七。野はまの 二哩一。〇佃菜、貝類。八 嶋、いしま。
ゆく 三哩五。▼飯倉岡八幡宮、西二町、社殿壯麗、東京灣の朝波に臨む、日本
三岡八幡宮の一なり、境内梅樹多く又陰陽台抱の大公孫樹あり、海濱は袖ヶ浦と
云ひ、海水浴に適す。〇米、薪炭、貝類。五 井、いゐ。五哩八。▼海苔養殖
所、西北廿町。〇海苔、貝類。姉ヶ崎、あねがさき。九哩三。〇米、薪炭、生果
網 菜、ならは。一五哩一。〇牛、魚介、海苔、蠶豆。木更津、きさらび。一九
哩四。千葉縣管入留里線の接續點、上總西海岸第一の繁華地、日本武尊東征の際
愛妃弟橘姫を海神の爲に失ひ、悲しみに堪へず海洲をさまよひ給ひ、去るに忍び
ざる御有様であつたから、後人若くは去と名づけたと傳ふ。▼西妻神社、弟橘姫
を祀る、北十五町、人力車賃十五錢。▼鹿野山、東南四里半、山麓まで馬車、人
力車の便あり、馬車三十五錢、人力車一圓五十錢、徒歩區間約一、二人俵なれ

は人力車にて山頂に達すべし、幽邃の境である、山上神野寺あり、寺の門前を傳
宿と云ひ客館軒を設け、避暑客多し。〇海苔、蠶根、貝類。南 西、すさい。二
三哩八。▼鹿野山、東南麓まで三里。〇海苔、蠶豆。青 根、あをぼり。二六哩
一。▼富津、西一里八町、人力車賃二十錢、馬車賃十三錢。大 野、おほのほき。
二九哩。佐 貴、さきまき。三一哩五。▼鹿野山、東二里、最近距離なり、約
一里人力車の便あり、賃金五十錢。▼縣有基本林、東二十五町、鬼沼山に在り
▼新舞子濱、西十三町、海水浴場あり。上 勝、かづさみなと。三四哩三。海濱
風光に富み、遊歩にて水清く、海水浴に適す。▼蘇生の黄金井、南一里十五町、
人力車賃二十二錢、四十分を要す、所謂光藻で、辨天窟の黄金の池とて古くか
ら知られて居た、池面の最光るは四五月菜花満開の頃で、一面に黄金色の光輝を
放つので美しい。宿 金、はまかなや。三九哩八。銀 山、のこぎり。山の東麓、海濱海水浴に
適す、此處より保田、勝山、岩井、富浦、船形、那古を経て、安房の名邑北條に
至る自動車の便あり、賃金一圓二十錢。▼銀山、金谷及保田より登路あり、金
谷よりは裏道にて鞍坂三十分間にて頂上に達す、保田よりは表道にて登山容易、
約一時間を要す、山は海拔一〇六九尺、東京灣の門戸を扼し、山骨露出、腰部以
上分れて數峯となる、山勢轟々天を刺さんとし、恰も鋸齒を列ねたるが如し。半
腹に乾坤山日本寺あり、聖武帝の勅願所、行基の創建である、今其域内を公園と
し風景頗る奇、山の西端は明金岬と云ひ、岬岩突元海中に斗出し、眺望最壯偉、
十州一覽圖の名あり、富士の秀峯を雲表に仰ぎ、兩嶺、天城、淺間、日光、筑波

の諸峯群中に落ちて、十州を掌中に收む。勝山 かつやま。四四哩

下總の國の低さよ春の水 子規
霜しぐれ葛飾は菜の名所かな 藝太
葛飾は水田になりぬ後の月 太如
秋風に櫻咲くなり法華經寺 子規
ふし拜む蘭の香取や、なたより 藝太
百までも踊れ鹿島の宮雀 也 有
鮎の居らぬ上總の國や鱸汁 子規
枯れ残るものに海あり上總山 藝太
涼みつむ安房や上總に舟はなし 其 角
野岩たく安房や上總の庭籠 汶 村
春風や 鋸山を碎く音 子規
安房へ来て鰻を食はぬ脚氣かな 子規

岩越線

郡山—新津 一〇八哩二分

(驛名の下に記せるは郡山よりの哩程なり)

本線は東北本線郡山より分岐し、猪苗代湖畔を走りて若松に至り、夫れより阿賀川に沿うて新津に至り信越線に接する線で、延長百八哩二分あり、東京と新潟との間には信越線の外この線を通じて二回の直通列車もあり、信越線は十二時間半、この線は十三時間半にて達せらるゝのであるが、喜多方山都間線路故障の個處あり、目下修繕工事中にて、當分の間徒歩連絡を要する爲、十四時間半を要するのである

郡山を後にして熱海より峯巒重疊の間を走り、中山宿を経て上戸に至れば、初めて猪苗代の湖光に接し、關都に至れば右方又磐梯山の半空に聳ゆるあり、左顧右盼一幅の活畫の中を行くの思をなすのである。翁島を出で、よりは鐵路稍下りとなり、車窓會津平野を見るべく、やがて粉壁瓦葺の眼前に

現はるゝは即ち若松である

若松よりは鐵路會津平野を横ぎり、右に猫間ヶ嶽の岬々たるを仰ぎて進み、山都より初めて阿賀川に沿うて走り、萩野を過ぎて之を渡る、野澤を後にしてより風光の美漸く加はり、上野尻よりは峯巒の間に入り、阿賀川の峽谷に沿うて走る、所謂銚子の口下流凡そ五哩の間は、兩岸の花崗岩石屏列し、或は横斜して河水之を繞る處、潭となり峽となり、瀨となり淵となり、境塵々變じて景愈々幽、殊に晩秋錦繡山を染むるの候最美麗を呈するのである。徳澤を過ぎて再度川を渡る處は即岩越の境にして、豊實よりは急傾斜をなせる山腰の沿岸を迂繞し、左旋北行飯豊山脈の一脚延いて河溪に突出せる所、隧道を穿ちて日出谷に出るのである。これより線路左折

猪苗代附近之圖



して三度川を渡り、延長六五八一尺、本線最長の平瀬隧道を過ぎて四度川を渡りて津川に至る。津川以西の沿岸も亦風光の美に富み、五度川を渡りて五十島に至り、峻嶒なる傾斜を爲し、岩石累々たる山腹を迂繞し、十餘の隧道を過ぎて馬下に出で、漸く峡中隘谷の境を脱して廣瀨なる越後平野を走り、五泉を経て沿道油井構の林立するを見つゝ新津に達するのである。

○山 三ほりやま 東北本線接續點、同線上野より一三九哩四、青森より三二七哩五
 喜久田 きたくた 四哩五
 安子ヶ島 あこがしま 六哩九
 熱海温泉 ねつまい 北二里
 福島縣種畜場 福島縣種畜場 西三町
 中山宿 なかやまじゆく 二二哩
 上月 じやうご 一六哩六
 この驛より歌麿の間見苗湖の湖光を見渡される。湖は周圍十七里、海拔一千七百尺の高處に在り、煙波渺茫對岸の風物、宛然波瀾の繪を見るやうである。天晴れて風静かな日は、磐梯の山影湖面に映じて、山光水色美観云ふばかりなく、ことに瑠璃山嶺を蔽ひ、翠波激激油の如き時、暈風光の美をなすのである。○月形嶺山、南二里 ○木材、礫石、白土
 兩 郡 せきと 一八哩九
 小平 せうへい 西二十五町、猪苗代湖畔に



在り、附近を神天濱と云ひ山水の眺望佳
 道接續點
 川 新かはげた 二〇哩四 耶麻軌道
 川上温泉、北三里、樋口まで耶麻軌道の便あり、賃金往復二十八錢
 樋口より川上まで一里の坂路、此處は磐梯登山の北口に當り、噴火後の實況、小野川、秋元、檜原の三湖を眺望し得べく、夏初は釣魚、冬は遊獵に適す
 温泉、北四里、大原まで耶麻軌道の便あり、賃金往復五十五錢、大原より約八町
 沼尻温泉、北五里、大原より一里
 横向温泉、北五里、大原より一里
 水産養殖所、東十五町
 沼尻養製煉所、大原より二十町
 ○硫黃、木材、木炭
 保科正之を祀る、湖の全景を見るべし
 川上温泉、西北二里半
 磐梯山、海拔六千五百尺、山の半腹より登路甚急峻、頂上に至れば既開湖、飛騨越中の連山も巒目の中に入り、野氣肌を翻ひ白雲脚下に飛び快云ふべからず、北側に在る檜原、小野川、秋元等の湖水は、明治二十一年七月大噴火の時、檜原川長瀬川等の溪谷を填塞して所々に洪水を瀦溜したるものである、東西北の三登山道あり、東口最容易にして且つ近く、西口之に次ぐ。東口、猪苗代より土津神社を経て一合目天の庭に達し、天狗の堀割を過ぎて二合目赤地山頂に至る、猪苗代一帯の風光眼下に映く、山を北に下り沼の平に出で烏帽子岩を左に見て上れば三合目の天狗岩、北方には大小數百の湖水或は群青の如く、或は瑠璃の如く、中に檜原湖最大に秋元、小野川の二湖次で大なり、足下には噴火口あり、斷崖壁立して硫黃の臭氣を衝き、噴煙の香霧薫々たり、四合目には弘法の清水あり、清冽骨を刺す、

津川防阿の賀川略圖



十五町、徒歩三十分 ▼飯盛山、東二十五町、人力車賃二十錢、徒歩四十分、戊辰の役白虎隊の十有七士が、春尚早き青杉の身を以て君難に殉し、封建時代最後の光彩を放つた所で、墓あり、碑あり、感慨無量である、墳墓の下の築城堂は、六錢三層高さ八間半、漸々に螺旋して頂に至り、漸々に降りて下に還る、其状榮耀の殿中に似て居る、堂の西側宇賀神社あり、白虎隊士の木像を安置して居る

▼蒲生氏郷の墓、南二十町興福寺に在り

▼東山温泉、東南一里、人力車賃三十錢、徒歩一時間、會津地方第一の遊樂地、地は峯巒の間にあり、層層湯川の兩岸に並び、流水駭に激して耳聾するばかり、泉は無色透明玲瓏として玉のやうである、川に沿うて幾多の瀑布奇巖あり

▼柳津虚空藏、西六里半、馬車賃六十錢、人力車賃八十五錢、四面山嶽波濤の如く起伏し、只見川蜿蜒として白龍の過するが如き處、柳津の人家皆岩に凭り水に沈んで、宛然畫圖の趣をなして居る、堂は川に臨みて、絶壁の高きに安んじ、伽藍宏大、高欄に凭りて眺めば、山光水色甚佳、岩越沿縁屈指の名勝である

▼鹽川しほかは 四五哩七 鹿多方きたかた 四九哩五、目下喜多方山都開線路修繕工事中に付當分の間同區間は途中約四町に徒歩連絡を要す

▼精進温泉、東北三里、馬車賃廿九錢、▼日中温泉、東北三里半、▼加納嶺山、西北二里十町

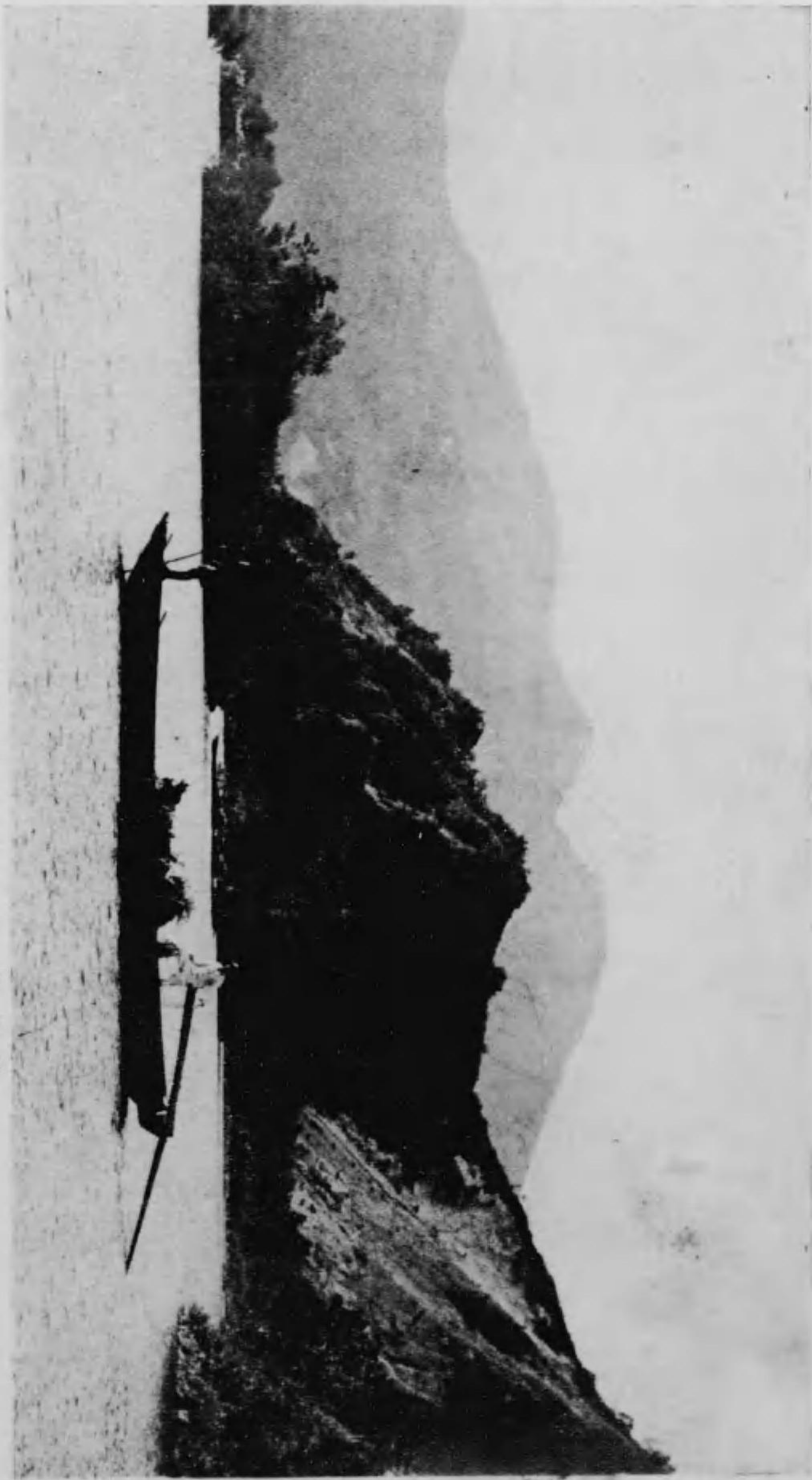
○鉛、亞鉛礦、漆器、米

山 郡やまご 五五哩六、▼飯盛山、北山麓まで五里

萩 野をさの 五九哩四

野 澤のきは 六五哩 ▼大山 紙神社、南一里半、懸崖帯の洞世、眞海法師の回基と傳ふ、人生一代に一度の遊覧は必ず成就すとて賣者絶ゆることなし、徒

全野澤代山に對する山に崖に岩金がなりとがる



(編者個人撮影) お岩を山崩れりとも湖元秋

よりして行かまじものお野澤山入るよりまよと道としりやほ 古今六帖

歩約一里半 ▼柳津遊空庵、南三里 ▼山口露山、東南二里 ○鑛石、桐材、薪炭、白土 上野尻 六八哩一 ▼銚子の口、三十町、阿賀川相迫りて峽を爲す所、之より下流數哩の間、巖石層重、崖壁巖列、碧水歡々回り、翠巒四方に聳え、雲影泛々嵐光映る、若し夫れ秋霜一度到りて萬畝紅黃、全山常に燃えむとするの時、美觀麗觀名狀の辭なし ○川魚、薪炭、木材 徳 澤 とくさは 七二哩三 豊 岡 とよみ 七四哩三 日 出 谷 ひでや 七八哩八 鹿 瀬 かのせ 八二哩 津 川 つがは 八四哩二 阿賀川峡谷の首邑、こ、より下流船便あり、壘を避け溪谷の勝を探るべく景致幽邃である ▼麒麟山城



阿賀川沿岸

址、東十六町、徒歩三十分、斷崖起伏狂風を立つるが如し、形狀麒麟に似たり、阿賀川の清流に臨みて風光佳、今拓いて公園とす ▼小花地、北三十町、次野白崎との間阿賀川の兩岸絶險、岩石亂立、本岸、經岩、衣岩、大黒岩、惠比須岩等の勝あり、蓋松其間に聳え顔る佳景である、夏の藤蔭、秋の紅葉又景趣を添ふ、麓山下より船を浮べて下る最興多からむ、船賃片道貸切一艘三十人乗、三圓五十錢 ○新炭、桐杉材、山芋 白 崎 しろさき 八八哩八 ▼御前ヶ島、西五町、阿賀川の急流奔激し、集まりて深淵となる所、風光清雅、余吾將軍平維茂の窟夫を慕うて此所に至り、碗を告ぐる鶴鳴を聞き、敵に捕はれんことを虞れて身を投じたるより此名ありと傳ふ ▼大清水鑛山、西南三里 ▼日本平鑛山、西南三里半

○鑛石、石灰石、白土、鮎、木炭 五十里 いがしま 九一哩四 阿賀川の南岸に在り ▼持倉鑛山、東南二里五町 ▼同製煉所、東南一里半 ▼電氣亞鉛製煉所、東南一里十五町 ○型鑛、型鑛鉛、亞鉛鑛、鑛石 馬 下 まおろし 九七哩五 ▼小山田櫻、西南一里四町、舊名山に在り花朝山上山下皆花、越の小芳野の稱あり、開花四月下旬 ▼大谷鑛山、西南二十町 五 泉 ござん 一〇二哩 機業地で五泉平と云ふ特地の産地である ▼村松町、一里半 ○羽二重、五泉平、絹、八ツ橋、綾 新 津 にひつ 一〇八哩二 信越本線津原驛、同線經由東京上野より二五六哩、同線新潟より一〇哩六

むら紅葉會津商人なつかしき 燕村
常陸坊忘れし年や會津山 沾柳
若松の椀荷見初むる 枯野かな 沾徳
人として雪に巢作るたぐひかな 曉臺
飯 豊 山
ひろしきに僧と二人の納涼かな 千規

奥羽線

奥羽線とは

- 一 奥羽本線 福島、青森間三〇二哩三分、及貨物支線
- 一 長井輕便線 赤湯、長井間一哩四分
- 一 酒 田 線 新庄、酒田間三四哩三分、及貨物支線
- 一 新 庄 線 新庄、羽前町間一七哩七分
- 一 船川輕便線 追分、船川間一六哩五分
- 一 能 代 線 機織、能代間二哩五分
- 一 黒石輕便線 川部、黒石間四哩一分

の總稱で、其本線は東北本線福島驛より分岐し、板谷峠を横断して米澤を指す、其間は本線工事中最困難であつた所で、十數の隧道を穿ち、山愈深き處、赤岩、板谷、峠、大澤の四驛を置いてある、古來峻峻無比、旅客の最も難所とした米澤



入の道も、今は車窓溪谷に臨み、瀑布を仰ぎ、岩石の奇、山路の曲、變化果しなき自然の大畫幅を繕きつゝ、容易に其險路を越ゆるを得ることとなつたのである

米澤よりは鐵路國道に沿うて山形、新庄を経て秋田に至る、其間出羽の三山の眺望があり、鳥海山の展望がある、鳥海山はいはゆる出羽の富士で、其山容の雄偉壯麗なる、津輕の岩木山と共に西奥州を旅行した人のながく忘るゝ能はざるもの一つである。秋田より汽車は八郎瀧に沿うて走り、風光の美うたゝ車窓の人を樂しましむるものがある。機織より線路右に折れて、米代川の溶々たる平野の間を走る、二ツ井驛のあたり、對岸七座の奇峯聳え、河流屈曲して山光と相映じ、風色頗る佳である

大館を後にすれば、汽車はやがて矢立の山中に入る、これが羽後、陸奥の境で、下内川は之より南し、平川は之より北に流れて居る、大鱒に至るまで平川を渡ること前後六回、溪山の勝また捨つべからざるものがある。弘前に至れば岩木山の秀容、巍然として雲表を摩して居る、それより汽車は津輕

Table with columns for climate (気象), temperature (気温), and precipitation (降水). It lists data for various locations like 山形 and 田川.

奥羽本線 福島—青森 三〇二哩三分

福島 東北本線参照、同線上野より一六八哩、青森より二八八哩九... 山形 五、一、六 九八二(二八年) △四、〇(二四年) 田川 五、一、一 九六、一(三三年) △二、三(二一年)

平野を走り、大釋迦より津輕坂の險を過ぎて青森に至りて止まるのである、列車の運行は本線を通じて上野青森間相互直通列車二回あり、約二十二時間半を要す。新庄線、羽前向町鳴子間一三哩餘は本年十二月開通し、羽越北線、秋田道川間一二哩餘は七年十一月開通の豫定である

Table with columns for precipitation (降水), wind direction (風平均方向), and other weather-related data. It lists data for 北西, 南東, etc.

坂 谷 いたや、一三哩五、スキー練習所に適し、冬期外人の來遊多し。五色温泉、西南三十三町、五色温泉、西南三十町、御籠七十里、四十分を要す。硫黄山、南二里、硫黄、木炭、大深、おほきは、一九哩一、關根、せきね、二二哩八、細井平洲の碑、西南三町、普門院内に在り、上杉鷹山公毎度平洲を此寺まで出迎へたり、即ち鷹山公敬師の碑である。右灰石山、東北八町、石灰石、米澤よねざは、二六哩一、米澤平野の中央に在り、山岳四方に瀾る、上杉氏の舊城市で鷹山公遺業の地である、今人口三萬八千人を有し、米澤織の産地として、櫛打の香到



近附米

る處に喧しい、其他櫻桃、酒、米、木炭、生牛等の産あり。松崎公園西二十町、人力車賃十五錢、蕎麥湯城址である、入口に松崎神社あり、治癒の靈を祀り、中央に別格官幣社上杉神社あり、諸僧の墓を祀る。林泉寺、西南二十四町、人力車賃十八錢、市第一の巨利、開ヶ原當時の怪鐘、直江繁雄の墓あり。小野川温泉、西南二里、人力車賃五十錢。高湯温泉、南四里半、所謂白布湯である。三澤山形縣境、西南六里半。唐戸屋敷山、西南四里。市役所、西十五町。米澤物産陳列館、西十五町。高等工業學校、西南二十五町。米澤、堂字壯麗。伊達公の古墳、西北廿五町。〇米、生糸、林檎、硫石、赤湯あかゆ、三三六哩一、長井輕便線分岐點。赤湯温泉、東十六町、人力車賃十二錢。温泉は古より世に聞えて居る、八幡神社は鳥帽子山に在り、今公園として階梯園と云ふ、地は小丘にして米澤平野一畔の中に在り、又櫻花の名所として奥羽地方に名高し、花朝四月下旬より五月上旬、町の東北十町、白龍湖あり、湖上水草の振動れ流れて島の如く見ゆるあり、之を浮き島と云ひ、彼方此方の岸に附いたり切れたりするを見る。中川、なががは、四一哩二。中山の葡萄園、一里、本邦稀有の歐州種的好適地、栽培反別三十町歩、産額三萬圓に上る。〇葡萄、上山、かみのやま、四七哩八。上ノ山温泉、西十町、古來有名な温泉である、町の西



近附形山

丘に在る月岡城址は、今公園となつて居る、前に藤王の連山を穿ち脚下龍川の流あり、眺望佳。吉野山、西二里半。藤王山硫黄山、東四里。〇銅鑛山、硫黄、木炭、生糸、櫻桃。金井がなみ、五二哩。龍川温泉、南二里半、龍川の上流に在り、所謂上高湯である、人力車賃一圓五十錢、硫黄質七十錢。藤王山、東南四里半。中川村小倉青年團、東二里半。〇蘆細品、山形、まがた、五五哩三。古の最上、山形平野の中央に在り、遙に月山の聖徳を尊む、維新前水野氏の城市であつた、人口四萬五千人を有し、龍月餅、千歳饅頭、櫻桃、桐紙、林檎、銅鑛器を産し、製斗梅、異種細工の名産がある、市附近多く薄荷の産あり、近時薄荷糖、薄荷玉として南洋地方に輸出せらる。六八八町神社、南九町、人力車賃十四錢。柏山寺、東北二十町、人力車賃二十錢、古の備分寺である、境内に接して千歳公園あり。専稱寺、東北二十町、人力車賃十七錢、堂宇壯麗、欄間の飾の彫刻有名である。龍迎堂、東一里半、人力車賃廿七錢、四十分を要す、日本三釋迦の一である。山形縣廳、東北十七町。市役所、東北十七町。山形縣物産陳列所、東北十五町。山形縣感化院養老園、東十町。農事試験場、東南二十一町。農工銀行、東北十九町。大寺青年團、西北二里半。東澤山形縣境、東三里。山形市は山形縣廳所在地で、縣は羽前國及羽後國の一部を管轄して居る。奥

羽山縣東境に連り、西部も亦山脈連亘して鳥海山、月山等あり、兩山脈の間に米澤盆地山形盆地あり、最上川貫流して北し、日本海に入る、川の下流の庄内平野には米の産多く、酒田港其集散地となつて居る。山形市附近よりは櫻桃、薄荷を出し、米澤は養蠶機業の繁盛に、米澤織の名産に世に聞えて居る

櫻桃の主要産地 (大正四年)
山形 七〇、三〇〇圓 福島 四二、三二七圓
北海道 三九、六九八圓 青森 四、九五七圓
全国 一七二、二七一圓

山形より東北三三三八町、人力車賃六十錢、二時間を要し、次藤天童驛よりは二里六町、人力車賃四十錢、一時間を要す、寶珠山立石寺である、寺は山の中腹に在り、金山寄岩怪石繁々として重疊し、磴道軒索、殿堂巍々として散在し、出羽屈指の靈刹である。▼千手堂、西十二町 ○米、綿布、苗木
天童
てんどう 六三哩六 織田氏の舊城下、藤東田野の間に隆起せるは舞鶴山で、天童城の在つた所、戊辰の役に、織田氏勤王の大義を唱へて、奥羽連衡軍と戦ひ、全市悉く兵燹に罹つた、山上僧長を祀つた建勳神社がある、遙に月山を翳んで景致佳 ▼若松親世普、東一里十町 ▼出羽の三山、西十二里より十八里、途中本蓮寺まで九里半、人力車賃二圓、月山、羽黒山、湯殿山を云ふ、山形及この驛より登るがよい、夏時登拜者山中に絡纏して居る、警署多くは湯殿を第一にし、月

山を第二にし、羽黒を最後にする、俗に三山懸起九里と云ひ、三山皆神社あり、月山神社は今官幣大社に列し、出羽神社、湯殿山神社は國幣小社に列して居る
▼津山温泉、東八町 ▼小山嶺山、西八里 ▼水松嶺山、西北十里 ○米、鑛石、草履表
神町 じんまち 六七哩二 谷地町整理耕地、西二里 輕便鐵道の便あり
▼小見川人工粉化場、西三十町 ▼谷地町整理耕地、西二里 輕便鐵道の便あり
○鑛石、銅、木材、草履表
東一町 ▼東根山形縣樹林、東二里
十町、人力車賃十二錢 ▼東根製糸場、東十一町 ▼東根山形縣樹林、東二里
○養蠶 絹 四たてをか 七一哩七 ▼天龍橋、西二里、人力車賃二十錢、最上川に架す、此邊觀光頗る佳
湯澤沼、東十七町、附近小松澤製蠶あり
大石川 おほいした 八〇哩一 最上川の河港とも云ふべく、これより酒田まで流程二十二里、兩岸の風光甚佳、驛の東根山鑛泉、西に龜井田炭山あり ○石炭
米、木工板
湯澤あしどは 八四哩三 舟 舟ふながた 八八哩四 ▼鶴羽根地蔵、南二十町 ▼大藏鑛山、西南六里 ▼大藏村南山青年團、西五里
▼舟形整理耕地、北五町 新庄 しんじやう 九三哩五 戸澤氏の舊城邑、酒田線及新庄線の分岐點である ▼沼田城址、西十二町 ▼瑞雲院、東北二十町
▼山形縣種畜場、東北約一里 ○薪炭、木材、紙粉、生糸
泉 山 いづみた
九七哩 ▲軍馬補充部支部、東二十町 ▼縣立種畜場、南十六町 眞室川まむろがは 一〇三哩一 ▼金山嶺山、東二里 ▼眞室川山形縣樹林、東北一里
○薪炭、米、木材
釜 釜かまぶち 一〇八哩八 及 けのぞき 一二六哩

六 院 内 あんない 一二二哩 ▼湯の湯温泉、南二十六町、人車賃道賃十錢二十分を要す ▼院内銀山、北一里半、本邦著名の産銀山である、人車賃道賃二十八錢 ○金銀鑛石、木炭、石材
堀 堀よこぼり 一二四哩四 ▼小野小町 芍薬塚、東七町 ▼湯の湯、船住、鷹ノ湯温泉、東南四里餘、駄馬賃一圓 ▼横堀村山林、南二十町 ▼湯 湯ゆさは 一三二哩九 ▼湯ノ原鑛泉、東七町、人力車賃十五錢 ▼愛宕公園、南十町、櫻花多し、花期は四月下旬より五月上旬まで ▼佐藤信淵の墓、南二里半 ▼秋田木工會社、東一町 ▼湯澤木工場、東一町 ▼雄勝製糸場、東六町 ▼松岡鑛山、西一里六町 ○米、木炭、木材、鑛石、生糸、曲木細工品
十文字 じゅうもんじ 一三六哩五 ▼秋田式模範桑園、東二十五町 ▼吉野鑛山、東二里半、▼田子内鑛山、東四里半 ○米、木炭、漆器
手よこて 一四三哩一 戸村氏の舊城邑、御物川平野の東に在り、鳥海山の展望甚佳、驛の東十餘里、辨天、松川、赤石、鷹巢の諸鑛山あり ▼横手城址、東十五町、今公園となつて居る、戊辰の役戸村氏勤王の義を唱へて、孤軍奥羽聯合の兵に當つた、▼横手殖林、東北二里 ○米、鑛石、木綿
飯 詰 いひづめ 一五〇哩二 ▼金澤城址、東南一里半、後三年の役に清原武衡、家衡が王師に抗した舊址、源義家の勳蹟した八幡宮がある ○米
大 曲 おほまがり 一五四哩六 ▼田澤湖、東北九里、人力車賃二圓五十錢、六時間を要す、周囲三里、正しき圓形を爲し、四面翠柳を繞らし、深碧なる水面靜に樹影山影を涵し、幽邃を極めて居る ▼古四王神社、二十町 ▼水産試験場鮭孵化場、東北一里

▼大戸川鮭漁、西北二十町 ▼生保内銀山、東北十里 ▼高野村整理耕地、東一里、飯詰大曲間汽車沿道、一千五十町歩である ○米、木炭、櫻皮細工
神宮寺 じんぐうじ 一五八哩四 ▼神宮寺嶽、西南二十町 ▼八幡宮、南八町 ▼秋田種馬所、東二十町 ▼製材工場、西二十町 刈和井かりわの 一六三哩一
境 さかひ 一七〇哩一 ▼荒川鑛山、東二里半 ▼三日市鑛山、東南六里
○製銅 和田 わだ 一七八哩五 秋田 あきた 一八六哩八 佐竹氏の舊城址、御物川は滔々として市の西を流れ、西北には土崎港を控へて居る、今人口三萬七千人を有し、物産には紙織、八丈織、金銀細工、羽二重、秋田蓑、諸越、漆、砂積漬等がある ▼千秋公園、西北二町、舊城址、東北第一の公園と稱せらる、園内舊藩祖義實を祀れる、秋田神社あり、園内又櫻樹多し、花期四月廿五日より五月上旬まで ▼八橋公園、西北三十町、自動車五人乗二圓、人力車賃三十五錢 ▼平田馬場の墓、北十三町 ▼新釜海水浴場、西南二里、自動車賃切五圓、人力車賃三十五錢 ▼金照寺山公園、東南十六町 ▼泉石油産地、北西一里 ▼秋田縣立、西九町 ▼市役所、北十町 ▼物産陳列所、西九町 ▼秋田縣立專門學校、北八町、▼秋田縣感化院陶育院、二十町 ▼感恩講、市及郡部に同種類のもの十三あり、市に在るは文政年間に取り、貧民救済、貧兒教育を目的とし、日を定めて施米す、感化救済事業にして徳川時代より繼續せるもの東京の養育院と福山の養倉と



近 附 田 秋



この地誌編纂のめいである。▼農工銀行、西十二町 ▼仁保秋田水道水源保安林、東北四里 ▼ライオンサン石油支所、北二町 ▼秋田木材會社支店、西南二十町 ▼秋田織物會社、西十五町 ▼秋田酒造會社、西十七町 ▼相澤織工場、北一町 ▼農事試験場、南一里 ▼秋田産牛馬組合事務所、西一里 ▼秋田座、西十五町 ▼秋田縣中央整理耕地、東半里 千五百町歩 ▼廣範村平澤河、南西十四里半 ▼下黒瀬青年會、南五里

秋田市は秋田縣廳所在地で、縣は羽後國の大部及陸中國の一部を管轄して居る。東境には奥羽山脈連亘し、中央には蘇吉火山あり、日本海岸には男鹿半島突出して八郎潟を抱いて居る。縣は最盛山に富み、銀山として名高き檜山あり、金銀銅を出す院内銀山あり、荒川銅山あり、能代川流域には有名な小坂を始め尾山、不老倉、阿仁の銅山あり、土産青も亦此縣の特有産物である。尾去澤地方は又山林多く、河川の能代には大なる製材所ありて輸出して居る。縣の中部以南は阿仁川の流域で、秋田市其下流に在り、附近石油を産し、黒川油田最世に開え、土崎に製油所がある。

●土産青の産地 (大正四年)

府	縣	歌	價
秋田	田	五二、〇五九圓	五二、〇五九圓
山形	形	一〇、〇〇〇圓	六〇〇圓
計		五二六、七五九圓	五二、六五一圓

●用材の主要産地 (大正四年)

秋田	一、九九〇、九二二圓	新潟	一、六五四、〇一五圓
北海道	一、六五〇、四一九圓	長野	一、五一一、九四五圓
福島	一、三八九、四二二圓	奈良	一、三七二、八四一圓
宮崎	一、三五三、三四三圓	岩手	一、三三二、八〇五圓
三重	一、三〇五、九八一圓	岐阜	一、二七一、五五五圓
京都	一、一七二、九七九圓	山口	一、一〇、五三七圓
静岡	一、〇七七、六四四圓	鹿兒島	一、〇二六、二五〇圓
全圖	三六、九八四、三六八圓		

土崎 つちぎき 一九一哩二 ▼古四王神社、南二十町、國幣小社である

▼土崎公園、南半里 ▼水産試験場、西北十二町 ▼日本石油秋田製油所、西北十三町 ▼日本石油黒川坑場、北三里半、日目の噴油一萬三千石に達することあり ▼秋田縣水産試験場、西北十七町 ▼男鹿半島廻り、西北十四哩、船賃三十人以上一人金一圓、汽船一艘金五十圓、門前より戸賀の間凡三里半、奇巖奇石接ぎ連あらず、中に鶯窟窟窟聞えて居る、額三層も管て「男子一度男鹿の島を探りて、松洲初て妖嬈に屬するを覺ゆ」と云へり、奥羽線中最景勝に富んだもののである。○石油、鮭

退分 おひわけ 一九四哩九 船川輕便線の分岐點

▼日本石油黒川坑場、東二里十町 大久保 おほくぼ 一九九哩四 ▼八郎潟、西十町、常陸より五城目を經て、鹿渡に至る間、汽車はこの湖に沿うて走り、うた、旅客の目を樂しましむるのである。▼中外石油アスファルト會社、東三十町 ○石油、アスファルト、佃煮、礪石 五城目 こじやうのめ 二〇四哩

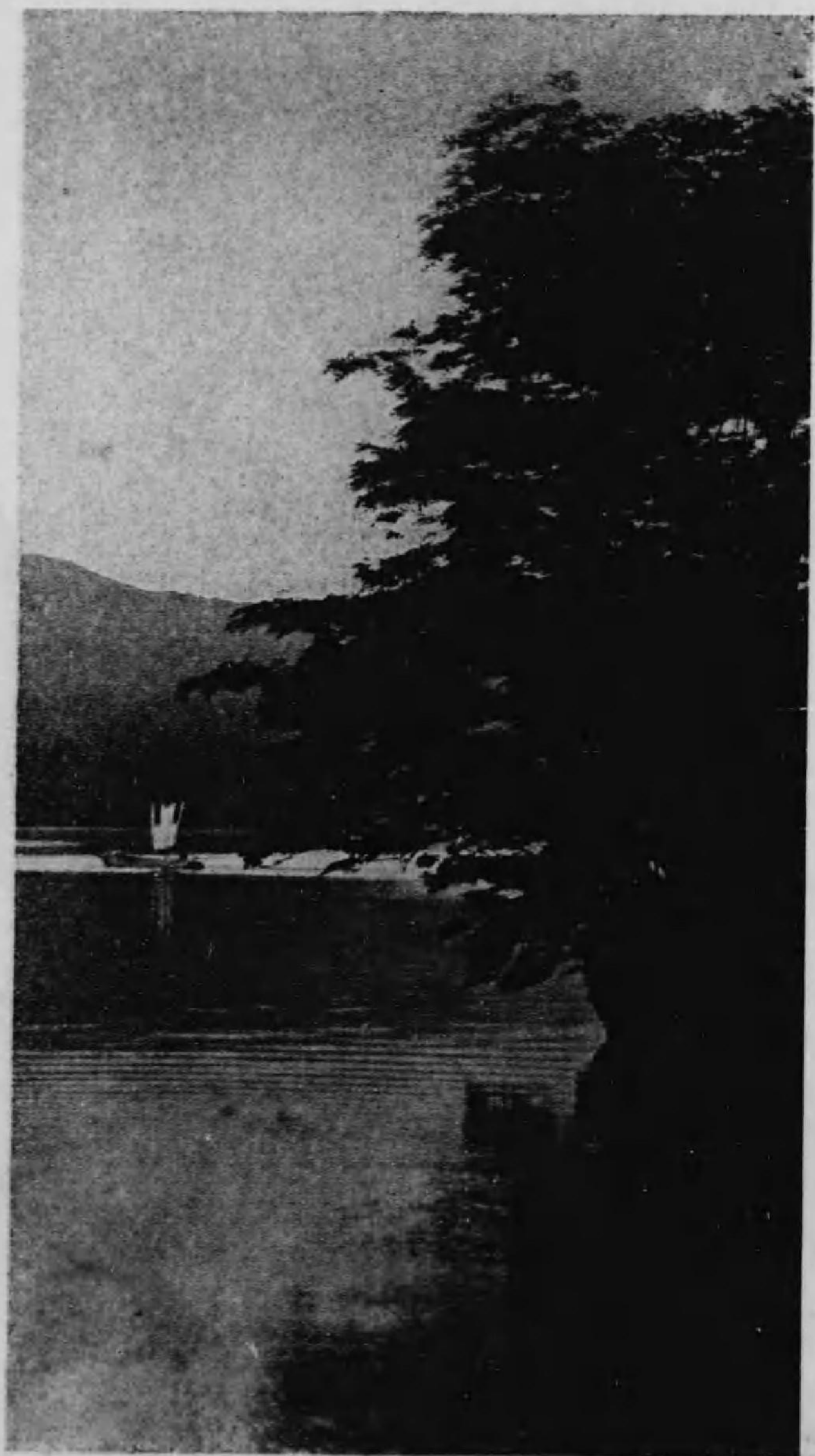
▼八郎崎、西半里 ▼三倉島、北一里、湖の全景を見るべき景勝の地点である。人力車賃二十錢、三十分を要す ▼五城目公有林、東二十町 ○鐵瓶 鹿渡 かに 二一哩五 森岳もりたけ 二一哩六 鐵瓶はたおり 二二三哩 能代線の分岐點、能代は能代川口に在る港にして、木材、春慶産の産地として名高く、其他銀、銅、木炭、木屑、鮮魚を出し、名物鱈、梨、羊羹あり、秋田木材會社工場を始め、深井、館岡、金野、杉本、柳谷等の挽材工場多し、港の北五里半精鑛山あり ▼志戸橋整理耕地、南三里、森岳橋南、汽車内より見ゆ

富根とみね 二二八哩三 二ツ井ふたつみ 二二二哩五 ▼七座山神社、東南一里十二町、馬車賃二十錢、祠宇森嚴、古木天に參る ▼高岩神社、北三十町 ▼俵后坂、東北二十町、米代川一帯の風光一時の中に在り、明治天皇東北御巡幸の際、此處に御休憩、風光を賞覽あらせられた所である ▼七座山保護林 東二十町 ▼太良鑛山、北六里 ▼阿仁鑛山、東十里 ○銅、鉛、木炭、桶木、鮎 鑛の里 大かのす 二四〇哩三 早口はやぐち 二四五哩七 ▼田村鑛工場、東十五町 ▼赤倉硫黄山、北四里 ○木材、硫黄、桶木 大館おほたて 二五一哩五 秋田鐵道、小坂鐵道、同花岡線の分岐點である、秋田鐵道は數より南花輪町に至るべき輕鐵で、目下毛馬内まで一五哩餘開通して居る、沿線には尾去澤鑛山、淺野製材所、大瀧温泉等がある、資金大館毛馬内間三十九錢、小坂鐵道は大館より東北に走ること一四哩餘にして、有名なる小坂鑛山に達し、花岡線は西北三哩、花岡鑛山に通じて居る、資金大館小坂間二十九錢、大館花岡

間六錢。湖の北東に方り國有長木湖の森林あり、日本三大美林の一で杉の良産し、高さ三十間より三十五間に達するものあり、日本第一の高木がある、製材工場、桶木工場多く、木材類の輸出全國に冠たり、又在時より開火盛麗々大會を催し、各地猛犬の集會を見る ▼十和田湖、小坂より八里、手馬成七里半、外に東北本線古間木より奥入瀬の溪流に沿うて行く道がある、小坂秋田鐵道に頼りて行く人は歸途この道を取りて古間木に出づるが可し、八甲田山に登つた人は、直に南して湖畔に出づるが可い、小坂より三里、馬車賃八十錢、人力車賃一圓、毛馬内より大瀧温泉まで馬車賃四十錢、人力車賃五十錢、大瀧より湖畔まで五里、途は溪流に沿うて寂寥の氣人に逼り、歩毎に幽境に入るの感がある、湖は約三里四方、汀線曲折出入して十層の礎あり、湖面は海抜千五百尺、花部山、十和田山、戸來嶽、其周を繞りて、北方更に八甲田群山の、巍然として雲際を摩するを見、惠比須島、甲島、鉾島、薔葉島等散在して、いづれも古松を載き、翠嵐瀟らむばかりである、湖畔には、村落二三炊煙迷離、薄々たる明鏡と對して、幽邃の風致を極めて居る、水邊は峭壁直ちに起りて絶壁をなし、暗綠の松樹倒に影を湖心に投じて居る、微風時に徐に動けば、蒼綠の湖波を代す、これを色分と云ふ、湖中山、湖邊山の長嶺南岸に突出し、内、外湖の三灣を擁し、其湖中山に十和田神社あり、風光の勝を占め

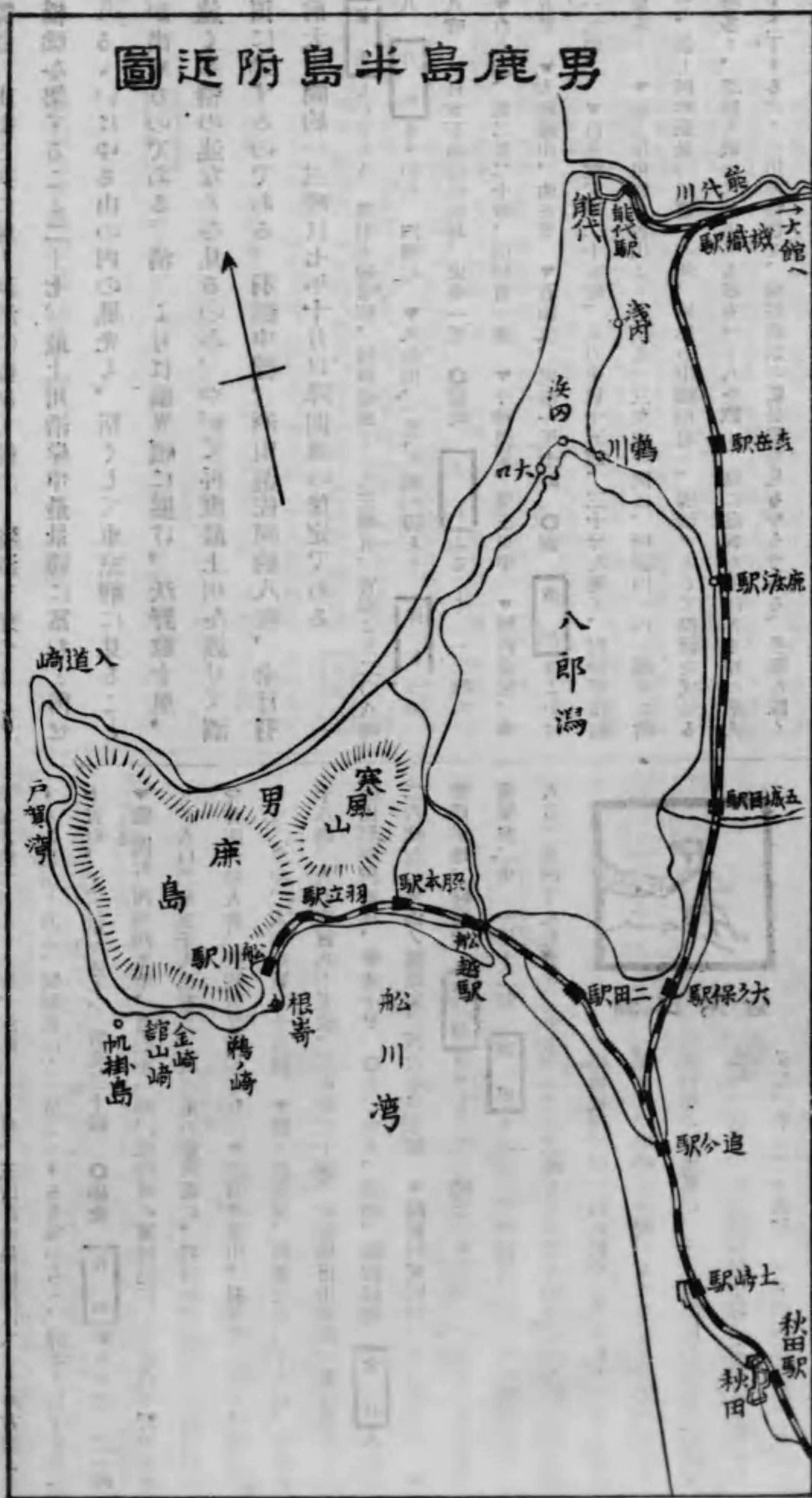


勝の湖田和十



光風の湖田和十

男鹿の島を
了んだもの
（木門）
鼓點
高、
り、
三十



男鹿島半島附近圖

汽船費二十五錢、船間より馬車費三十五錢
 加茂港、海路九哩、汽船費三十錢
 船間より馬車費三十錢
 温海温泉、海路二十一哩、汽船費六十錢
 湯ノ田鐵山、北五里十町、馬車費六十五錢
 鳥海山、東北頂上まで八里十二町、鞍岡まで四里半、馬車費三十五錢、人力車費六十錢、山は海拔七千尺、本邦に於ける屈指の名山にて、山容の秀麗富士に次ぐと稱せられて居る、西麓吹浦並に鞍岡に國幣神社大物忌神社あり
 飛鳥、海路二〇哩、汽船費六十錢、奇跡多き別天地、鳥賊の漁獲多し
 鮎海都整理耕地、附近一帯七千四百町歩、揚水機の設備あり
 酒田慈善授産會、南二十町

哩八
 瀬見温泉、西南八町、瀬見川の清流、絶み、山水の麗あり、秋季紅葉の美あり
 辨慶笠掛櫻、西南四町
 龜湖觀音、西北三十町
 羽前町うぜんむかひまち 一七哩七 〇木炭

船川輕便線 追分—船川 一六哩五分

(譯名の下に記せるは追分よりの哩程なり)

この線は追分より分岐して西し、船川に至つて止まる、男鹿半島巡りは、この線に頼つて羽立又は船川に至り、其處にて舟を雇ふが便利である

- 追分 おひわけ 奥羽本線發、同線福島より一九四哩九、青森より一〇七哩
- 四二 止 ぶたど 六哩五 八筋橋、西北一里 〇鮮魚、菓細工
- ふなこし 九哩二 八坂神社、東十町 〇鮮魚
- 羽立 はだち 一四哩七 船川港、東南二十五町 〇鮮魚、萬本
- 船川 ふなかは 一六哩五 男鹿半島巡り、西南海上三里、羽立又は船川より舟を雇うて戸賀に至るを云ふ、此間凡三里半、十五人乗小船一艘一日發團、三十八人乗同五回、奇巖怪石懸接に違あらず、神工鬼斧の響も古し、中に鶯雀置の勝最世に聞えて居る 〇鮮魚

新庄線 新庄—羽前町 一七哩七分

(譯名の下に記せるは新庄よりの哩程なり)

この線は新庄より分岐して東し、長澤、瀬見を経て羽前町に至れる線で、東北本線小牛田より分岐せる陸羽線と近き將來に於て連絡するもので、羽前町鳴子間一三哩餘は本年十二月開通し、以て全線開通を見るの豫定である

- 新庄 しんじやう 奥羽本線發、同線福島より九三哩五、青森より二〇八哩
- 八 長 ながきは 七哩 山間の僻地附近木炭を産す
- 瀬見 せみ 一一

陸 羽 線

小 牛 田 — 鳴 子 二 七 哩 九 分

(驛名の下に記せるは小牛田よりの哩程なり)

本線は東北本線小牛田より分岐し、新庄に至りて奥羽本線に接せむとする線で、今既に小牛田より鳴子まで二七哩九分の間開通して居る、新庄方面よりは既に羽前向町まで一七哩七分の間開通し、本年十二月、鳴子、向町間一三哩餘の開通を俟つて、全線の開通を見るべき豫定である

- 小 牛 田 二 七 哩 九 分 東北本線参照、同線上野より二四哩三、青森より二二哩六
- 北 浦 きたたら 二哩八 陸前古川よりくぜんふるかは 六哩一 米屋製糸場、西北九町
- 米、木材、生糸 中新田 なかにひだ 九哩九 〇米、薪炭
- 岩田山 いはでやま 一五哩四 岩田山城址、西八町 官城種馬所、南一里
- 酒、木材、羽二重、生糸 池 月 いけつき 二〇哩二 名馬池月の産地として名高し
- ▼池月金山、西北半里 ▼松程金山、北三十町 ▼姥捨金山、東北十五町
- ▼砥漣山、北四里半 〇木材、石炭、石材、馬 川 渡 かはたび 二四哩一
- ▼温泉八湯、小牛田より約一時間にして山紫水明の一郷に達す、温泉村

と云ふ、給の如き青嶺重疊し、荒雄川の清流其峽間を流る、東川渡より西中山に至る二里余の間、山青く水清き所、靈泉山腹に、河畔に、平地に、田圃に、庵々として湧出す、中に古來有名なるは川渡、田中、赤湯、元車湯、新車湯、鳴子、川原中山の八ヶ所にして温泉八湯の名あり、近きは一町遠きも一里半を隔てず、硫黄泉あり鹽類泉あり、酸性あり亞爾加里性あり、斯かる短距離の間に斯く多様の泉あること、誠に稀有のことである

▼川渡温泉、十四町、人力車賃十八錢、中山の麓、荒尾川畔に在り、温泉八湯の咽喉、硫黄類泉で、古來脚氣に特效ありと聞えて居る

▼小黒ヶ崎、十八町、全山翠綠高る松樹繁茂し、磊々たる岩石を包み、雜ふるに春は櫻、山吹、秋は紅葉の美あり、山高からずと雖も景頗る佳、紅葉の勝地として聞ゆ

▼田中温泉、二十町、人力車賃二十錢、泉質軟能川渡に同じ

▼鳴子なるこ 二七哩九

▼鳴子温泉、一町、硫黄泉にして瘡疾に効あり、地は花洲山の麓、荒雄川畔に位し、山水の麗光幽邃閑雅、温泉八湯中の首位に在り、建治の頃源廷臣親經を此地に避けし時、發靜龜湖峠にて龜若を生み、此湯を難湯として用ひ、始めて煙を發したり、因て此地を鳴子比名づけ、後鳴子に



規
止み、
温泉で

東 部

海



鳴子附近地圖

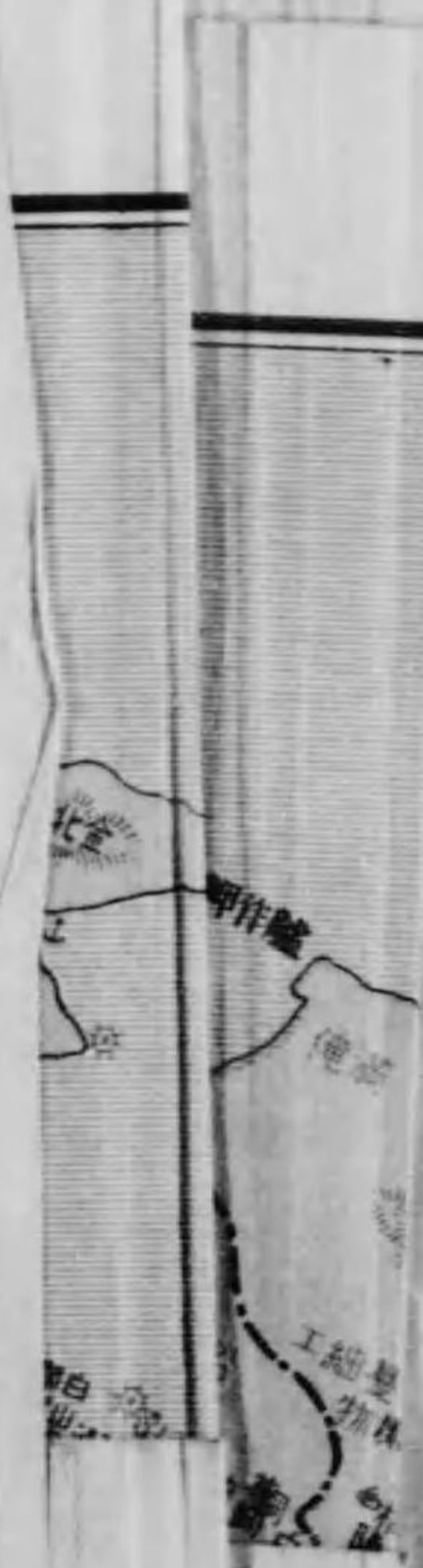


温泉八湯

改むと傳へて居る ▼河原湯温泉、二町、鹽類泉にて痛風に效あり ▼新車湯温泉七町、人力車賃十錢、鹽類泉にして新氣、價廉質斯に效あり ▼元車湯温泉、新車湯に接し、同じく鹽類泉である ▼赤湯温泉、十五町、人力車賃十五錢、炭酸泉にして婦人病に效あり ▼湯田、八町、鳥谷ヶ森山頂に在り、薪火口である ▼花淵山、五町、秋期紅葉の美あり ▼中山温泉、一里半 ▼片頭、吹揚温泉、三里、本邦に於て間歇性沸騰泉は伊豆の熱海のみひとり世に知られ、この泉を知らざるものが多い、源泉は周圍を聳へて池となし、泉の沸騰を候して、之を管に導き、浴槽に送る、其噴口は左右兩口ありて、右口既に満溢して、漏れむしするに際し、忽然轟發し、輻輳沸騰空中に噴揚する、左口止めば右口之に繼ぎて昇騰し、一起一息皆て序を失せず、晝夜七回時を過へない、泉性は透明純潔微に硫黄の臭を放ち、中性の反應がある、又沈澱物ありて水の觸る、所には、大抵化石上じ、木葉草根等の石に化したものも、其文理現然として見ゆる、英姫等過つて温泉に隔れば、忽ち殺せられ、全形直に玉石と變ずるのである、泉は近時大孔の噴泉止み、小孔のみ二時間毎に噴泉し、舊時の偉觀半は減じたれども、尙本邦稀有の温泉である ▼本山銅山、一里 ▼片山硫黄山、三里 ○漆野、木地細工

山の温泉や裸の上の天の川 子規

鳴子附近地圖



函館線

函館線とは

- 一 函館本線 函館、旭川間二六五哩四分
- 一 上磯輕便線 五稜郭、上磯間五哩四分
- 一 幌内線 岩見澤、幌内間八哩五分、及幌内太、幾春別間四哩五分
- 一 歌志内線 砂川、歌志内間九哩
- 一 手宮線 小樽、手宮間一哩七分
- 一 岩内輕便線 小樽、岩内九哩三分

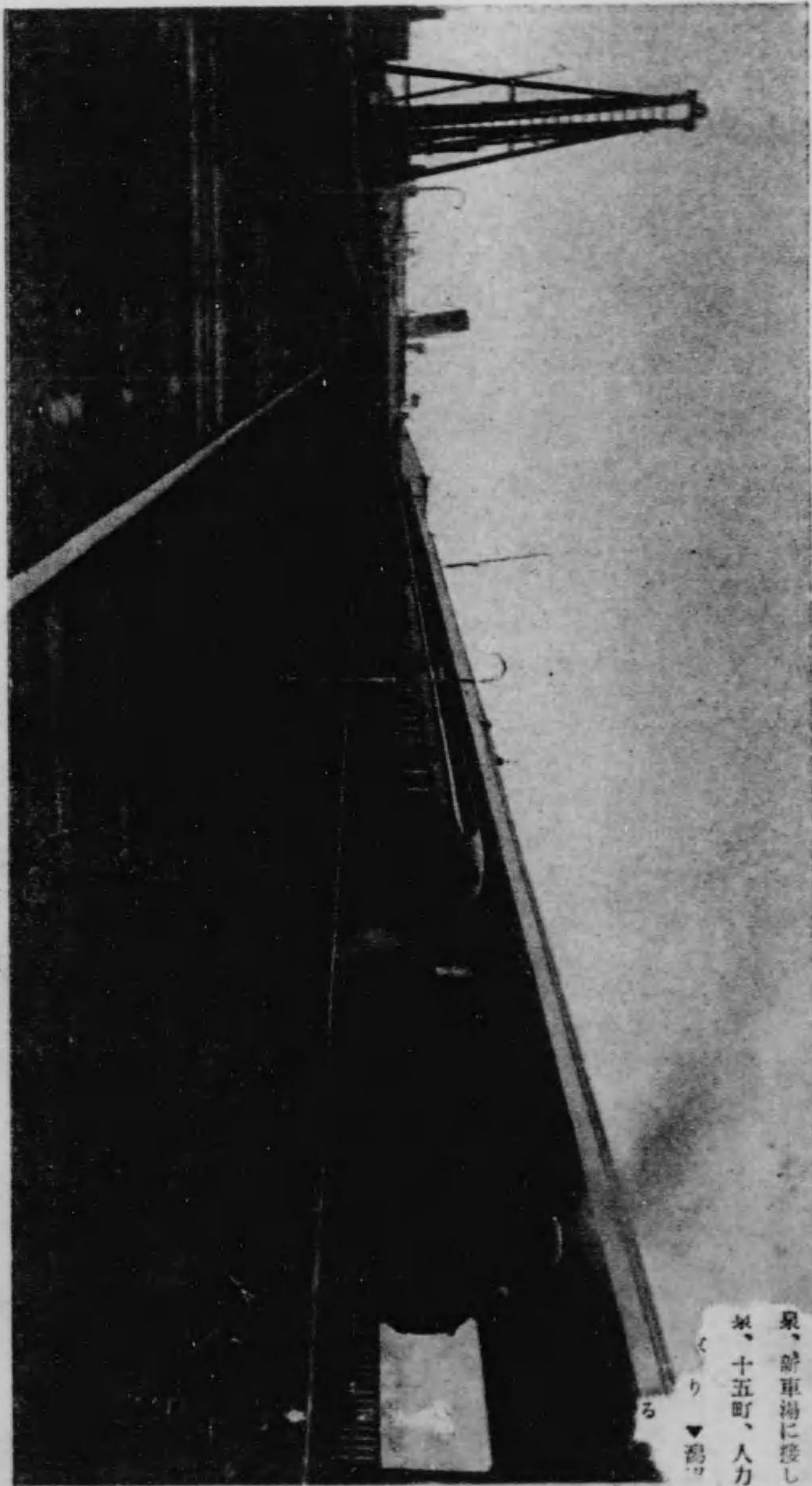
の線稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、函館港を起點として小樽、札幌、岩見澤を経て旭川に至る、其間約十六時間を要す。釧路本線は函館本線瀧川より分岐して釧路に至るものにして、この線と相俟ちて帝國鐵道幹線の一部をなし、



函館より釧路への直通列車あり、二十二時間にて達す。沿線の風光としては大沼公園あり、駒ヶ嶽、後方羊蹄山の展望あり、膽振灣、小樽灣の眺望あり、特に植物の只觀本州と異り、本州到る處に見る松杉も本道に入りてはそく、自然林景を見ることを得ないが、其代り白樺の林の白き幹など目新しき感じを起させるものがある。もとより百草草創の新天地のこゝとて名所古蹟の探るべきものは尠けれど、山海の風光に自ら大膽的の面影あり、而も雄渾の氣天地に充ち

んで止むなき新創の都あり、旅客は想像が多からう。各支線の記事は本線に併

あめの下國はあれどもものさばに
海幸あるはえぞのこゝ



新風に效あり ▼新車海邊
風類象にして新氣、便賃質
泉、新車海に接し、同じく
渠、十五町、人力車賃十五
町、八町、

(新) 函館線 函館港 函館

函館本線 函館—旭川間 二六五哩四分

(驛名の下に記せるは函館よりの哩程なり)

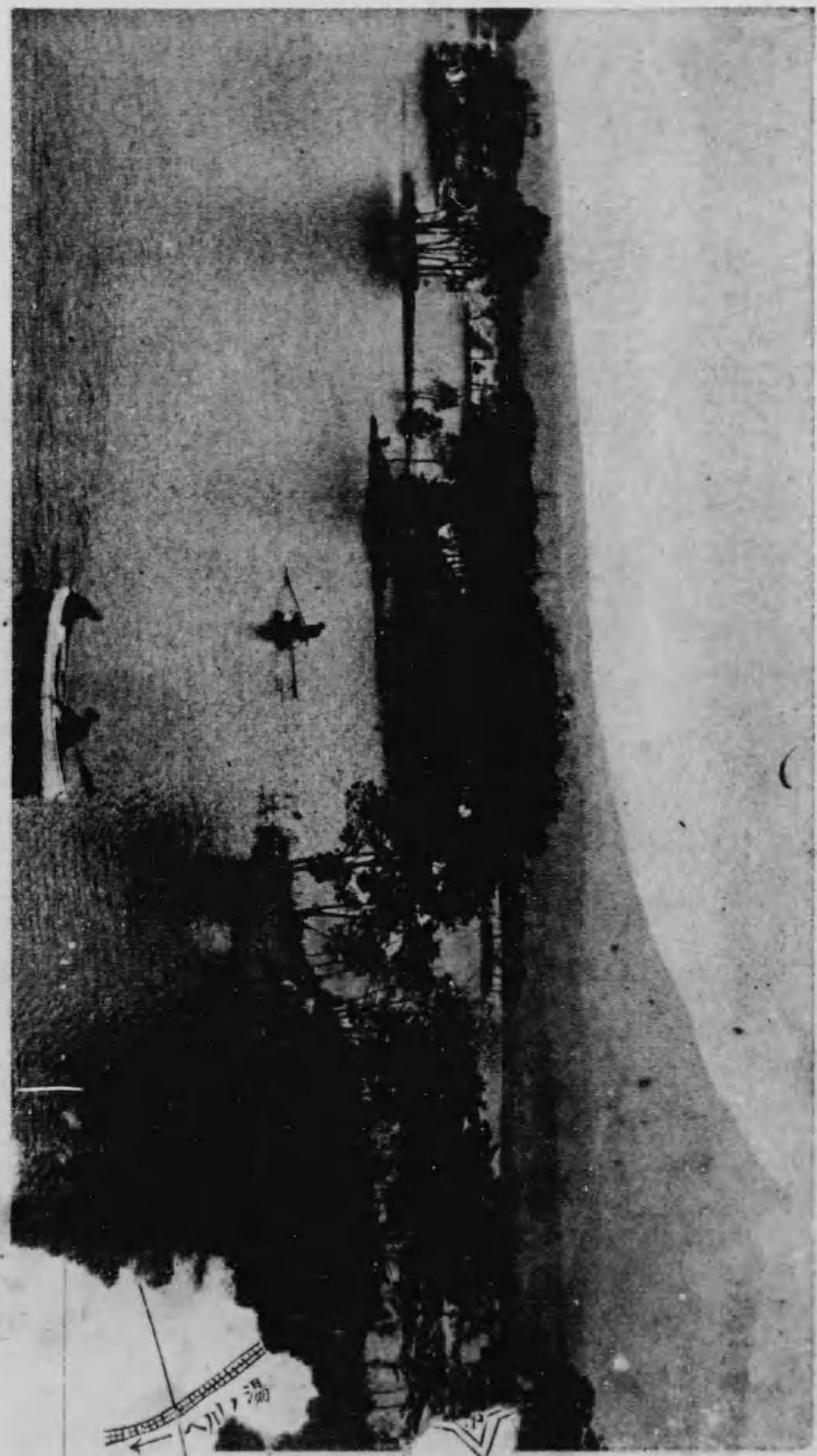
函館にこだま 北海道出入の門戸を人口十萬八千人を有し、本州青森との間に鐵道院直營の連絡船あり、毎日朝夕二回運航し、約四時間を要す、地は函館灣に臨み、港口は西側に開き、龜田の西南端の如く斗出せる函館山の山嘴より、一條の市街を爲して、砂濱に連続し、水深く山高く海灣巴形をなして居る、開港場の一で大正四年の貿易額輸出四百七十九萬圓、輸入四十萬圓あり、産物には水産物、製氷等がある



近附館函

▼函館公園、南二十五町、電車賃五錢、櫻樹多し、花初五月上旬
▼國幣中社函館八幡宮、南二十八町 ▲大森濱、南十町、海水浴場あり ▼湯の川温泉、東一里三十町、電車賃十一錢 ▼谷地温泉、南二十六町、電車賃五錢 ▼五稜郭、東北一里、電車賃五錢、幕末脱藩の徒最後の決戦場 ▼トラピスト修道院、シスターシアン宗に屬する所謂不言教徒の修道院で、男女兩院あり、男院は西七里富別村に、女院は東北二里上湯之川村に在り、牛を飼育し、牛酪を製造して居る ▼福山城址、西南二十五里、海路汽船便あり、城は慶長年間松前氏の築く所、今尚往時の宏麗を便に足る、城内今拓いて公園としてある ▼函館支廳、

南西二十七町 ▼税關、西二十五町 ▼控訴院、南二十八町 ▼函館山保安林、西南半里、函館港 ▼五稜郭赤松造林地、東南十五町 ▼大日本人造肥料、東二十五町 ▼錦屋、巴屋、南十九町 ▼上磯輕便線の分岐點、驛の附邊大日本人造肥料會社、東二十五町 ▼邊野セメント會社工場、上磯輕便線、石灰石を出す ○人造肥料、煉瓦、馬鈴薯 精米、とうもろこし、五哩二
▼園田牧場、東八町 ○蘿蔔 七 板な、え 八哩六 ▼鐵道院苗圃、南五町 ▼七飯苗圃、南十二町、北海道有数の固定苗圃である ▼七飯山毛織物林、東南廿五町、慶應年間獨逸人ガルトネル氏の植栽に係る 小 蝦は、とうもろこし、一哩三 ▼熊ノ湯温泉、北東一里半 ▼江刺町、西十四里、馬車一、一哩三 ○米馬鈴薯 大 沼 おほぬま 一六哩八 驛は直に大河に臨んで居る、大沼は大小二箇に分れ、兩岸相連つて鐵形を成し、其最狭き處を「セバツ」と稱し、宛に鐵橋を架して汽車を通じて居る、汽車この水部を走るとき、仰げば駒ヶ岳火山ゆるあり、俯せば無數の島嶼の對水に聳べるあり、正に北海道一の公認の景勝地也、大沼公園を設く ▼硫黃山、東南三里 ▼鹿部温泉、東四里十五里 ▼函館訓育院、小沼を隔て、約一里 ○硫黃、石材、凍水、鱈の産地 東あかあがは 一九哩八 ▼金沢造材會社、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



(函館支廳大沼町大)

函 公 招 大

大沼公園地圖



○哩八 石倉(しくら) 三八哩六 ▼濁川温泉、東南二
 べ 四一哩二 井田里のたおひ 四四哩五 山 山
 雪やぐら 五〇哩六 ▼鮭人工孵化場、西三里半 ▼徳川農場、中一町
 ○鮭、養粉 山 鮭やまさき 五五哩 ▼石川農場、驛附近 黒 黒くろい
 は 五八哩八 園 園くぬひ 六四哩 驛の西南三里、大泉、あしや山あ
 り ▼馬政局馬所、南一里 ○木炭、木材、満備 中ノ野なかのさは 六七哩
 一 一萬部をしまんべ 六九哩九 二 股ふたまた 七五哩二 三 股
 わらびたい 七八哩九 黒松内くろまつない 八二哩三 ▼神宮、北四里、
 馬車賃六十錢、鹿澤港の西端に在り、戦艦は鉈より満洲に渡つたと傳ふ ▼歌集
 北三里半 一 那ねつぶ 八七哩三 上日名かみめな 九一哩八 園 園
 らんこし 一〇二哩一 昆 布こんぶ 一〇六哩七 附近青山、宮川
 諸温泉あり ▼青山温泉、一里半、馬車賃五十錢、一時間半を要す 五 五か
 りふと 一二二哩五 ▼洞爺湖、東南九里十町、琴科四邊を環りて湖心の島屋、
 水に映じ風光頗る幽邃である、留郷まで五里六町馬車の便あり、賃金九十錢
 ▼曾我農場、東二十町 ○養粉、亞麻、炭 三 夫 夫ひらふ 一一六哩九
 氏甲 氏甲くつちあん 一二一哩 ▼後芳羊蹄山、東二里、山頂半月湖の登山會
 本部迄馬車賃六人乗三圓、夫れより約五時間にて山上に達す、精力一日一圓、山
 は海拔六千九百四十二尺、蝦 士と云ふ、孤立した高山であるから絶頂に立つ
 て眼を放てば本道の由川廣野扇字の間に萃るのである 小 小こさは 一二七

(原野) 林 森の 線 沿 道 鐵





小樽市街地



小樽附近

四 岩内輕便線の分岐點、同線國富附近には國富山あり、岩内は西海岸中區
館小樽に亞ぐ要津で附近岩壁登鏡泉、岩見温泉、茂野温泉あり、海産物魚粕肥料
等の産出多し 〔山〕 山ざんざん 一三三哩五 〔谷〕 別しかりべつ 一四〇哩
二 〔木〕 木にき 一四二哩八 〔市〕 市よいち 一四五哩五 苹果的産地とし
て名あり、年産四百萬斤以上、又沿岸一帯海産物に富み、魚肥魚油の産多し、鱈
漁場として聞えたる積丹半島東岸への汽船便あり、古年まで資金三十五錢である
〔島〕 島らんしま 一四八哩八 西に積丹半島突出し、東方近く兜岩の奇勝あり、
風光明媚海水浴に適す 〔路〕 忍路海岸、北十五哩、馬車賃十錢、忍路高島及びも
ないが、せめて歌集「浪谷まで」古來追分節に名高い處、海水浴に適す、海内
農科大藥水産試験場あり 〔鱈〕 鱈、林檎 〔谷〕 谷しほや 一五三哩一
中歩小樽「ちゆうあう」をたる 一五八哩 東方には雄多岬突出して西神威岬と相
對する處自然の恩恵豊に本道西海岸の要港である、今人口九萬三千人を有し、大
正四年の貿易額輸出四百六十七萬圓、輸入三十九萬
圓に上つて居る、修造の工事も先に第一防波堤成り
今や延長七千八百尺の第二防波堤工事中である。區
内には中央小樽、小樽、手宮、小樽築港の四驛あり、
中央小樽は區の中心に位置を占め、汽船との連絡が
便利である、小樽より手宮に至る支線あり、手宮は殆ど貨物専用驛の觀あ
り、附近に貯炭場、木材置場及院の設備に係はる水面上九百五十二呎の石炭船積

高架橋あり、▼小樽公園、南十五町 ▼水天宮山、東南十町 ▼手宮公園、古
代文字碑、西北十六町 ▼小樽高等商業學校、南二十町 ▼高島水産試験場、北
二十七町 ▼高島造林地、北廿五町 ▼小樽苗圃、西十八町 ▼赤岩、西北二里
小樽をたる 一五九哩 手宮線分岐點 小樽築港をたるちくこう 一六〇
哩四 〔里〕 あさり 一六二哩二 〔嶺〕 嶺はりうす 一六四哩五 ▼神居古
潭、次郎嶺に至る途中に在り、岩壁高く創立して、波浪岸を打つ、車窓の眺景
が甚よい 〔嶺〕 嶺にばこ 一六七哩七 ▼海水浴場、東七町、
手稻連山の盡くる所、數十丈の岩壁絶立し、鐵路に其下を走る、風光甚佳
○嶺 〔川〕 川かるがは 一七二哩五 附近日本石油製油工場、北海道造林會社
事務所、前田農場あり ▼手稻山、東南半里、紅葉の勝地である、沿道鈴蘭多し
▼石狩川の鮭漁、東北四里、馬車賃五十錢、遊覽の好期は十月末より十一月中旬
までである 〔岬〕 岬にこ 一七六哩七 ▼國試試験場
西南十町 ▼帝國製紙製紙工場、東一里 〔林檎〕 大根 〔乳〕 乳さつぽろ
一七九哩一 石狩平野の西部に位し、西南嶺岩、手稻の連山を有し、豊平川區の
南東を流れて對岸豊平町あり、北海道廳、鐵道管理局、通信管理局、稅務監督局
帝國大學等あり、全道交通の中心點、行政上の首府である、人口九萬七千人を有
し、林檎、麥酒、麻布櫻桃等を産す、工業盛にして麥酒製糖の伊島社、院
の苗圃工場等大規模のもの、外、札幌木材、製粉、工作、伊藤木工場等多くの工
場あり、市内馬車鐵道は五錢均一である ▼中島公園、南二十町、馬車鐵道五

札幌市街地圖



札幌近附

鐵、豊平川の支流園の中央を流れて清池を湛ふ、園内に物産陳列館、岡田花園、大迫將軍銅像、忠魂碑あり。▼札幌神社、南西一里人力車賃三十錢、圓山に在り、全道の鎮守神で官幣大社、櫻樹多し、花期五月中旬、又境内の造林は既に優良なる林相を呈して居る、附近圓山温泉あり。▼藻岩山、西南一里、馬車鐵道の便あり、後は藻岩に續き、前は札幌の平野に臨みて眺望がよい、山中にはかつら、榎、こぶし、柳其の固有樹木の種類夥しく、其名世界に聞えて居る名山である、山麓には藻岩温泉あり、膠立感化院あり。▼札幌苗圃、西南一里。▼定山溪温泉、南西七里、内三里半石山まで馬車鐵道賃二十五錢、石山より温泉まで乗合馬車あり、附近林産産に富み、又札幌水力電氣の發電所あり、豊羽鐵山製煉所あり。▼大通公園、南八町、星田、永山兩長官銅像及開拓記念碑あり。▼農科大學附屬博物館及植物園、西南五町。▼農事試験場、西北二十町。▼東北帝國大學農科大學、北西八町。▼北海道廳、西南六町。▼大日本麥酒會社札幌工場、西南十二町。▼帝國製菓會社札幌製品工場、北東十町、其原料工場たる製菓工場は全道に普く、琴似、當別、新十津川、樺戸、栗山、富良野、清原布、旭川、紋別、虻田、倶知安、狩太、真狩、帶廣、幕別、士別、雁来、北龍の十八ヶ所あり。▼真駒内種畜場、南二里、藻岩山の南麓に在り、本道著名の牧場である、馬車鐵道賃二十錢。苗圃なへば一八〇哩五、驛の東北數町、陸軍種痘廠札幌派出所及大規模の

鐵道工場あり

北海道は北海道廳の管轄に屬し、其道廳は札幌に在り、産業は水産を主とし、昆布、鮭、鱈、鰻、烏賊、鱈等の産多く、日本海、オホーツク海の沿岸は世界有数の漁場である。農業は石狩平野最も盛にして、耕地の規模壯大に、大豆、小豆、豌豆、米、麥、蔬菜、馬鈴薯、玉蜀黍等を多く産す。果樹には苹果、櫻桃あり。牧畜は馬を主とし、牛豚之に次ぐ。林産の重要なものは蝦夷松、樺松にして、鐵道には石炭、金、銀、銅、滿鐵、硫黃あり、工業は製紙、製糖、製鋼及び麥酒、清酒の醸造、澱粉、麥粉の製造業地である。

食用及特用農産物の主要産地

(大正四年)

北海道	二五八四一、九三四四	鹿兒島	一五、五四九、四八九四
沖繩	一一、七九〇、九一〇	熊本	八、八四〇、九一八四
茨城	七、六四五、二四六四	千葉	六、五四一、八八三四
長崎	六、〇九四、九一〇	福岡	五、五二〇、四五四四
埼玉	五、四四六、五七一四	廣島	五、一五一、四七八四
栃木	五、〇八二、四一〇	岩手	四、六三〇、三三二四
全国	一九七、九〇七、二二三四		
●大豆の主要産地			
北海道	八〇一、四六一石	茨城	二四六、九九九石
岩手	二一〇、九七三石	埼玉	一八五、四二三石
宮城	一六九、六六七石	千葉	一五六、七四八石
新潟	一五一、六一二石	熊本	一三八、六四〇石

静岡	九	六、一五六、六一七圓
東京	四	三、七六四、〇四〇圓
大阪	七	三、一三三、二九六圓
兵庫	三	二、八八四、八七八圓
福岡	二	一、六五六、一八〇圓
熊本	一	一、五三五、六一五圓
京都	一	一、四六六、二三六圓
全国	四四	二九、七〇九、五一〇圓
●穀物の主要産地 (大正四年)		
大阪	五二四、二〇一圓	
高見島	一一四、一九二圓	
東京	七四、二二四圓	
●動物糞肥料の主要産地 (大正四年)		
石川	一、一七〇、六〇四圓	
千葉	四六二、八五一圓	
長崎	四三三、七六四圓	
全国	三、一〇八、三〇九圓	
●水産物肥料の主要産地 (大正四年)		
長崎	四、六七七、二〇四圓	
山口	四、五五一、〇七八圓	
高知	三、二〇三、九二五圓	
新高	三、一〇八、三〇九圓	

鹿兒島	二、九三二、七六三圓	
兵庫	二、五三〇、一八四圓	
全国	九四、八三六、〇四圓	
●練の産地 (大正四年)		
青森	六四、二六五圓	
山形	四七、四四八圓	
島根	三、一二〇圓	
計	八、一五二、七三四圓	
●鱈の主要産地 (大正四年)		
北海道	六、二九六、六一圓	
石川	一、〇三三、四五八圓	
全国	一、〇一七、一一〇圓	
●鱈(かれい)の主要産地 (大正四年)		
北海道	七、三三三、六二六圓	
福井	九六、二一六圓	
福島	九〇、三四八圓	
全国	一、九四〇、四八四圓	
●鮮の主要産地 (大正四年)		
北海道	一、〇五五、六九六圓	
山口	六〇、四五六圓	
岩手	五〇、一九五圓	
全国	二、〇九三、八七六圓	
●二番系魚(すめい)の主要産地 (大正四年)		
三重	二、七一一、一〇八圓	
東京	二、四七六、二八五圓	
●鱈の産地 (大正四年)		
青森	六四、二六五圓	
山形	四七、四四八圓	
島根	三、一二〇圓	
山形	一〇九、三八二圓	
青森	六一、六四九圓	
兵庫	一一四、四二六圓	
石川	九〇、八三五圓	
宮城	八六、四八七圓	
新潟	六六六、九七五圓	
宮城	五一、三四八圓	
山形	四五、三六八圓	

北海道	七九三、六二六圓	長崎	三八二、九四五圓
神岡	二一六、九八八圓	神奈川	一七一、一六七圓
島根	一六二、九五二圓	青森	一三五、三八九圓
静岡	一〇六、八二七圓	福井	一〇六、五四二圓
全国	二、七〇三、九四〇圓		
●昆布の主要産地 (大正四年)			
北海道	一、七九三、三四八圓	岩手	五一、二五四圓
青森	四〇、七三八圓		
全国	一、八八九、八一二圓		
●水産製造物食料品の主要産地 (大正四年)			
北海道	七、八九四、二七四圓	新潟	三、六一〇、七八〇圓
茨城	二、七四七、三〇二圓	長崎	二、一四一、五七八圓
鹿児島	二、〇四一、六四六圓	千葉	一、五二九、九九〇圓
高知	一、四九三、四三〇圓	宮城	一、四四七、一八八圓
愛媛	一、三三九、五四四圓	岩手	一、二七九、二七三圓
全国	四一、〇二三、四二〇圓		
●水産物素乾物(鱈、鰯ノ子、田作等)の主要産地 (大正四年)			
北海道	二、八六六、七三四圓	長崎	八六三、六六七圓
青森	二、三四、四四五圓	大分	二〇九、四〇二圓
岩手	一八五、九八六圓	山口	一五六、二〇六圓
島根	一四三、四一四圓	福井	一〇三、四六三圓
全国	五、九〇九、七六六圓		

北海道	一、五六七、五二一圓	廣島	五五四、五五五圓
山口	五〇二、六一二圓	大分	四二六、〇五〇圓
静岡	四一三、九一六圓	千葉	三九九、五七七圓
三重	三一九、五八〇圓	長崎	三一七、九二五圓
愛知	三二二、三二〇圓	福岡	三一〇、三四〇圓
全国	八、〇七四、三五五圓		
●水産製造物肥料の主要産地 (大正四年)			
北海道	七、五二〇、七九〇圓	千葉	九二一、二四四圓
長崎	八七一、一八〇圓	石川	五〇四、九一七圓
山形	一五七、二一四圓	福井	一三六、九三〇圓
全国	一一、二六〇、二五四圓		
●硫黄の主要産地 (大正四年)			
北海道	七七、八四一、七五三斤		
福島	一六、二一〇、六八〇斤		
岩手	七、八六〇、〇二〇斤		
秋田	五、三五〇、七五〇斤		
大分	二、五一七、六七九斤		
全国	一一〇、三四二、七八〇斤		
●白(しろいし) 一八二哩七 月経検査牧場、南一里半 厚(あつべ) 一八五哩四 町(の)つぼろ 一九〇哩二 全道一の煉瓦製造地で、附近			

厚内よりは多く海岸を走りて景趣雄大である、函館釧路間に
は直通列車一回あり、約二十二時間にて達す。釧路より根室
に至る鐵道は今工事中にて釧路厚岸間約二九哩は七年十月開
通の豫定である

釧路本線 瀧川—釧路 一九四哩

(驛名の下に記せるは函館よりの哩程なり)

- 瀧川 たきは 二二三(哩)九 (函館本線参照) 橋合 ぼろくら 二二三五哩
四 ▼農商務省月夜種畜牧場、北十二町 止井 止みい 二二九九哩四
平 平ひらきし 二四三哩八 下 下しりし 二四七哩四 附近炭田
多く、三菱礦業事務所及富士製紙發電所あり ▼三菱炭礦、東南二十町 ▼キン
グ工場、東南五町 野花南 のくわなん 二五二哩八 奔茂 ほんもじり 二
五七哩四 ▼空知瀧、半里、前野野花南との間、秋紅葉の美あり 島ノ下 し
まのした 二六三哩三 ▼島ノ下温泉、北十六町 ○木材 下 下しりし 二七四
の 二六六哩七 富良野線の分岐點 ○木材、農産物 山 山ままべ 二七四
哩四 ▼東京帝國大學演習林苗圃、東五十八町 ○木材、農産 下 下しりし 二七四
なやま 二七九哩三 金山 かなやま 二八三哩六 ▼金山の紅葉、驛附近

▼富士製紙工場、西八町 ▼砂金山、一里 ○バルブ 龍 龍しかごえ 二八
九哩六 龍 龍いくとら 二九四哩三 橋合 おちあひ 三〇〇哩一 空知
川本支流の合流する處にして、海拔一三四九尺、四邊老樹蒼翠景色目に迫る
▼落合原生保存林、東一里半、古來茶種を入れるエゾ松、トマ松の美林であ
る、本林に接してエゾ松試験林あり ▼落合造林地、西二十町 新内 にひな
し 三一〇哩六 新内 しんとく 三一七哩五 ▼十勝開墾農場、東一里
A 北 しみづ 三三三哩二 佐金 かねごろう 三三九哩七 ▼十勝開墾會
社、北西二里 ○大小豆 牙 室あむろ 三三六哩三 伏 古ふし 三四
〇哩六 帯 廣 おびひろ 三四四哩七 ▼チヨマトウ伏古土人古市場、半里
▼馬政局十勝種馬場、四里半 ▼鮮人工孵化場、十四町 ▼帝國製糖株式工場、
十町 ▼晩成社農場、南一里 ○大小豆、十勝石、同形製品 札 内 さつない
三四七哩七 ▼途別温泉、五町 止 若やむわか 三五三哩五 驛附近新田
帯革命社製糖工場、帝國製糖株式工場あり ○穀類、亞麻粗絲、タンニンエキ
ス、枕木 利 利しべつ 三五八哩 池田 いけだ 三五九哩七 網走本
線の分岐點 ▼日本皮革會社製糖所、北八町、櫛の木皮より織を製し、織エキス
となし、主として、靴及帯皮の原料たる獸皮を製するに用ひる、歐洲戰後需用額
に増加せり ▼池田農場、北西六町 ▼赤松製糖工場、十五町 十 希 とをふ
つ 三六五哩一 龍 龍とこころ 三六八哩四 ▼二宮農場、南三里、興復社
と云ふ、尊徳翁の令孫尊親氏の經營になる模範農場で、内務大臣より表彰せられ



近附路 釧

て居る ○大豆、木材 下 下しりし 三三七哩八 浦 浦うらほろ
三七六哩八 厚 厚あつない 三八八哩三 直 直ちよくべつ 三九二哩八
雷 雷おんべつ 三九七哩七 ▼軍馬補充部積出所、西二十町 日 日しり
ぬか 四〇七哩六 ▼軍馬補充部釧路支部、西十町 鹿 鹿しりし 四一二哩
三 大 大おたのしげ 四一八哩九 驛附近に於て毎年八、十、十一月の三回
牛馬の競市あり、毎回出場馬匹二千餘頭に及び、其種類并に賣買頭數の多き本道
第一である ▼阿寒瀧、十六里、扇形七里、雌雄兩阿寒瀧の中間に在り、雄大なる
風景美を有し「カバチエツツ」と稱する一種獨特の魚及玉藻を産す、湖野温泉あり
り ○石炭、牛馬 釧 路くしろ 四二四哩九 釧路川の川口に在り、東海岸
の要港である、開港場の一で、大正四年の貿易額は
輸出九十一萬圓である、人口二萬八千人を有し、硫
黄、マツチ軸、石炭、木材、開礦、昆布、海産肥料
を産す 是 是 南三十町、馬車賃二十錢 ▼ア
イヌ砦址、東二十町 ▼土人部落、東南三十五町、
五十戸あり ▼知人御、南二十五町、山海の眺望甚雄大、脚上燈明臺あり ▼鈴
木水産工場、南十町 ▼茅野製糖所、東十六町 ▼共榮座、南二十町 ▼末廣座
東六町

富良野線 下富良野—旭川 三三哩九分

(驛名の下に記せるは下富良野よりの哩程なり)

- 下富良野 しもふらの (釧路本線参照) 中富良野 なかふらの 四哩五 驛附
近伊藤、應討、福原、福井園地、江藤、時間の諸農場あり ▼豆類、米、木材
上富良野 かみふらの 九哩二 ▼オプタテシケ硫黃山、東三里、舊噴火口存す、
山麓温泉あり ○木材、農産物 美 美 茨 びえい 一九哩一 ▼美瑛温泉、東南
六里 ○木材 遠 遠 二七哩七 旭 旭川 あさひがは 三三哩九 函
館本線参照

春の霜旅はさまぐの夜明かな 完 來
長き夜も旅くたびれに寝られけり 去 來
いたづらに菖蒲曳くなり旅枕 月 居
くるしさも茶にはかつえぬ盆の旅 會 長

室蘭線

室蘭線とは

- 一 室蘭本線 岩見澤、室蘭間八六哩七分
- 一 萬字輕便線 志文、萬字炭山間一四哩八分
- 一 夕張線 道分、夕張間二七哩二分、紅葉山、登川間四哩八分

の總稱で、其本線は岩見澤を起點として南し、志文にて萬字輕便線を岐り、道分にて夕張線を岐り、苦小牧より海岸に沿うて室蘭に至りて止まる、其間約四時間乃至五時間半を要す

室蘭本線 岩見澤—室蘭 八六哩七分

(驛名の下に記せるは岩見澤よりの哩程なり)

岩見澤のほみざと 岩見澤本線参照、同線距離より二〇四哩四 志文 文しぶん



三哩五 萬字輕便線の分岐點、同線萬字炭山附近に萬字炭礦あり 清敷布き、まつぶ 六哩 ▼帝國製炭會社清敷布工場、西北四町 ▼農産青年會、三町
 ○米、豆類、蕎麥、亞麻 葉山 くりやま 一哩 ▼帝國製炭會社栗澤工場
 西北七町 ▼炭礦汽船會社二股造林所、西四里半 ○亞麻、農産物 由仁
 ゆに 一四哩二 岩見澤、由仁間は石狩平原の一部で、水田陸田遠く開け、農産物多し 三川 しかは 一九哩 道分 おひわけ 二四哩 夕張線の分岐點
 ▼炭礦汽船會社炭礦製造所、西南隣 ▼水産試驗場千歳支場、西南五里 ○炭礦木炭 安 平あびら 二八哩一 早來 はやきた 三一哩七 馬の集散地として名高く附近牧場多し ▼鶴の湯温泉、西南十三町 ▼農事試驗場火山炭地 駒場、北十町 ○木炭 遠波 とあき 三五哩 沼ノ端 ぬまのはた 四〇哩六 苦小牧 とまこま 四六哩 日高方面、新冠御料牧場等に至る分岐點なり、今佐田太まで二六哩間苦小牧輕便鐵道の便あり、賃金二十三錢、佐田太以前は國道で自動車馬車の便あり、アイヌの古利平取神社にはアイヌの古蹟古物を藏し、三石村附近一帯の沿岸は昆布の産地である。此地方は又雁馬に名高く新

冠の御料牧場、種河の陸軍種馬牧場等特に開えて居る ▼王子製紙會社苦小牧工場六町 ▼電気化學工業會社苦小牧工場、十九町 ▼農科大學演習林、二里三十町
 ▼支那湖 西北八里、千歳川の上流に在る大湖、湖沼海拔一千呎、周圍七里、湖水深き爲め冬も凍らず、湖畔野鳥、湖前の二山屹然相對して聳立し頗る雄奇あり、最邊邊に遊す、湖中遊船、サワカニを産す、試みに輪を垂れば鱒族群集水色を變ず、湖口は千歳川で河口は渾布となる、王子製紙の發電所あり ▼横尾村萩伏村苦小牧輕便鐵道川原より東南十里廿八町 ○洋紙、包紙、バルブ、カーバイト、石灰、鹽素、魚粉 新多 新多にまつぶ 五二哩二 ○魚粉、木炭 老しらお
 い 五九哩五 鱒の産地である ▼アイヌ部落、南半里 ▼仙臺陣屋址、西北三十町 ▼白老嶺山、西北三里半 ▼白老牧場、北四里 ○魚類、木材 知床
 しれとこ 六三哩一 歌生 しきふ 六六哩一 登別のぼりべつ 七一哩
 二 石材及鮮魚の産出多し ▼登別温泉、北一里二十八町、登別温泉軌道會社の馬車鐵道の便あり、賃金二十五錢、途中紅葉路の驛あり、本道温泉の白河である 峯體四周を繞り、翠影樓を聳む、湯元は溪路を通ること約二町、一帶の巖石恰も劍戟を植ゑたる如き劍ノ山の下に一條の流あり、白煙濛々として呷尺を辨せず、泉は其水底より噴出より、轟々滔々感觸を發して弄腕し、流んでは池となり、流れては川と成り、壯絶凌絶である、附近に大海沼あり、鹽湯の池あり、全山溪に沼に湯を沸かさない處はない、カル、ス温泉は此處より西一里である、俱多樂湖は登別温泉の東半里、湖中遊船を産殖す 登別 ぼろべつ 七六哩一 ▼カル



近附蘭室

ルス温泉、西北三里、馬車賃七十錢 四圍の連山秀麗、幽邃の地である ▼登別 鐵泉、西二里半 ○金銀型銅及硫黃 登別 わしべつ 八〇哩九 駒西 わにし 八三哩六 洞爺湖、西北九里、噴火湖に沿うて行く、湖に近く有珠嶽に臨んで大白山善光寺あり、慈覺大師の開基、徳川家齊親夷を收めて公領として大に開拓に努むるや、日高國摩似の尊持院、劍路厚岸の國泰寺を營むと共に善光寺を改修して三大寺とした、境内西國三十三ヶ所觀世音石像あり、附近白ヶ森の地蔵菩薩と共に皆家齊の奉獻に係る、寺より里餘にして洞爺湖、周圍十三里半、湖中七島あり、風景佳 ▼南部陣屋舊址、西二里 ▼炭礦汽船會社製鐵所、南東隣 ○鉄鐵 室 洞むららん 八六哩七 輪船半島の腰部、鵜振海岸の東北岸に在り、東海岸の要港である、人口三萬一千人を有し、大正四年の貿易額は輸出百六十二萬圓、輸入三十四萬圓に上つて居る、驛は院線に於ける最大停車場である ▼日本製鋼所、東十五町 ▼東洋捕鯨會社、北西一里 ▼室蘭支隊、南六町 ▼鵜振座、南四町 ▼洞爺山、町の背後に在り、山海の眺望雄大である、山麓八幡神社あり ○石炭 木材、雲丹、魚介

よはひをばぬふるべつてふ湯あみすと
 くるしき道もいとばでぞ來し 松浦弘

夕張線

道分一々張 二七哩二分
紅葉山—登川 四哩八分

(驛名の下に記せるは道分よりの哩程なり)

本線は夕張炭山の運炭線で、川端より幾度か夕張川に沿って風光の賞すべき處が多い

八 道分 おひわけ 室蘭本線支線、岩見澤より二四哩
川 橋 かはばた 五哩
八 道ノ上 たきのうへ 一一哩三 千鳥ヶ淵、西南六町、夕張川の奔流丈餘

留萌線

深川—留前 三一哩一分

(驛名の下に記せるは深川よりの哩程なり)

本線は函館本線深川より分岐して、西海岸の留萌に至る線
で延長三十一哩一分あり

深川 ぶかがは 函館本線支線、同線函館より二四五哩四 茨 せちくし
五哩五 沼田 ぬまた 八哩九 留附近沼田木工場、館監煉瓦工場あり、西
本願寺農場、西一里 ○木材、農産物、煉瓦 恵比島 恵びしま 一一哩九 樺

附近影井製粉製造場、豊田農場あり 峠 下 たらげした 一七哩六 峠下炭
礦、東二北里 ○石炭、木材 橋 ぼろふか 二一哩四 山 ぶぢやま
二四哩八 大和田 おほわた 二七哩五 大和田炭礦、北三町 ○石炭
留 留るもみ 三一哩一 留萌川の川口に在り、西海岸に於ける良港、人口二
萬七千人を有す 海水浴場、西十六町 増毛町、西南四町、馬車買六十餘
漁業の中心地である

宗谷線

旭川—中頓別 一〇六哩七分

(驛名の下に記せるは旭川よりの哩程なり)

本線は函館本線旭川より分岐して北し、中頓別に至る線で
延長一〇六哩七分あり、中頓別より濱頓別に至る一二哩餘は
本年十一月、濱頓別より淺茅野まで九哩餘は七年十月開通の
豫定で、將來北海岸なる宗谷灣稚内に達し、樺太との連絡を
保つべき鐵道である

旭川 あさひがは 函館本線支線、同線函館より二六五哩四 山 ながや
ま 五哩七 此の地方一帯水田の菜盛なり 松平農場、南三十町 農事試験
場 上川 支場、東七町 ○米、薄荷、豆、木材 比 布 ひつぷ 一〇哩六 又
タカムシユベ山、東十里、北海道第一の高山、海拔七千百尺、山頂四時雪を戴
く、大雪山の稱あり 笑峰山、二十八町、石炭原石を出す ○木材、農産
園 留 ちんる 一四哩一 和 寒 わつさむ 二二哩五 創 創 けぬふち
二八哩一 土 別 しべつ 三三哩四 留附近上川、土別木工場あり 帝國製
麻會社土別工場、十五町 ○亞麻、木材、織寸軸木、農産物 冬 寄 たよる

三八哩三 多寄鑛泉、一里半 風 連 ふうれん 四二哩三 柳科林地なり、
附近に農場あり 名 寄 なよる 四七哩二 附近名寄木工會社、帝國製麻會社
名寄工場あり ○豆類、澱粉、馬鈴薯、木材、煉瓦 留 留るもみ 五六哩
六 美 深 びうか 六一哩 附近日本製麻會社工場、北海木材會社工場あり
○木材、亞麻 恩根内 おんねない 六九哩六 咲 咲 さつくる 七七哩四
普威子所 おといねつぷ 八〇哩三 上普威子 かみおといねつぷ 八三哩
七 小頓別 せうとんべつ 九〇哩 枝幸港、東十一里 ○木材、貝柱、砂金
上頓別 かみとんべつ 九三哩一 留 留るもみ 九七哩二 砂金を産す
松音知 まつねしり 一〇一哩八 中頓別 なかとんべつ 一〇六哩七 附近ベ
イチヤン原野あり、將來大に發展すべし、驛に近く伊藤木工場、新宮木工場あり
○木材、砂金

里邊み心細くも見ゆるかな

やまちは雪車の跡ばかりにて

松浦弘



線名	停車場名	側線延長
室蘭線	室蘭	二〇、三一
鹿兒島線	戸畑	一七、二六
東海道線	大阪	一六、六六
東海道線	名古屋	一六、二七
東海道線	直江津	一六、〇一
信越線	門司	一五、七〇
鹿兒島線	手宮	一五、〇一
函館線	大宮	一四、四〇
東北線	若松	一三、五三
筑豊線	隅田川	一二、七二
常磐線		

院線に於ける著大なる停車場

もろともにあはれと思へお月さま
 國のなじみはお前ばかりぢや
 行く先の遠き親類とふまでは
 ちかき他人の旅の道づれ
 夏の夜の短かき夜着に足曳の
 やま郭公きく旅のやど
 朝もよひきちんどまりの出立は
 こゝろ残んのもとし火もなし
 ふるさとも今日の太簀かみならし
 今やひくくらむ餅好の妻
 浮島がばらふ路銀もつきはて
 三國一のふじいかな旅
 まづうれし近江表にみのぶとん
 寝物がたりの相やどりして
 旅づかれやすめて寝たりおき炬燵
 うすき蒲團をかけ川の宿

桃丸
 美屋人
 光
 赤良
 関月
 東作
 紀雄
 あせ道

朝鮮附録

朝鮮 347

朝鮮に於ける鐵道は、朝鮮總督府の管理に屬し、釜山より京城西大門に至る二七哩九分の京釜本線と、龍山より新義州に至る三〇九哩三分の京義本線とを二大幹線とし、鴨綠江の架橋に頼つて支那安東に至る。兩線相接續して朝鮮の南北を縦貫し、南は關釜連絡船によつて内地との交通を便にし、北は安奉線を経て遠く大陸鐵道に接續すべく、一週一回鮮滿直通急行列車を運轉して居る。其他京釜線には三溟津より馬山に至る馬山支線あり、永登浦より仁川に至る京仁支線あり、

氣象

(大正四年) △印ハ零度以下



京義線には黃州より兼二浦に至る兼二浦支線あり、平壤より鎮南浦に至る平南支線あり、平壤より寺洞に至る平壤炭礦線あり。湖南線は京釜線大田より分岐して木浦に至る線で延長一六一哩三分、裡里より群山に至る群山支線あり。京元線は龍山より元山に至る線で延長一三八哩四分、朝鮮半島を横斷して、日本海との連鎖となつて居る。咸鏡線は元山以北清津に達する間の總稱にして目下開通せるは元山、永興間三十三哩九分である

地名	気温平均	同最高極	同最低極
釜山	五七〇	九二五(三九年)	一〇六(四三年)
大邱	五五九	九三、四(四一年)	九、五(四三年)
仁川	五二、三	九四、三(四〇年)	△一、七(四三年)
京城	五一、八	九六、一(四〇年)	△六、七(四四年)
平壤	四八、二	九五、九(四〇年)	△一六、一(四四年)
龍岩	四五、七	九二、五(四一年)	△一五、三(三九年)
元山	四五、〇	一〇三、三(三九年)	△二、六(三九年)
津	四五、〇	九五、九(四二年)	△七、六(四三年)

京釜本線 釜山—西大門 二七四哩九分

(驛名の下に記せるは釜山よりの哩程なり)

釜山 ふざん 朝鮮の南端に位し、下関と海路百二十二哩を隔て、鐵道院直營の連絡船あり、朝鮮鐵道に連絡する爲め、毎日晝夜二回運航し、十一時間半で釜山に到着する。釜山は幕府時代より久しく邦人の部落を爲した所、宛然内地の都會を見るが如し、今戸數一萬三千三百、人口五萬五千人、内地人約二萬八千人あり、最近輸移出入高二千八百七十萬圓に上る。龍岩山、龍尾山、絶影島の勝地あり、釜山驛樓上には鐵道局經營の鐵道ホテルあり

降水	風平均方向	快晴日	曇天日	降水日	曇天日
一六四、七	北西	七八	一〇八	九六	一一二
九九五、六	北西	六一	一一七	八八	一一一
九四七、九	北西	四五	一一二	一一〇	一一一
一三五、六	北西	六八	一〇六	一一三	一六二
一五七八、三	北西	六三	一一〇	一一二	一〇
八五七、六	北西	八五	九五	一一三	一五
九七〇、〇	北東	七五	九八	一一〇	一五七
一一三二、九	北西	九九	一一二	一一三	四七
六九八、二	北西	七六	一一三	一〇八	七六

釜山港市の最北端、漢祿の役校諸軍の上陸した處、驛の背面に小西城址あり
 ▼東萊温泉、北二里、輕便鐵道の便あり ▼梵魚寺、東萊温泉より二里 ▼龍岩山、東萊の東九里、加藤清正が修築したる死守戦をなした處 三浪津さんらうしん 三〇哩五 ▼龍岩山、東南半里 ▼馬山支線、此驛より分岐して馬山に至る、二四哩八分、馬山浦は水深く波静に山紫水明頗る風景に富んで居る、今戸數三千三百、人口一萬四千四百人、内地人約五千人、輸移出入額百十三萬圓に上る、龍岩軍港は此處より程近し **大邱** たいかう 七七哩六 南朝鮮第一の都會で、洛東江の支流、鴨湖江に南岸に在り、附近大なる平野を控へて、農産が豊であり、今戸數七千九百、人口三萬二千人、内地人約七千二百人、輸移出入額百七十萬圓に上る ▼蓮城山、西十二町 ▼龍淵寺、南二里 ▼慶州、東十七里、自動

車の便あり、三時間半にて達す、地は新羅の舊都一千年間の王城である、内地人約六百人あり **大田** たいでん 一七〇哩四 物貨の集散大邱に次ぐ、鐵道開通以來の新市街地、純然たる内地風である、人口一萬三千人、内地人約三千五百人あり、湖東線の分岐點である **天安** てんあん 二二三哩九 ▼溫陽温泉 西南三里半、朝鮮第一の温泉である **海州** かいしゅう 二二二哩六 二二七八年戦役後第一の凱歌を奏したる榮ある戰蹟、牙山灘、安城渡、月峯寺等回顧の料が多い **水原** すゐげん 二四八哩五 農業的平野の中心、山水の風光甚佳、今戸數二千八百、人口一萬三千九百人、内地人約二千人あり ▼八達山、二八八町、山頂に華城將臺、東麓に華源殿あり ▼華山、西南二里、朝鮮稀有の翠巒である ▼勸業橋場、西十五町 **永登浦** えいとうぼ 二六八哩六 仁川支線に分岐點、同線は永登浦仁川間、一八哩四分、仁川は朝鮮第一の貿易港、其外港は日露海戦の地で、「ワリヤーク」、「コレーツ」の二隻を撃沈した所である、公園、神社、佛閣等あり、純然内地の市街と異ならず、毫も新領土の感じが起らない、人口三萬二千人中、内地人一萬二千人あり、最近輸移出入額約二千萬圓あり、仁川公園、各國公園、月尾島、江華島、文島山等見るべき處も多し **龍山** りゅうざん 京義線元山線の分岐點、市街發展の速なことを朝鮮第一で、今京城の一部たり、我守備軍に駐在す ▼萬里倉、北五町 ▼孔京里、西二十町、故大院君幽棲の地 **南大門** なんだいまん 二七四哩三 **西大門** さいだいまん 二七四哩九 京城府内の驛である、京城は即ち朝鮮總督府の所在地、山河襟帶景勝の位置

京義本線 龍山—新義州 三〇九哩三分

(驛名の下に記せるは龍山よりの哩程なり)

を占め、地勢險る京都に似て居る、周圍繞らずに城壁を以てし、八門を設けてあり、人口三十一萬七千人、内地人は重に南大門の近傍泥岬及龍山に居住し、約六萬二千人あり、最近の輸出入額二千萬圓に上つて居る、泥岬の南方に倭城あり、京城全市を俯瞰することが出来る、總督府並に鐵道朝鮮全半島を治めて居る、城内には舊王城、李王廟博物館、動物園、植物園、南山公園、パコタ公園、龜岬、鐘樓、天然亭、工業傳習所、中央試驗所、美術品製作所、農商工部商品陳列所等見るべきもの多し。北漢山は北三里、頂上の眺觀甚だ宏闊、山麓重興寺あり、紅葉の名所である、遊踪館は西三里、文祿の役の古戰場である、府内長谷川町に鐵道局經營の朝鮮ホテルあり

龍山 りゅうざん (京釜本線参照) **開城** かいじやう 四六哩三 高麗王朝五百年の舊都、滿月臺、敬徳臺、穆深殿、善竹橋、杜門洞、觀徳亭、南門樓、高麗王陵等、高麗朝の古を偲ぶべきものが多い、紅葉は此地の特産で、毎年二萬斤以上の産あり、價格百萬圓に上る、今戸數七千九百、人口三萬六千人、内地人約千五百人あり ▼朴淵瀑布、東北四里、朝鮮著名の勝地で、秋季紅葉の美あり **杆城** かんぼ 七五哩一 ▼大白山城址、北一里 **黃州** へうしゅう 一四

○ 囉 山を貫ちて平野に臨み、資州城高く聳立し、宛然層畫の山水を見るやうな景色である、これより兼二浦に至る支線あり、延長八哩九分、兼二浦附近は鐵及石炭の産多く、三釜の製鐵所あり

中 **和** ちうわ 一五一哩六 **▼** 朱泉亭、東南一里 **▼** 青嶺園、東北二十五町 **平** **馬** へいじやう 一六二哩七 朝鮮最古の都府、大同江の北岸に位し、下流兼二浦、鎮南浦あり、地は後に大城山を貫ひ東南に肥沃の平野を控へ、頗る景勝の地である、文祿の役、二十七ノ年役の戰場として、其名風に本邦人の耳に刷れて居る、人口四萬六千人中、内地人八千六百人あり、其風光は水清き大同の流れ、鏡輝、羊角の諸州を抱て城外に溶々たる庭、浮雲、練光、大同等の高閣鶴亭として清姿を江面に照し、牡丹、乙密の崇櫓千秋の綠衣に包まれて城頭に超然として居る、山と水と、城郭と高樓と相照映して、眺望の美云ふべからざるものがある、此地より鎮南浦に至る平南支線あり、延長三四哩三分、鎮南浦は大同江畔に在り、西北海岸唯一の要津、鐵、石炭、亞鉛等の鑛産輸出港である、人口一萬七千人中、内地人五千三百人あり、最近輸移出入額六百三十萬圓に上つて居る、不凍炭線は平壤より寺洞に至る、無煙炭坑あり、産額年十五萬噸に上る **新安州** しんあんしう 二〇九哩七 **▼** 安州城、東二里 城の北方百餘里あり、清川江に臨み、風光がよい **白** **馬** ばくば 二九七哩五 **▼** 白馬山城址、東北三十町 **新義州** しんぎしう 三〇九哩三 鴨綠江の南岸にあり、江を隔て、滿洲の安東縣と斜に相對し、大鐵橋に頼りて安東に入り安奉線と連絡する、人口五千八百人中内地人二千八百人あり、輸移出入額下流龍岩浦を

湖南線 大田—木浦 一六一哩三分

合せて約四百十萬圓に上る、驛の樓上には鐵道局經營の鐵道ホテルあり、鐵橋は延長三千九十八呎で、徑間二百呎鋼桁六連、三百呎鋼桁六連より成り、新義州方面より第九連の三百呎鋼桁を開閉式として船舶の航行に便して居る、鋼桁は何れも可動をなし、中央に鐵道線路あり、其兩側を歩道としてある。鴨綠江は源を長白山脈に發し、龍岩浦に至つて海に入る、滿潮の時はよく千五百噸以上の船舶を促航することが出来る、支那ジャンクの往來するもの其數を知らず、帆船林立人をして沿岸商業運輸の如何に此江に資ふ所多きかを思はしむるのである、嚴冬結氷の期に至れば、輕快なる楫に依つて水上の交通をするので其狀奇觀である。義州は上流四里の江岸に在り、支那の九連城と遼瀋の間に相對して居る、日清日露の兩役役軍の渡河點であつた、人口八千人、内地人九百人あり。龍岩浦は江の下流五里、支那の大東溝と斜に相對して居る、これ皆露國が朝鮮經營の第一著手として占有した所で、當年戰役の一原因、忽に臨臨するかと思へば、感慨に堪へざるものがある、人口二千七百人、内地人七百人あり

大 **田** たいでん (京釜本線参照) **論** **山** ろんざん 三一哩五 米穀市場として朝鮮著名の地である **▼** 扶餘、西四里、百濟の舊都、扶餘八景の勝あり

(驛名の下に記せるは大田よりの哩程なり)

江 **平** ころけい 三七哩七 錦江水運の要衝を占め、附近米の産出多く、人口七千五百、内地人約千八百人あり **理** **里** りり 五四哩六 群山支線の分岐點 群山は裡里より一四哩三分、錦江口の南岸に在り、商業上重要な地である、内地人約五千人あり、最近の輸移出入額八百九十萬圓に上る **▼** 全州、全羅北道廳所在地、裡里より輕便鐵道の便あり、人口一萬三千人、内地人約二千七百人あり **淮** **州** ちしう 一二六哩一 往時全南の首府、四周城壁を繞らし、人口五千六百、内地人九百人あり **本** **浦** もくほ 一六一哩三 榮山江の河口に在り、前多島海を擁して居る、附近棉花栽培地である、人口三萬人、内地人五千七百人あり、最近の輸移出入額四百七十六萬圓に上る、松島公園、雁達山、孤霞島の勝あり

元山線 龍山—元山 一三八哩四分

(驛名の下に記せるは龍山よりの哩程なり)

龍 **山** りうざん (京釜本線参照) **清** **涼** せいりやうり 七哩八 驛附近洪陵、清涼寺、燃陵等あり **▼** 東九陵山、二里、李朝太祖以下七王二妃の陵である **寧** **海** せいかい 一九哩四 **▼** 碧月寺、一里半 **▼** 光陵、東南三里、李朝世祖の陵、陵内奉先寺あり **原** **原** げんげん 六〇哩八 四面重疊たる山嶽に圍繞せられ、朝鮮屈指の大平野の中心地である、人口五千二百人、内地人六百あり

朝鮮のあさがほ三日入日也 秋航

り **▼** 彼岸寺、東南一里十町 **▼** 龍華瀑布、東南四里 **平** **馬** へいかう 七四哩四 **▼** 金剛山、所謂一萬二千葉峰、方寸數里に亘り、昆盧峯其最高峯として海を抜くこと五三五八尺、嶺西を内金剛、嶺東を外金剛と云ふ、山の名は四時風光の變化によつて名を改めらる、即ち名に負へる金剛は春季の名稱で、夏は蓮葉、秋は楓嶽、冬は皆骨と云ひ、各其風光の特徴を意味して居る。平康より内金剛の長安寺まで三十六里 **洗** **浦** せんぽ 九四哩一 **▼** 金剛山、洗浦より長安寺まで二十五里、徒歩跋涉の旅客に適する最捷路である **元** **山** げんざん 一三八哩四 東海岸に於ける唯一の良港、最近の輸移出入額五百三十四萬圓に上る、人口二萬二千人、内地人七千人あり。咸鏡線は元山より北清津に至るべき線で、今元山より永興まで三三哩九分の間開通して居る **▼** 金剛山、元山より長前まで汽船便あり、長前より温井里まで二里、温井里には鐵道局直營の金剛ホテルあり

朝鮮のあさがほ三日入日也 秋航
 朝鮮の妻やひくらむ葉人參 其角
 永き日や驢馬を追行く轍の影 子規
 金州の城門見ゆる枯野かな 子規
 大國の山皆低き霞かな 子規

滿洲

南滿洲に於ける帝國鐵道は、南滿洲鐵道株式會社の經營に係り、滿洲の關門たる大連を起點として遼東半島を縱貫し、大石橋よりは遼河の流域を北に走りて長春に至る四三七哩六分を幹線とし、奉天にては支那京奉鐵道と連絡して北京に至るべく、長春にては露國東清鐵道と連絡して哈爾濱に出て、世界的交通線の一部を爲して居る。支線は臭水子より旅順に



至る旅順支線あり、大石橋より營口に至る營口支線あり、蘇家屯より撫順に至る撫順支線あり。安奉線は奉天より安東に至り、茲に朝鮮鐵道と連絡し、此線を介して釜山長春間一週一回の直通列車あり。大連より上海へは同會社直營の運輸あり、相頼りて大陸交通線路を形成して居るのである

地名	氣象	
	氣温平均	同最高極
大連	五〇・四	九一・六(四二年)
旅順	四九・八	九三・二(四三年)
營口	四六・〇	九四・三(四三年)
奉天	四三・三	九七・九(四〇年)
長春	三七・九	—

(大正四年) △同ハ度以下

降 水 量	風 平均方向	快晴日	曇日	暴風日
五五六・七	南 西	九八	八〇	八八
四五六・九	北 西	一〇九	七二	八一
六〇四・二	南 東	一一四	七五	一〇九
六八七・三	南 西	八八	八三	一一三
八六五・八	南 西	八二	一一九	一一三

南滿洲鐵道本線

大連—長春 四三七哩六分

(驛名の下に記せるは大連車頭よりの哩程なり)

大連 たいれん 一哩八 遼東半島第一の商港、露國が多額の費用を投じて經營した處で、灣頭には數多の埠頭あり、下関及門司より舟行三日、巨船直に埠頭に接し、汽艇を藉らずして上陸することが出来る、市街は大廣場を中心として、光線形に四出し、横路斜に之を縫うて無數の紐帯を纏つて居る、市の中央に日本橋あり、汽車常に程を此橋下に發す、露國經營時代には人口一萬八千人に過ぎざりしが、今や小崗子を合せて戸數二萬四千、人口十一萬二千人を有する大都市となり、大正四年の輸移出入額一億三千六百四十萬圓に上つて居る、市内に東西北常盤電氣の五公園あり、老虎灘は南一里、風光頗る佳、大連程ヶ浦には滿鐵經營のやまとホテルあり 臭水子 しうすみし 七哩三 旅順支線の分岐點、同線は臭水子旅順間三二哩六分、沿道の山河悉く皆修繕の戰跡ならざるなく、左に發龍、龍、二龍、松崗の殘壘を眺め、右に、爾蓋、紫子、椅子の天險を窺み、迂餘曲折して瀋河の上流に出づる處を水關嶺と稱し、旅順開城の際日露兩軍司令官の會見した舊蹟である。旅順口は分れて新舊二街となり、新市街は露國の經營したもので今我國東都府、要司令部等あり、近時貿易港として開放することとなつ

た、人口支那人を合せて一萬六千人あり、大正三年の輸移出入額百二十四萬圓に上つて居る、白玉山頂には我軍の表忠塔、椅子山には露國軍人忠魂碑がある、屢山血河の往時を偲ばせ、誰か愴然たらざるものあらう、旅順には滿鐵經營のホテルあり 金州 きんしゅう 二一哩九 金州地域の咽喉に當り、支那歷明遼東の重鎮であつた、人口九千人、大正三年の輸移出入額十七萬圓あり 南山、西南十町、日露激戦地の一、山腹に鐵砲臺あり 大赫山、東北三里、遼東半島第一の高山、山腹に勝水寺あり 得利寺、とくりじ 七八哩九 驛の附近は、露の旅順教授軍を激撃して攻守の形勢を一轉した、得利寺遺跡戰場である 寺、西三十町、伽藍宏大である 原居城 ゆうがくじやう 一一二哩五 熊岳城温泉、東南半里 青龍山、東二里 黃旗山、西南一里 孤小島、驛東怪岩獨峙する山がそれである 大石橋 たいせきけう 一五〇哩六 西南三十町 嶺々子あり、古來の名刹である、營口支線は當驛より分岐して營口に至る、延長一三哩九分、營口は遼河の左岸に在り、遼河の水運を獨占し、大連と相並びて滿洲の一大貿易港で、貿易額一億圓に上つて居る、人口五萬五千人、内地人の居住するもの二千五百餘人あり、市内に天后宮老龍廟等あり 湯崗子 たうかうし 一八三哩七 湯崗子温泉、驛附近 千山、東六里、溪山の奇勝遼西の曹巫闕山と共に滿州名山の雙壁と稱せられて居る、峯巒瀟灑層巒疊嶂、千を以て數ふ、これ千山の名ある所以で、巨剎僧房翠微に倚り、松風瀟月眞に塵外の仙窟である 遼陽 りやうやう 二〇八哩二 滿州最古の都城、人口三萬五千人、内

地人四千人あり、露前高塔の半空に聳ゆるは白塔で、喇嘛塔とも云ひ、周圍に佛像を刻んである、千年以前の銅造物である、日露戦役の初、露軍は此地を中堅として奥軍と激戦數日に亘り、遂に北に走つたので、首山堡の争奪戰特に世に名高い

▼**沙河** 二二三哩七、日露兩軍河を挟んで半歲の間對陣多營した戰跡あり

▼**萬寶山** 東一里半、沙河合戦後後我軍の地獄であつた

▼**張家屯** 二三八哩五、撫順支線の分岐點、同線は蘇家屯撫順間、三〇哩八分、撫順の城市は渾河の右岸に在り、今や衰頹甚だ振はないけれど、山を貫き河を控へ、山光水色の美がある、所謂撫順炭坑とは千金寨、楊伯堡、老虎堡一帶の炭坑を總稱したもので、炭脈は南北一里、東西五里に亘り、層の厚さ平均百三十尺、含有炭量八億噸、其富東亞第一と稱せられてゐる

▼**奉天** ほうてん 二四八哩二、清の古都、滿洲第一の都會である、順治帝崩を北京に遷すに及び、留都となし陪都と呼んで居た、今人口十七萬人、内地人七千人あり、城内古の宮殿であつた金鑾殿あり、政廳であつた大政殿あり、北郊には昭陵あり、東郊には福陵あり、此二陵は與京方面に在る水陵と共に三陵と呼び、清朝の最尊崇する所であつた、此地は亦日露の大戦戦地で、大西邊門より十六町を隔つる大忠魂碑の在る處は、當時の戦線五十里に亘れる中心地點であつたと云ふ、安奉線はこれより東南に走りて安東に至り、京奉線は西して北京に至つて居る、奉天には滿鐵經營のホテルあり

▼**遼寧** ちやうしん 二九五哩六、遼河々岸に在り、大豆の集散地である、人口三萬人、内地人三千人あり、城東龍首山上に慈濟寺あり、寺前の

古塔は所謂三清觀である、境内圓通寺の古塔は一千年前の建物で、古色滂々きものがある

▼**開原** かいげん 三二三哩四、人口二萬人、内地人約一萬人あり、大豆の集散地なり、これより以北は柳條邊外と稱し、東蒙古の王遊界である

▼**公主嶺** こうしゆれい 三九九哩一、南北滿洲の境界、内地人二千五百人あり

▼**公主嶺** 北一里 **長春** ちやうしゆん 四三七哩六、北滿商業の中心、大豆及穀類の大産地である、人口六萬七千人、開墾地の人口三萬人、内地人一萬二千人あり、驛は十餘町を隔て、東清鐵道の寛城子驛と相對し、旅客は長春驛に於て直に東清鐵道の列車に乗ることが出来るのである、吉長線も亦茲より分岐して居る、長春には滿鐵經營のやまとホテルあり

安奉線 奉天—安東 一七〇哩八分

▼**奉天** ほうてん (南滿洲鐵道本線發點) **漢口** ほんけいこ 四七哩一、沙河會戰の動機となつた戰地で、市の東方に聳ゆる兜山は、露兵を以て露の大軍と對抗して一歩も譲らなかつた處である、この驛より鳳凰城に至るの間は、山峽盡まりて幽谷となり、連綿々々清流激湍して奔湍岩を噬み剪翠崖を呑み、萬松毛よりも多く、千峯水よりも碧い、其の間線路は逶迤屈曲して此幽谷を通ず、谷盡きて山聳ゆる所隧道を穿つもの數十、路盡きて水横はる所橋を架する百餘、山

臺灣に於ける鐵道は臺灣總督府の管理する所で、島の東北隅基隆に起り、臺北、臺中、嘉義、臺南を経て打狗に至る幹線二百四十六哩八分を縦貫線と云ひ、支線には打狗より鳳山を経て阿緞に至る阿緞線あり、臺北北門淡水に至る淡水線あり、同線北投驛より新北投に至る新北投線あり、嘉義より阿

臺灣

迎へ水送るの趣、三峽江に掉して蜀に入るの觀がある、中に奇巖怪松相擁して粵光最變すべきを釣魚橋と云ふ、邦人之を那馬溪に擬して居る

▼**連山** れんざん 七七哩九、▼**原天嶺** 西二里半 **秋木莊** しらぼくさう 一一一哩六、この驛より龜冠山に至る間、山路僅に六哩に過ぎざれども、鐵路十六哩に及び、黒坑嶺の山腹を迂回し、往くが如く還るが如く、曲折上下の狀頗る奇觀である

▼**鳳凰城** ほうわうじやう 一三三哩、▼**鳳凰城**、市の東南に聳え、奇峯怪岩蒼翠



巖起して居る、山中に佛閣あり

▼**安東** あんとん 一七〇哩二、東部滿洲第一の都會、鴨綠江を隔て、朝鮮新義州と相對して居る、鐵道はこの驛で京奉線と連絡する、内地人は新市街に住し、人口一萬一千人中の大半を占む、舊安東の支那街は稍上流江岸に連接し、人口三萬九千人あり、新舊兩街を合せて一大都市たる面目を備ふ、元寶山は市の北方に聳立し、四圍展開眺望雄大である

氣象 (大正四年)

里山に至る阿里山あり、(營業區間は嘉義、竹頭崎間) 其他花蓮港より璞石に至る臺田線あり、璞石より卑南に至る郵便手押鐵道あり。別に各會社線で、總督府線と連絡して運輸營業を開いて居るのも多い

地名	氣温平均	同最高極	同最低極
基隆	七一・八	九六・六(四二年)	三七・四(三四年)
臺北	七二・三	九八・六(四二年)	三二・〇(三四年)
臺中	七三・二	九九・〇(三五年)	三〇・二(三四年)
臺南	七四・七	九七・二(三四四年)	三七・四(三四年)
臺東	七五・二	一〇〇・二(三六年)	四六・八(三四年)

縱貫線 基隆—打狗 二四六哩八分

(驛名の下に記せるは基隆よりの哩程なり)

基隆 基隆第一の良港で内地との連絡點である。門司より舟行二晝夜半を要す。港は後に基隆山を預ひ、前に基隆島を控へ、市街は海に沿うて彎曲し、山清水碧頗る風光に富んで居る。今人口二萬八千人、大正四年の輸出入額千三百九萬圓、移出入額四千九百八十四萬圓に上る。▲社寮島、海上二十町、周圍一里餘、沿岸海水浴に適す。▼クルーベール濱、東十町、清佛戰爭の際、佛將クルーベールの陣地であつたので知られて居る。碧波白沙を洗ふ、海水浴場あり。▼仙洞、西十五町、斷崖高く聳ゆる處、巖脚に一大洞窟あり、觀音を安置して居る、洞中更に三個の小洞あり、元土人の廟で、代明宮と稱したるもの、嘗て支那大官等の謁した詩文を洞壁に鏤刻してある、中に氣韻生動一顧に價するものが尠なくは

降水量 風平均方向 快晴日 曇天日 降水日 暴風日
 三四八三・五 北東 二六 二〇七 二二七 一二五
 二四五三・三 北東 三七 一一七 一九〇 一一二
 一七〇二・八 北東 四八 一一一 二二八 一六
 一九三〇・一 北東 六八 一〇一 六五 六〇
 一五三五・一 北東 二八 一五八 一五四 九四
 ない ▼金包里温泉、五里、地は海に瀕し、山容水態甚佳。八 八はつと二哩二 ▼基隆水道水源、南東半里。馬口しやくこう 一三哩八 ▼水登坂、九町、峯廻環抱の間に在る一勝風である。▼後山坡、二十八町、湖水あり、松樹之を繞りて繁茂して居る。▼雙山、一里十二町、麓に池あり、四五月の交、歐鳥の白鷺群集して滿山雪の如く、奇觀名狀すべからず。北たいほく 一七哩八 臺灣總督府、及臺灣守備隊本部の在る處、淡水河に臨み、西南廣大なる原野を控へ、人口十萬六千八百人を有す、驛の前面に鐵道ホテルがある。臺北公園は府中街に在り、中央に兒玉大將の大理石像を安置す、英風仰慕するに足る。圓山公園は市を距る一里、北基隆山を隔て、劍潭山と相對して居る、園内廣潤で老樹蒼々、奇石怪石其間に起伏し、翠綠滴るが如く幽雅すべきものがある、公園の西端、兒玉總督の開基に係る鎮南山臨濟護國禪寺がある。臺灣神社は劍潭山の中間に在り、二十七八年設け獨しく此島に渡りて、晴風沐雨辛苦を嘗めさせられた故北白川官能久親王の英靈を祀り、大國魂命、大己貴命、少彥名命を合祀して

ある、地高燥にして房簷に富んで居る、神社は構造古式で、柱梁の材凡て彫飾を加へず、全島第一の聖場である、神社の左側基隆河畔に劍潭あり、幽邃の境にして近く劍潭古寺がある。臺北の大稻埕より、淡水線に類れば、北投驛に近く温泉あり、淡水港は淡水河口の右岸に在り、日支貿易の吞吐口にて大正四年の輸出入額千二百二十六萬圓に上る、紅毛城は淡水街の後方丘上に在り、三百年前西班牙人の此地に來つた時、茲に砲臺を築き、サンチャゴ城と稱し、發展の策源地と爲したが、後蘭人が之を驅逐し、更に山上に層樓を構へたと云ふ、それは今の英國領事館所在地で、本島最古の城壘である。枋橋ばんけう 二二哩六 ▼林家庭園、四町、全島第一の富豪林家の邸宅内に在り、結構奇詭を凝し、回廊迂餘礮石を甃んで歩道とし、處々奇石を按排してある、汲古堂、來青閣、觀稼樓、定靜堂等の亭榭あり、臺灣名所の一となすに足るのである。雙歌石あふかせき 三〇哩八 ▼雙歌石、北七町、山脚一大巖石あり、其狀鸚鵡に似て居る、土人鸚鵡を雙歌と云ふから雙歌石と云ふのである。新竹しんちく 六二哩八 山を貫ひ海を控へ、氣候清涼本島第一の健康地と稱せらる、人口一萬七千人あり。▼北白川官衙遺跡、西南二十町、手捕山上に一株の榕樹が孤立して居る、側に紀念碑あり、地は殿下の盛夏露晞を張られ、辛苦を士卒と共にせられた處である。臺中 中たいちう 一一八哩六 全島の中央に位し、土地宏潤空氣清爽である、人口一萬六千人あり。▼臺中公園、驛附近、樹木婆娑、泉水清冽、園の中央に故兒玉總督の騎像あり。彰化 しゃうくわ 一二九哩四 中部屈指の都會で、

人口一萬六千人を有す。▼南靖宮、南一里、博紫水明の靈地、廟は天上聖母を祀る。▼孔子廟、四町、廟宇宏壯である。▼八卦山、七町、登り二町の小丘、丘脚は彰化公園である。▼虎山殿、三十町。▼鹿港、西三里、彰化の海門で人口一萬九千人を有し、大正四年の輸出入額三十二萬八千圓に上り、彰化より輕便鐵道の便がある。嘉義かぎ 一七九哩七 南部屈指の都會で發展の速なることは全島第一である、人口二萬三千人を有す、阿里山線は茲を起點として、竹塹崎まで既に開通して居る。▼嘉義公園、南一里。▼阿里山森林、本邦第一の高山新高山に近く、嘉義との距離四十哩餘の鐵道を敷設し盛に森林より良材を伐採輸出して居る、森林の材積は、針葉樹八百八十三萬九千尺、闊葉樹九百三十一萬三千尺、計千八百五十五萬二千尺、此價格約三億圓と稱す。梅園まうへき 一八九哩三。▼開仔嶺温泉、四里、南部第一の温泉である。臺南たいなん 二二八哩 臺灣第二の都會で人口六萬二千人を有す、三百年前蘭人赤崁城を構へ、跡で鄭氏三代の都城となり、其後本邦の領土となるに至るまで、二百年間全島の首府であつた。▼北白川官衙遺跡、十五町、二十八年十月官は不幸にして瘴氣に冒され給ひ、遂に茲に墜れさせられた、蕭洒なる壇城をトして社殿を設けてある。▼開山神社、十町、明末の使節鄭成功を祀る、支那風の建築で結構壯麗である。▼北園別館二十町、成功の子孫が母董氏の爲に建てたもの、今は開元寺と稱して臺南の名刹である。▼夢蝶園、三十町、明の逸士季茂春の隱棲した處で、今は法華寺と稱し、殆ど荒廢して居る。▼五妃墓、三十町、鄭氏の奉じた明

の奥野王に殉死した五妃の墓である。▼開帝廟、十町、都成功の建てたもので柱廊に見るべきものが多い。▼赤岩、十町、福人の城址、今の衛成病院の地である。▼安平港、西南一里、臺南の海關で對支那貿易の要港、大正四年の輸出入額百五萬圓、移出入額七百六十二萬圓に上る、赤岩城址あり、城は福人の築造したゼーランデヤ城で、今安平税關附舎の敷地となつて居る。▼大湖街、たいこがい二二六哩八、▼翠嶺玉臺、東一里、一堆の丘陵を樹林を成し、凄風萬古の怨を吹いて居る。打狗、たかを、二四六哩八、南部第一の要港、人口一萬五千六百

樺太

樺太に於ける帝國の鐵道は、樺太廳の管理する所で、大泊の榮町を起點として北し、樺太廳の所在地たる豊原を経て東海岸の榮濱に至る五七哩六分を幹線とし、小沼より川上炭山地方に至る七哩七分の支線があるのみである、大泊は樺太に於ける物貨集散の咽喉地で、小樽より航路一晝夜貨金三等四圓、二等八圓、一等十二圓である、領有の當初此處に樺太廳

人、大正四年の輸出入額三百二十一萬圓、移出入額四千七百七十四萬圓あり、渾水陸地に濶入して一大湖をなし、港口の北に打狗山、南に秋後山相對して之を扼して居る、山光水色頗る佳、打狗八景の勝がある、阿蘇山は阿蘇山として、鳳山を経て阿蘇に至る、鳳山は臺南以前の中心市場で、驛より一里太平頂山あり、其狀風雲を張るに似て居るので鳳山と云ふ、市街の名も蓋しこの山に起因して居る



七千九百人を有し、官幣大社樺太神社並に鎮し、樺太廳始政記念日たる八月二十三日に祭典がある。豊原より西海岸の要港たる真、までは十八里を隔て、居るが、夏期は自動車の使用あり、三時間半にて達することが出来るのである、真岡の人

口二萬六千人中内地人二萬五千人を有す、榮濱は鐵道の終點で東海岸の港である、將來鐵道の東海岸に沿うて延ばするに伴ひ、漸次發達を見るであらう

地名	氣象		同最高極		同最低極		降水	風平均方向	快晴日	曇天日	降水日	暴風日
	氣温平均	同最高極	同最低極	同最高極	同最低極							
大泊	三六、〇	八二、二(三九年)	二六、九(四二年)	九七、五	北東	二四	一七五	一八六	二二二			
真岡	三八、三	八一、〇(四三年)	二二、三(四二年)	七五、八	南東	二二	一九一	二一〇	二七二			
合	三三、三	八八、〇(四四年)	二五、〇(四一年)	九一、三、六	南西	二四	一八七	二三一	一四四			

(大正六年) △印は零度以下

旅はあはれなるこそよけれ。年経て後その時の友人など相語らふにも、その渡舟にて雪にあひつ、かしの山にて雨にぬれて、こまりかたてなど言ひ出づれば、身にしてみてもかしくも覺え、よろづ心にかなはれ折しも、憂き旅のさいつ頃、あるじのつれなかりし、飢ゑつ凍えつなど思ひ出せば、驕の心皆消ゆ、家富めらん際は、ひと日二日外へまがるにも、くひ物、度缺くることなく、思ふやうにしてこそ用意すらめ、たゞ家にのりても行けかし。物打合はぬ中にこそ興ある事もあるなるとむげに覺ゆるを、借も猶心ゆかぬかたもあるべければ、猶つらしとか、こつ時もあるべし、さへ云へ、連れ立つ人の物輕くて、極めて用ある調度など用意して、これ使へとて差し出したる、折につけていとよし。かしこに知る人、あるじの心むづかしからず、食物さよく湯などひかせ、夜の衾心づかひしたる、嬉しきものにぞある。(贅庵)

廻遊旅行の葉

この一章には大方の旅を計畫せらるゝ参考にもと、一週日内外にて廻遊し得べき各方面の名勝地を列記した、豫定日数は各勝地に要する日数で旅客の出発せらるゝ驛と、下車驛との往復に要する日数は加算してないのこある

三浦半島廻り 藤澤驛に下車、江ノ島、鎌倉の景勝を探り逗子より金澤に廻りて八景を愛で、田浦に出て、横須賀に至り、それより浦賀、三浦三崎の風光を賞す、此豫定日数三日、五二頁及九四頁参照

豆相温泉廻り 國府津驛に下車、酒匂、小田原の風光を愛で、湯本に至り、箱根諸湯を廻り、駒ヶ嶽又は神山の登山、蘆の湖舟遊の上、鞍掛峠を越えて十國峠を経て湯河原に下り、伊豆山、熱海に遊び、山を越えて修善寺に至る、此豫定日数五日、五三頁参照

富士登山 中央線大月驛下車、吉田口より登山して須

走口に下るか、東海道線富士驛下車、富士身延鐵道に頼りて、大宮口より登山して御殿場口を下るか、或は須走口、御殿場口、須山口より登るなど幾多の方法あり、一夜を五合目以上の山舎にあかし、富士の御影又は日の出の大觀を見るをよしとす、此豫定日数三日、五六頁及一二六頁参照

富士中道廻り 五合目の邊を一週するをいふ、途次小富士小御嶽、寶永山、大澤等あり、展望大なり、此豫定日数二日、五八頁参照

富士山麓 御殿場下車、山中湖、明見湖を見て吉田に出て、それより河口、西、精進、本栖湖を廻りて、富士の人穴を探り、白糸の瀧を見、大宮の淺間大宮に詣で、富士驛に出づ、此豫定日数四日、五八頁参照

田子ノ浦曲 沼津に下車、千本松原、牛臥、靜浦一帶の海水浴場をあさり、田子ノ浦より吹上濱、薩降山、興津の清見寺、江尻の龍華寺を巡遊、三保の松原に渡り、久能山へ廻り、靜岡に出づ、此豫定日数三日、六〇頁参照

濱名湖 湖畔辨天島驛に下車、海水に浴して湖畔の名勝を探る、此豫定日数三日、六六頁参照

伊勢參宮 名古屋附近の名勝を探り、龜山より南して大廟に詣で、二見浦より鳥羽に至りて樋の山遊園に遊びて鳥羽の風光を愛で、舟を雇うて鳥廻りをなし、夫より安乘大王、御座三岬の風光を見る、此豫定日数五日、六七頁及一五九頁参照

長良川鶴洞遊覽 金華山附近の勝を探り、鶴洞に一夜の清興を催し、大垣に至りて養老公園に遊ぶ、此豫定日数三日、七〇頁参照

飛騨廻り 岐阜驛に下車、益田川に沿うて所謂中山七里の風光を賞し、高山より乗鞍登山の上篠ノ井線松本に出づ、此豫定日数五日、七〇頁参照

琵琶湖 石山又は大津驛に下車、湖上汽船便に頼りて八景及竹生島に遊び、坂本より比叡山に登りて京都に出づ、此豫定日数四日、七二頁参照

京都及附近 桃山御陵參拜の上、市内外の名勝地を探り、龜岡より保津川下りの壯遊を試み、宇治の山水に親しむ、此豫定日数五日、七五頁乃至八一頁参照

阪神附近 大阪神戸兩市附近の勝を探り、住吉より六甲山を越えて有馬温泉に遊び、三田に出づ、此豫定日数四日、八五頁乃至九二頁参照

播磨路廻り 須磨、鹽屋、舞子、明石の名勝地をあさり、平家没落の跡を訪ひ、いはゆる播磨名所廻りをなす、此豫定日数三日、一〇三頁参照

尾道附近 岡山附近の勝を探り、中國鐵道によりて豪溪に遊び、引返して福山より瀬港の風光を愛で、阿伏見觀音を経て尾道に出で、大寶山より瀬戸内海の勝を觀望す、此豫定日数四日、一〇八頁及一一一頁参照

嚴島詣 廣島附近の勝を探り、嚴島神社に詣で、御山に登山の上鳥廻りを爲し、岩國に廻りて錦帯橋を見る、此豫定日数四日、一一一頁乃至一一六頁参照

關門附近 長府に下車、豊浦宮址を訪ひ、満珠千珠の島を見て、陸路壇の浦に沿うて赤間宮に至り、下關海峡附近の勝地を探りて、門司、小倉に至る、此豫定日數三日、一七頁参照

峡中廻り 猿橋、差出磯を見て甲府に至り、武田氏の故墟を探り、荒川の奇勝に沿うて御嶽金櫻神社に詣で、引返して歟澤に至り、富士川を下り、途中身延山に參詣して更に富士川を下り芝川に上陸、富士身延鐵道にて富士驛に出づ、此豫定日數五日、一二七頁参照

天龍川下り 諏訪湖畔に遊び、長野より飯田に至り、時又より乗船、鹿島に上陸して濱松に出づ、途中秋葉神社に賽するも可なり、此豫定日數、四日、一三〇頁参照

木曾路 諏訪湖畔の景を賞し、鹽尻より木曾路に入り、福島より御嶽に登り、引返して棧道の古を偲び、寢覺の床の奇勝を探り、虎溪山に遊びて名古屋に出づ、此豫定日數五日、一三二頁参照

の面影を偲び、敵傍に皇祖の御陵を拜し、吉野に至りて吉野朝の遺址を探る、此豫定日數五日、一五四及一六三頁参照
伊路 高野登山の上、根來寺に僧兵の頑強なりし昔を思ひ、和歌の浦の勝地に至る、此豫定日數四日、一六五頁及一六六頁参照

天ノ橋立附近 福知山より元伊勢宮に詣で、大江山に登り宮津に降りて天ノ橋立の風光を賞し、久美濱を経て豊岡に出で、玄武洞を見て城崎温泉に至る、此豫定日數七日、一七一頁及一七九頁参照

出雲大社詣 城崎温泉に浴し、鳥取に遊び、東郷湖畔の勝を探り、松江の風光を賞して出雲大社に詣づ、此豫定日數五日、一七二乃至一七七頁参照

大山登山 大山驛より大山登山の上、米子附近の景勝を探り、夜見ヶ濱大天橋の松翠を見つゝ境に至り、汽船にて美保關に至る、此豫定日數四日、一七四及一七八頁参照
金刀比羅參宮 岡山後樂園に遊びて、宇野より連絡汽船に

松本附近 淺間温泉、山邊温泉、中房温泉等に浴し、中房より有明山登山の上、山清路の勝を探りて姥捨に至る、此豫定日數五日、一三四頁参照

北陸巡り 賤ヶ嶽に七本鎗の古を思ひ、敦賀附近の勝を探り、山中、山代其他附近の温泉に浴し、金澤の兼六公園に遊び、親不知子不知の險を経て直江津に出づ、此豫定日數六日、一三八頁乃至一四八頁参照

白山登山 福井又は野々市より一ノ瀬温泉に浴し、登山の上野々市又は福井に出づ、往返道を異にする方輿多かるべし、此豫定日數五日、一四二頁参照

立山登山 富山附近の勝を探り、滑川より立山輕鐵に頼り、上瀧、蘆峯を経て立山に登り、此豫定日數四日、一四六頁参照

能登廻り 七尾附近の勝を探り、和室温泉に浴し、内浦路、外浦路の勝を探る、此豫定日數五日、一四九頁参照
奈良附近 笠置附近の風光を賞し、奈良に入りて古都

て高松に至り、再び船して小豆島に寒霞溪の奇を探り、高松に引返して、栗林公園を見、屋島に平家の哀を偲び、白峰に保元の古を悲しみ、琴平に參詣す、此豫定日數五日、一八一頁乃至一八五頁参照

淡路島巡り 徳島附近の勝を探りて、鳴門潮流の大觀を見、淡路の島巡をなし、北端岩屋より明石に渡る、此豫定日數四日、一八八頁参照

吉野川の上流 徳島線阿波池田驛下車、吉野川沿岸の勝を探り、池田より讃岐の琴平に出づ、此豫定日數五日、一八九頁参照

土佐廻り 徳島線阿波池田に下車、吉野川沿岸の大冒険、小冒険の勝及祖谷の蔓橋を見て土佐に入り、高知に出で船にて歸る、此豫定日數六日、一八九頁参照

博多附近 博多附近の名勝をあさり、海の中道に遊び大宰府の趾を尋ねて天満宮に詣で、久留米に至り高良山に登る、此豫定日數四日、一九五頁参照

阿蘇登山 熊本に銀杏城を仰ぎ、水前寺に遊び、栃木

温泉に浴して阿蘇火山に登り、引返して三角海水浴場に至る、此豫定日數五日、二〇〇頁及二一〇頁参照

五箇庄廻り 有佐驛に下車、氷川の溪谷に沿うて明治の桃源郷五箇庄に至り、川邊川の峡谷に沿うて人吉に出づ、此豫定日數五日、二〇三頁参照

南九州 八代より球磨川の風光を賞し、矢嶽の大展望を賞で、鹿兒島に入りて大西郷の故郷を見、櫻島に登山、此豫定日數四日、二〇三頁乃至二〇七頁参照

霧島登山 國分驛又は牧園驛に下車、山麓霧島諸温泉を巡り、登山の上宮崎線高原驛に出づ、宮崎驛より登るも可、此豫定日數五日、二〇五頁及二一二頁参照

宮崎附近 宮崎線沿道の勝を探りて宮崎に至り、青島に遊び、宮崎神宮に詣で、妻附近に上古の史蹟を探りたる上、内海より汽船にて佐伯に出で大分又は別府に至る、此豫定日數五日、二一四頁及二二二頁参照

肥薩海岸 鹿兒島附近の勝を探り、川内線に入り、川内町より西方、平瀬、阿久根、米ノ津を経て肥後に入り、水俣、佐敷を経て日奈久温泉に浴し八代に出づ、肥薩海岸の風光及所謂三太郎越の険あり、此豫定日數五日、二一七頁参照

唐津附近 佐賀に遊びて唐津に至り、虹の松原、領巾振山、七ツ釜の勝を探り、名護屋に征明討韓の行營の址を偲び、陸路芥屋の大門の支武岩洞に遊びて博多に出づ、此豫定日數四日、二二四頁参照

長崎附近 武雄温泉に浴し、大村灣の風光を愛で、長崎に入り、茂木より小濱に至り、温泉嶽に登山し、島原湊新地より汽船に頼りて肥後の三角に出づ、此豫定日數五日、二二二頁参照

九州東海岸 宇佐八幡宮に詣で、別府温泉に浴し、鶴見由布兩山に登山し、大分及佐賀關に至る、此豫定日數五日、二二九頁参照

耶馬溪 中津附近の勝を探り、耶馬溪羅漢寺より新舊耶馬溪の諸勝を賞で、英彦山登山の上、田川線油須原に出づ、此豫定日數五日、二二八頁参照

日光附近 日光廟に詣で、瀧巡りをなし、中禪寺湖に遊び、男體山に登り、湯元温泉に浴し、歸途足尾線に出づ、此豫定日數五日、二七六頁参照

鹽原温泉 西那須野より、碓氷の清流に沿うて鹽原温泉に浴し、那須温泉に廻りて黒磯に出で白河に至る、此豫定日數五日、二四一頁参照

會津地方 郡山より、岩越線に入り、猪苗代湖の風光を愛で、磐梯山に登り、若松に白虎隊の古を偲び、東山温泉に浴し、阿賀川沿岸の風光を賞して新潟に至る、此豫定日數五日、三〇五頁参照

福島附近 福島の名勝を探り、飯坂温泉に浴し、庭坂より吾妻山に登山す、此豫定日數四日、二四四頁及三一〇頁参照

松島附近 仙臺に獨眼龍の雄圖、偲び、多賀の城址を尋ね、鹽釜神社に詣で、船して松島の島影を縫うて松島村に至り、附近の勝を探りて宮山又は大嶽森に登る、此豫定日數四日、二四六頁参照

金華山及玉造諸温泉 鹽釜より、汽船にて金華山に至り、歸途石巻より仙臺鐵道にて小牛田に出で、陸羽線鳴子附近の諸温泉に遊ぶ、此豫定日數四日、二四九頁及三二三頁参照

平泉の古址 一ノ關に下車、五串溪流の勝を探りて平泉に出で、藤原氏の榮華の址を偲び、盛岡に至りて岩手山に登山す、此豫定日數五日、二五一頁参照

霞ヶ浦附近 筑波山登山の上、土浦より汽船により香取鹿島兩宮に詣で、潮來、十六島附近水戸の勝を探り、佐原より更に利根川を下りて銚子に至る、此豫定日數五日、二六〇頁及三〇〇頁参照

水戸附近 水戸の常磐公園に遊び、那珂川汽船便又は海鐵道に頼りて湊に至り、大洗の風光を愛で、更に水戸以

北の海水浴場をあさりて平湯、勿來の景勝地に至る、此豫
定日數五日、二六二頁参照

秩父 廻り 熊谷より秩父鐵道に頼り、荒川沿岸の風光
を愛で、秩父より武甲山登山の上、三峰神社に參詣、荒川
の上流を経て御嶽に出で、青梅より青梅鐵道に頼りて中央
線立川に出づ、此豫定日數四日、二六八頁参照

上毛三山 登り 前橋より赤城山に登りて伊香保温泉に至
り、榛名登山の上、妙義に廻る、此豫定日數五日、二七〇
頁及二八三頁参照

碓氷の紅葉 輕井澤の風光を愛で、舊街道を歩いて熊野
神社に至り、横川又は熊の平に出づ、紅葉の美觀天下無比
なり、此豫定日數二日、二八四頁参照

草津温泉 輕井澤附近の勝を探り、淺間山登山の上、
草津温泉に浴し、歸途前橋に出づ、此豫定日數四日、二八
五頁参照

善光寺詣 川中島の戦蹟を探り、善光寺に詣で、戸隠

山登山の上、地震瀑を見て柏原に出で、野尻湖に遊ぶ、此
豫定日數四日、二八六頁参照

越後 廻り 赤倉温泉に浴し、妙高山に登り、直江津に
出で、春日山に上杉謙信の跡を偲び、鯨波海水浴場に遊び
て新潟に至り、歸路岩越嶽に頼る、此の豫定日數六日、二
九〇頁参照

房總海岸 稻毛、一宮、太東、大原各海水浴場をあさ
りて勝浦に至り、汽船にて安房の館山に至る、此豫定日數
四日、三〇一頁参照

出羽の三山 米澤、山形附近の勝を探り、湯殿山、月山
羽黒山を跋渉して酒田經清川驛に出づ、此豫定日數五日、
三一二頁及三一九頁参照

最上川沿岸 酒田經古口清川川の舟遊をなして山の内の
風光を愛で、酒田に至り、夫より島海山に登山す、此豫定
日數五日、三一九頁参照

男鹿半島廻り 秋田の勝を探り、追分より船川輕便線に頼

りて男鹿半島に入り、舟を雇うて半島廻りをなす、此豫定
日數四日、三一五頁及三二二頁参照

十和田湖 大館より小坂鐵道又は秋田鐵道に頼り、大
湯温泉に浴して十和田湖の勝を探り、歸途奥入瀬の風光を
見て古間木に出づ、此豫定日數四日、三一六頁及二五五頁
参照

陸奥の海岸 大鰐温泉に浴し、弘前より岩木山登山の上
青森に至り、淺蟲温泉に遊ぶ、此豫定日數四日、三一七頁
及二五六頁参照

北海道廻り 青森より聯絡船によりて函館港に渡り、大
沼公園の勝を探り、小樽、札幌、岩見澤を經、神居古澤の
風光を愛で、旭川に出で、石狩、十勝國境の大觀を車中よ
り見て釧路港に至り、引返して岩見澤より室蘭に入り、途
中々張線の夕張炭山を視て引返し、登別温泉に浴して室蘭
港に出で、室蘭より船にて青森港に歸る、此豫定日數八日
三二四頁乃至三四一頁参照

朝鮮 縦貫 釜山に上陸、馬山浦、水原、仁川を見て、

京城に至り、京城よりは元山線に入りて朝鮮第一の勝金剛
山の風光を探り、引返して京城より更に北して開城、平壤
義州を見、鴨綠江を渡りて支那安東縣に至る、此豫定日數
十日、三四七頁乃至三五二頁参照

南滿洲 朝鮮を經て滿洲に入り、安奉線沿道の風光
を賞して奉天に出で、それより北長春に至り、引返して遼
陽、營口、金州等に遊びて大連に出で、旅順港に至り、引
返して大連より汽船に乘る、此豫定日數十四日、三五二
頁乃至三五五頁参照

臺灣 縦貫 基隆より臺北に至り、淡水港に遊び、更に
臺北より南して新竹、臺中、彰化、嘉義を見て臺南に至る、
此豫定日數七日、三五五頁乃至三五八頁参照

南樺太 小樽より汽船にて大泊に至り、豊原、榮濱
より東海岸を視察し、引返して豊原より西海岸の汽岡に至
り、其處より上船す、此豫定日數五日、三五八頁参照

に應じて左表の通り割引致候
第一期 自三月廿一日 至五月十日

體團通普	第一期 自三月廿一日 至五月十日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、〇〇〇	一、一五〇	一、二五〇	一、三〇〇
五十哩以上	一、一〇〇	一、二五〇	一、三五〇	一、四〇〇
百哩以上	一、二〇〇	一、三五〇	一、四〇〇	一、五〇〇
二百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
三百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇

第二期 自一月一日 至五月十一日
自五月十一日 至十二月末日

體團通普	第二期 自一月一日 至五月十一日 自五月十一日 至十二月末日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇
五十哩以上	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
百哩以上	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇
二百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
三百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇

第三期 自一月十一日 至二月末日
自六月一日 至六月末日

體團通普	第三期 自一月十一日 至二月末日 自六月一日 至六月末日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
五十哩以上	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇
百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
二百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇
三百哩以上	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇	一、八〇〇

同一學校の職員生徒團體に對しては二十五人以上延長十哩以上の區間を旅行せらるゝ場合には三等に限り季節と人員並に哩程とに應じて左表の通り割引致候

第一期 自三月廿一日 至五月十日

體團生學	第一期 自三月廿一日 至五月十日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
五十哩以上	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇
百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
二百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇
三百哩以上	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇	一、八〇〇

且其世話人(團員五十人迄は一人五十一人以上は五十人を増す毎に一人を加へ五人を以て限度とす)を汽車賃金に限り無賃として取扱致候

急行列車券

○東京と下關、京都、大津間、門司と熊本間、上野と青森間函館と岩見澤間に於ける指定の急行列車に乘車せらるゝ方は乗車券の外別に「急行列車券」を御買求め相成度其料金は左の通に有之候但し小兒四年未滿は無料、四年以上十二年未滿は半額に有之候

特別急行列車券料(東京、下關間第一等)

- 一等 金參圓
- 二等 金貳圓
- 三等 金壹圓
- 特別急行列車券料(東京、下關間第一等)
- 一等 金參圓
- 二等 金貳圓
- 三等 金壹圓
- 普通急行列車券料(前記以外の急行列車の分)
- 一等 金壹圓五拾錢
- 二等 金壹圓
- 三等 金五拾錢
- 乘車券通用期間

同一工場の職工團體に對しては五十人以上延長十哩以上の區間を旅行せらるゝ場合には三等に限り人員と哩程とに應じて左表の通り割引致候

體團生學	第二期 自一月一日 至五月十一日 自五月十一日 至十二月末日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇
五十哩以上	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
百哩以上	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇
二百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
三百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇

第二期 自一月一日 至五月十一日
自五月十一日 至十二月末日

體團工職	第二期 自一月一日 至五月十一日 自五月十一日 至十二月末日			
	人員 廿五人以上 百人未滿	人員 百人以上 二百人未滿	人員 二百人以上 三百人未滿	人員 三百人以上 四百人以上
二十哩以上	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇
五十哩以上	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
百哩以上	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇
二百哩以上	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇
三百哩以上	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇

○普通、學生、職工團體共乘車人員百人以上の場合には百人毎に世話人一人の割合を以て團體の世話人を汽車に限り無賃として御取扱致候

○尙朝鮮、南滿洲等を視察せんとせらるゝ二十人以上の團體に對しては往復日數六十日以内の場合に限り普通賃金を半減

○乗車券の通用期間は左の通にして總て發行當日より起算すものに有之候

片道乗車券 五十哩未満 一日
五十哩以上百哩未満 二日
以上百哩若くは其未滿を増す毎に一日を加ふ
往復乗車券 五十哩未満 三日
五十哩以上は片道乗車券に對する日數の二倍とす

通行税

○通行税は左の通に有之候

等	五十哩又は五十哩未満	百哩又は百哩未満	二百哩又は二百哩未満	二百哩以上
一等	五錢	貳拾錢	四拾錢	五拾錢
二等	參錢	拾錢	貳拾錢	貳拾五錢
三等	壹錢	貳錢	參錢	四錢

乗車券引換證

○本證は無手数料にて發行し賃金拂込人の指定せらるる、停車場に於て本證と引換に相當乗車券を御渡しする仕組のものに有之候尙本券の通用期間は三十日に有之候得共之を自己の使用に供するときは旅行中現金携帯の不安を除き得るの

路の到着時を二十四時間以内に出發する場合には前各項に據る運賃總額の二割五分を割引致すべく候

客車貸切

○客車の貸切には「普通貸切」と「特別貸切」との二種有之候行列車及特に指定しある列車に對して貸切を爲す場合を特別貸切と稱し使用車の座席定員全部に對する賃金を申受け候又其他の列車に貸切を爲す場合を普通貸切と稱し使用車の座席定員の三分の二(現に乗車する人員が座席定員の三分の二より多き場合には其現乗車人員)に相當する賃金を以て御請求に應ずべく候但し貸切を爲す區間の哩程が二十哩に滿たざるときは二十哩分の賃金を申受くべく又五十哩以上の區間を空車の儘廻送致候様の場合には別に廻送料を可申受候

特別車及特別室貸切

○特別車は其の構造優美にして寢室、安座室、化粧室又は料理室、食堂等の設ある車輛なれば賓客の招待又は御家族御同伴の御旅行等には至極適當したるものに有之候其の車輛に

みならず廣く賓客の招待、僕婢の遣喚、旅行者への進物等に用ゐて最便利なるものに有之候

臨時(別仕立)旅客列車

○臨時旅客列車は運轉區間の哩數に依り左の割合に依り遞次累加したる運賃を以て運轉の御請求に應ずべく候但し其運賃總額が片道金六拾六圓に滿たざるときは該金額を申受け又現乗車人員に對する普通賃が此の割合よりも超過するときは其の實額を申受け候尤も客車の種類又は輛數等特に御指定相成候場合には客車貸切規程に據る賃金を申受くべく候

五	十	哩	迄	一哩に付	金參圓參拾錢
五十哩	一分より	百哩	迄	同	金貳圓六拾錢
百哩	一分より	二百哩	迄	同	金貳圓
二百哩	一分より	三百哩	迄	同	金壹圓六拾錢
三百	哩	以上	同	同	金壹圓四拾錢

は大、中、小の區別ありて一等普通賃金の卅五人分、二十人分又は十二人分を以て貸切の御請求に應ずるものに有之候
○東京、下關間に於ける特別急行列車と普通急行列車とは御家族御同伴の御旅行に適當なる特別室の設有之特別急行列車の方は一等普通賃金の八人分、普通急行列車の方は五人分を以て貸切の御請求に應ずること、致居候

寢臺車

○東海道線、山陽線、北陸線、東北線、信越線、奥羽線、北海道線及九州線の主なる夜行列車には寢臺を設備し普通乗車賃金の外別に左の使用料金を申受け御使用に供し候

東海道線、山陽線	一等寢臺一人床	金四圓
第一、二、三、四、五、六、一、一三列車及東京	二等寢臺二人床	金三圓五十錢
敦賀間二連結ノ分	二等寢臺一人床	金二圓五十錢
東海道線、山陽線、北陸線	一等寢臺一人床	金三圓
五三九、五三六、五三三、五三〇列車	二等寢臺二人床	金三圓五十錢
第一〇、一〇二列車	二等寢臺一人床	金二圓五十錢
東北線、奥羽線	一等寢臺一人床	同上
第二〇三、二〇四、七〇一、七〇四、八〇一、八	二等寢臺一人床	同上
九州線 第五、六、二五、二六列車	二等輕便寢臺一人床	同上
北海道線 第一、二列車	同上	同上

食堂車

○各線の急行及直行列車には食堂車を連結し輕便にして新鮮なる西洋料理又は日本料理(飲料、菓子、果物をも販賣す)を調進致し候右は當院直接監督の下に營業致させ居候ものに付其の取扱方等に關し不都合の廉有之候節は御腹藏なく最寄管理局運輸課又は當院運輸局旅客課に御申告下され度候

列車長及客扱專務車掌

○東京下關間特別急行列車には「列車長」を、其他各線の急行及直行列車には赤布の胸章を纏へる「乘客專務車掌」を乗込ましめ座席の整理、優等車への轉乘又は寢臺の使用方等に關する事項を取扱はしむると共に列車の發着又は船車の連絡時刻其他鐵道旅行に關する萬般の御質問に應答する等努めて乘客各位の御便利を圖らしむる様致し置き候

列車給仕

○各線の急行及直行列車の寢臺車及一、二等車には一定の服裝を爲したる列車給仕を乗込ませ御乗車中の御使役に充て

置き候

途中下車

○片道廿五哩以上御乗車の旅客は左の割合に依り任意の驛に途中下車の上再び他の列車に乘繼を爲し得るものに有之候
院線内 片道二十五哩以上三百哩未滿 二回
同 三百哩以上七百哩未滿 三回
同 七百哩以上千二百哩未滿 四回
同 千二百哩以上 五回
前項の制限を超えて途中下車をなし又は二十五哩未滿の乗車券を以て途中下車相成候ときは其の乗車券は前途使用の効力なきものと御承知相成度候

携帶品一時預り

○主要なる停車場には「旅客携帶品一時預り所」を設け御遊覽又は御用達等の爲め御携帶に不便なる物品を一時限り左記料金を以て御預り致候
重量三十斤未滿 一日 貳錢
同三十斤以上百斤迄 一日 四錢

自轉車又は小兒車 一日 五錢

告知板

○御同行の約束ある方より先發又は先着せらるゝ等の爲め其の事實を右の御方に御通知を要せらるゝ場合の御便利を圖り主なる停車場に「告知板」(黒板に白墨を添ゆ)を備附け置き候に付隨意御使用相成たく候

驛内料理店

○左記停車場には休憩室を設け輕便なる西洋料理及飲料、菓子、果物等を調進販賣せしめ候

東京、新橋、横濱、米原、京都、大阪、三ノ宮、神戸、岡山、兩國橋、萬世橋、金ヶ崎、宇都宮、仙臺、青森、門司、博多、長崎

直營ホテル

○現在當院直營の下に在るホテルは奈良及下關の二箇所にし、孰れも設備、食事は洋式に有之、宿泊方法は下關山陽ホテルに於ては歐式米式の二種を設け、奈良ホテルは米式

のみに依り歐式には室料と食事を各別に定め置き、食事は御食事ありたる時に限り之を室料に計算し、米式にては室料と食事をまとめて計算する仕組にて、孰れも料金は格外の低廉に有之候

山陽ホテル(下關)は内地朝鮮、本土九州間船車連絡の要衝に當れる下關停車場前に在り、館内各室共清潔を旨とし、空氣の流通を宜くし、飲食の調理に注意し、酒場、玉突場、閱覽室、浴室等の諸設備を整へ置き候に付、御宿泊は勿論汽車汽船の御待合せ、御入浴御食事等にも甚だ御便利に有之候尙乘客は車中にて列車給仕に御申付け相成候へば電報無料にて其旨を通知し寢臺其他の用意致させ申すべく候

奈良ホテル(奈良)は奈良停車場より自動車にて約五分、人力車にて約十五分の距離に有之、春日野公園の一隅に位し、土地高燥にして近く小池を控へ遙かに奈良全市、大和平野を下瞰する形勝の域を占め居候、建築は幽邃の四邊に適應せしめんが爲に古風宮殿の式に則り、各室の設備、料理等は山陽ホテルと同様努めて完全ならしめ、玉突場、婦人室、閱覽室、喫煙室、浴室、日本風庭園等

を設け、尙一週間以上の滞在に對しては料金割引の便法も有之候へば、南都附近探勝又は保養の爲め御來遊の節は御投宿相成度候

鐵道案内所

○主要なる停車場には「鐵道案内所」を設け列車の發着、接續、船車の連絡、手小荷物の託送方其他鐵道旅行に關し御案内致居候

市内營業所及小荷物取扱所

○左記の所に市内營業所を設け市内の停車場と同一賃金を以て普通、割引、定期、回数等の各種乗車券、急行列車券、寢臺券及乗車券引換證の發賣並に手、小荷物發送等の取扱を爲し且團體乗車及客車貸切の御申込に應じ其他汽車發着時刻を始め營業上に係る各種の御案内等も可致大阪、京都、市内營業所にては前記の外速達便貨物の發送をも取扱はしめ博多、長崎の兩市には小荷物取扱所を設け又東京、京都、大阪を始め重なる停車場所在地市内には小荷物代理取扱所を設け小荷物(京都及大阪は速達便貨物共)の受付を爲

さしめ候

- 東京 神田區西今川町八番地
- 横濱 横濱市住吉町一丁目一番地
- 名古屋 名古屋市西區玉屋町四丁目二十二番地
- 京都 京都市下京區四條通り室町西へ入ル七十二、七十四番地
- 大阪 大阪市東區北久太郎町三丁目三十五番地

手荷物及小荷物

○手荷物 旅客の携帶乗車せらるゝ手荷物は網棚の上若しくは腰掛の下に容れ得べき大きさのものに限られ度其以上のものを持たざるゝときは座席を塞ぎ又は通路を妨げ同乗者の迷惑と相成るべく候に付御預け相成度候即一等旅客一人に付百斤(十六貫)まで、二等同六十斤(九貫六百目)まで、三等同三十斤(四貫八百目)までは無賃にて運送致候但し半賃金にて乗車せらるゝ小兒方の手荷物に對する無賃制限は夫々前記の半斤量に有之右斤量を超過する手荷物は其超過斤量に對し下記通常小荷物運賃と同率の賃金を申受くべく候

○手荷物は成るべく列車出發時刻より五分前迄に託送の手續

相成度若し發車時刻に迫り其御申込相成るときは止むなく次便列車を以て運送致隨て遲着を免れざる場合も可有之候

○小荷物 一般貨物中重量容積多大ならざるものは小荷物扱として低廉なる賃金にて旅客列車を以て最も迅速に運送致すべく速達を要する商品、贈答品及腐敗し易き鮮魚、野菜等を託送せらるゝには至極便利の仕組に候へば精々御利用相成度候

○特別扱小荷物 都市に於ける日用品需給の便を圖り小荷物

扱に依る牛乳、鮮魚、貝類、鮮肉、野菜、果物及卵は左記各項に依り特別低廉なる運賃を以て最も御便利に取扱致候

- 一運賃 五十哩迄 三十斤迄 金 二十錢
- 以上十斤迄を増す毎に金五錢
- 一本扱に依る小荷物は驛留扱(配達は一切取扱はず)のものにして到着後直に引取ることをお諾せられたるものに限
- 一本扱に依る小荷物は指定列車に限り取扱致候
- 一本扱に依り發送せられたる荷物の空器は無賃返送可致候
- 列車を指定して小荷物の搭載を望まらるゝ方は遅くも該列車出發時刻二十分前に託送の手續相成度又「附隨小荷物」とし手荷物の如く旅客と同一列車にて運送することを望まらるゝときは成るべく其御取計致すべくに付既記手荷物の託送と同様遅くも列車の出發時刻より五分前に託送の手續相成度候

運送に危険の虞あるものは取扱不致候

- 二、引換代金額
- 一口に付金千圓迄に候
- 三、託送取扱驛(到着驛は宛線内何處にても宛支なし)
 - 東海道線 東京、新橋、汐留、東京市内營業所、品川、横濱、櫻木町、東横濱、横濱市内營業所、大船、沼津、静岡、濱松、豊橋、岡崎、熱田、名古屋、名古屋市内營業所、岐阜、大垣、大津、京都、京都市内營業所、梅小路、大阪、大阪荷扱所、同横堀支所、同四ッ橋支所、同天満支所、大阪市内營業所、三ノ宮、神戸
 - 北陸線 長濱、福井、大聖寺、金澤、高岡、富山
 - 中央線 萬世橋、飯田町、八王子、茅野、甲府、岡谷、松本
 - 山陽及四國線 兵庫、明石、姫路、岡山、倉敷、笠岡、福山、尾ノ道、同驛支所、廣島、己斐、柳井津、下関、同驛支所、釜山派出所、高松、徳島
 - 山陰線 二條、豊岡、鳥取、米子、松江、倉吉
 - 關西線 桑名、四日市、伊賀上野、奈良、湊町、津、松坂、田丸、山田、鳥羽、宇治、和歌山

- 東北及岩越線 秋葉原、上野、宇都宮、福島、仙臺、盛岡、青森、隅田川、水戸、高崎、栃木、佐野、足利、桐生、伊勢崎、前橋、會津若松
- 奥羽線 米澤、山形、秋田、弘前、酒田
- 信越線 上田、長野、高田、直江津、長岡、新潟
- 總武線 兩國橋、銚子
- 九州線 門司、門司荷扱所、小倉、博多、博多小荷物取扱所、久留米、羽犬塚、大牟田、上熊本、熊本、鹿兒島、佐賀、長崎、長崎小荷物取扱所、佐世保、中津
- 北海道線 函館、八雲、俱知安、余市、中央小樽、小樽、手宮、札幌、岩見澤、瀧川、旭川、岩内、栗山、室蘭、留萌、帶廣、釧路、野付牛
- 四、居宅引換
 - 配達附小荷物及速達便扱に限り御希望により荷物配達の際荷主の居宅にて荷物と代金との引換を致すべく候、尙此の扱は荷受人より御請求ある時も其の取扱をするものにて同時に配達の場合及配達日を指定せらるゝ時は可成御希望の通り取扱致候
- 五、手数料

普通の代金引換手数料

代金二十圓迄	八 錢	二 錢
同三十圓迄	十 錢	三 錢
同五十圓迄	十五 錢	五 錢
同百圓迄	二十 錢	七 錢
同 <small>百圓を超過する時は百圓又は其未済を算す毎に</small>	五 錢	五 錢

居宅引換をなす場合に上記手数料に左の追加

荷物託送後引換代金額を増加又は減少するか或は代金引換扱を取消さるゝ時は左の變更手数料を申受候

荷物及關係書類が未だ發驛 一回に付 五 錢
より發送せられざる時 同 十 錢
右が既に發送せられある時 同 十 錢

六、代金受取方の注意

著驛にて代金を受荷主より申受けたる時は代金引換濟通知書を以て其旨を發荷主に通知致すべく而して發驛より別に代金支拂の日時を通知するに依り發荷主は該日時に代金引換濟通知書に代金引換證を添へ發驛に提出し之と引換に代金を受取らるゝものに候

大貨物

○大貨物扱は小荷物扱に比し數量の多大なる貨物に適せる取扱方にして主として貨物列車を以て運送し賃金も小荷物に比し低廉に候而して大貨物扱は品種數量の多寡に應じ取扱方に數種の區別有之候

○速達便扱 此扱は一個毎に斤量と哩の遠近に依て五十斤に付(一斤は百)何程と運賃を計算し豫め搭載すべき列車を指定し迅速に輸送する特別の取扱方に候小荷物同様停車場所在地の市内及停車場より凡一里半以内の區域に限り無料にて配達可致に付離の名酒備後の疊表を取寄せらるゝか又は遊學中の愛兒に衣類等を入れたる行李を送らるゝが如き場合には殊に御便利に候

但し牛馬の類、石油、マツチ類の危険品、死體金銀貨等の類、火薬類及一個の重量二百斤又は長十五尺又は容積四十才を越ゆるものは御取扱不致候
五十斤毎の運賃左の通に有之候
五十哩迄 金三十錢 百哩迄 金三十五錢
百五十哩迄 金四十錢(上記の如く五十哩毎に金五錢を加ふ)

五十斤以上百斤迄の賃金は五十斤分の二倍、百五十斤迄は同三倍といふが計算方に有之候一才の目方十斤未満の輕量貨物は一才を十斤として計算致候又和酒に限り四斗入大樽を百斤分、二斗入小樽を五十斤分の賃金にて取扱致候

○通常斤扱 此扱は貨物の等級に應じ個數に拘らず其總斤量と哩の遠近とにより運賃を計算するものにして重量五十斤を最低位とし即五十斤未満は五十斤分として計算し五十斤以上は十斤毎に切上げ(例、は五十三斤を六十斤百斤を)計算す、通常二、三千斤迄の貨物は此扱に依る方御便利に有之候運賃は小荷物扱速達便扱に比し著しく低廉なれば一般家庭用の飯米を遠隔なる特産地より取寄せ又は四季折々に仕入るる商品を運送する場合等に適當せる扱方に有之候速達便扱と同じく一才の目方十斤未満の輕量貨物は一才を十斤として計算致候

○通常噸扱 此扱は貨物の等級に應じ噸(一噸は千六百九十三斤)數と哩の遠近により一噸何程と賃金を算出し通常斤扱より餘程割安に付同一品種のものにして少しく纏りたる時即二、三噸ありて一車貸切の扱とせんに少きに過ぎ、さればと

て前記の斤扱としては多きに過るといふ場合に最適當なる取扱方に候
尤も此扱は同一品種の貨物二噸以上に限り扱ふものなれ共二噸未満のときも二噸分の運賃を仕拂はば此扱による事を得るものに有之候
百才の目方一噸未満の輕量貨物は百才を一噸として計算致候

○貸切扱 此扱は纏まりたる多量の貨物を運送するを目的とし一車を貸切とし貨物の等級に應じ其積載する貨物の噸數と哩の遠近とにより運賃を計算する扱方に候故に一車未満の時も一車分に相當する噸數に對し運賃を計算するもの候(例、は七噸積載車に六噸積りたる)此扱は穀物、石炭、材木、石材等の如く最多量に纏りたる時即ち山元より石炭薪炭を取寄せ若しくは建築材料を運搬するが如きものに利用すれば運賃著しく低廉にして且積換等の煩累なく隨て荷傷を生ずる虞も尠き利益有之候

引越荷物に限り各品種取交せある時と雖も本扱の場合には三級品一品と見做し取扱致候
百才の目方一噸未満の輕量貨物は噸扱と同じく百才を一噸

として計算致候

此扱は積込取卸は荷主負擔の事に相成居候

貨物等級

○前記扱別の下に等級に應じ云々とある等級とは鐵道運送上貨物を例へば砂利、石炭の如き粗雜品と絹布美術品の如き高貴品とは是を區別し居候其區分の重なるものは左の通りに有之候

- 一級品 穀物、石炭、セメント、木材、石材、鹽、肥料、麥粉、薪炭、種子物等
- 二級品 砂糖、茶、綿、苗木、果物、味噌醬油、紙、鹽干魚、漬物、鐵器類、疊等
- 三級品 陶磁器、家具、織物、文具、酒、菓子、履物、植木、罐詰、金屬製品、漆器等
- 高級品 絹物、水晶、瑪瑙、時計、鮮魚鮮肉、藥品、化粧品、衣服、美術品、度量衡、樂器等
- 級外品第一種 牛、馬の類
- 同 第二種 劇薬、石油、マッチ、生石灰、油紙の類
- 同 第三種 人力車、馬車、自動車、荷車の類

同 第四種 死體

同 第五種 金銀貨、同地金、紙幣、有價證券の類

同 第六種 火藥類

以上の通りにして級外品は第二種に限り通常斤扱、貸切扱に依る扱方なれ共其他は車數、頭數又は斤數により哩の遠近により相當運賃を計算する特種の扱方に有之候

運賃

上記の扱別並に級外品の個數其他に就て各哩毎に各級品別として運賃を定め容易に所要の運賃を見出し得る相成居候殊に鮮魚、繭、鑽石の如き貨物は全線一般に規定の運賃より一割乃至四割の割引あり尙重なる貨物は區間によりて規定の運賃より割引を爲したる特定運賃有之候に付規定運賃又は特定運賃の何れに拘はらず詳細を最寄停車場にて照合相成度其取扱區域は當院線内各驛は申すに及ばず内地各私設鐵道線朝鮮鐵道に對しても殆ど全部連絡扱致居遠く臺灣、南滿洲、東清鐵道並歐露鐵道に至るまで連絡の取扱は候殊に商業上金融の御利より貨物引換證、船荷證券を發行致し又院線内に於て一般に運賃料金の着拂、立換拂の御取扱致候

行先	通常斤扱				通常噸扱				貨切扱			
	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品
米澤	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
秋田	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
水戸	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
高崎	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
直江津	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
新潟	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
甲府	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
小樽	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、八〇〇	五、〇〇〇	六、六〇〇	九、四〇〇	二、八四〇	三、一〇〇	三、四三〇	六、八九〇
姫山路	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇
岡道	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇
尾道	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇
廣島	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇
下關	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇
博多	一、〇〇〇	一、二二一	一、二二七	一、六六五	一、一七〇	一、三七〇	一、五五〇	二、〇三〇	一、〇五〇	一、〇〇〇	一、二二〇	一、五九〇

大阪(梅田)より

行先	通常斤扱				通常噸扱				貨切扱			
	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品	一級品	二級品	三級品	高級品
名古屋	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
大阪	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
尾道	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
下關	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
長崎	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鹿児島	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
金澤	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
富山	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
宇都宮	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
福島	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
仙臺	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
青森	一、二七三	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、七四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

東京(秋葉原)より

通常斤扱、通常噸扱、貨切扱に依る重なる区間の運賃を掲ぐれば左の通に有之候

●海陸連絡旅客及手荷物輸送

旅客及手荷物輸送

朝鮮、臺灣、天津、上海、滿洲、浦蘆斯德、歐露及西歐等に往復する旅客の御便利を圖り左記區間に於て旅客及手荷物の連絡輸送御取扱致候

○朝鮮行

一、東海道線(横濱線各驛を除く)、山陽線、山陰線、關西線、讚岐線、九州線各驛、北陸線、中央線、信越線、東北線、岩越線、奥羽線、北海道線主要驛と朝鮮總督府鐵道局線各驛相互間(下關、釜山間は當院連絡汽船に由る)

○臺灣行

一、東海道線、山陽線、及九州線主要驛と基隆、臺北、桃園、新竹、苗栗、臺中、彰化、斗六、嘉義、新營庄、臺南、打狗、阿猴相互間(途中航路は日本郵船株式會社及大阪商船株式會社汽船に由る)

○支那行

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と北京、天津、山海關、新民、張家口、南口、漢口、鄭州、石家莊、浦口、濟南府、上海、南京相互間(當院關釜連絡汽船、朝鮮總督府鐵道局線、南滿洲線經由)

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と、天津、青島、上海、大連相互間(途中航路は日本郵船株式會社汽船に由る)

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と天津、青島、大連相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○南滿洲線行

一、東海道線、北陸線、關西線主要驛及山陽線、九州線各驛と安東、本溪湖、大連、旅順、營口、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春相互間(朝鮮總督府鐵道局線經由)

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と旅順、營口、海城、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺及長春相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○浦蘆斯德行

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と浦蘆斯德相互間(敦賀浦蘆斯德間大阪商船株式會社汽船に由る)

○東清、烏蘇里線行

一、大連經由東海道線、山陽線及九州線主要驛と滿洲里、齊々哈爾、哈爾濱相互間(門司大連間大阪商船株式會社汽船に由る)

一、朝鮮經由東海道線、山陽線及九州線主要驛と滿洲里、齊々哈爾、哈爾濱相互間(下關釜山間は當院連絡船に由る)

一、浦蘆斯德經由東海道線、山陽線及九州線主要驛と滿洲里、齊々哈爾、哈爾濱、ハバロフスク、浦蘆斯德相互間(敦賀浦蘆斯德間大阪商船株式會社及露國義勇艦隊汽船に由る)

○歐露行

一、朝鮮、大連又は浦蘆斯德經由、東海道線、山陽線及九州線主要驛とイルクーツク、莫斯科、ハトログラード(モ

スコイ經由)、ハトログラード(ウヤーツカ經由)、ワルネナツ、オテツサ相互間(途中航路は前掲東清、烏蘇里線行と同一)

○西歐行(歐洲戰亂の爲目下連絡取扱休止中)

一、大連又は浦蘆斯德經由東海道線、山陽線及九州線主要驛より伯林、維也納、巴里、倫敦行(途中航路は前掲東清、烏蘇里線行と同一)

小荷物輸送

朝鮮、臺灣、天津、上海、滿洲及浦蘆斯德行小荷物連絡輸送の便を開き左記區間に於て御取扱致候

○朝鮮行

一、院線各驛(德島線を除く)と朝鮮總督府鐵道局線各驛相互間(途中航路は當院關釜間連絡汽船に由る)

○臺灣行

一、東海道線、山陽線又九州線主要驛と基隆、臺北、桃園、

新竹、苗栗、臺中、彰化、斗六、嘉義、新營庄、臺南、打狗、阿猴相互間(途中航路は日本郵船株式會社及大阪商船株式會社汽船に由る)

○天津、上海、大連行

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と天津、大連相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)
一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と天津上海大連相互間(途中航路は日本郵船株式會社汽船に由る)

○南滿洲線行

一、院線各驛(總武、德島線を除く)と南滿洲線各驛相互間(朝鮮總督府鐵道局線經由)
一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と旅順、營口、海城、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺及長春相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○浦鹽斯德行

一、東海道線、山陽線及九州線主要驛と浦鹽斯德相互間(敦

賀浦鹽斯德間大阪商船株式會社汽船に由る)

大貨物輸送

朝鮮、滿洲、臺灣其他海外行大貨物連絡輸送の便を開き左記區間に於て御取扱致候

○朝鮮行

一、當院線各驛(總武線德島線及北海道線を除く)と朝鮮總督府鐵道局線各驛相互間(途中航路は當院關釜連絡汽船に由る)

○南滿洲線行

一、東海道線、山陽線、關西線、北陸線、九州線主要驛及中央線多治見、東北線王子驛と安東、大連、旅順、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、長春其他主要驛相互間(朝鮮總督府鐵道局線經由又途中航路は當院關釜間連絡汽船に由る)
一、東海道線、山陽線、北陸線、九州線主要驛及中央線多治見驛と遼陽、奉天、鐵嶺、長春、旅順、營口、其他主要驛相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○大連行

一、東海道線、山陽線、北陸線、九州線主要驛及中央線多治見驛と大連相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○臺灣行

一、東海道線、山陽線、北陸線九州線主要驛及中央線多治見驛と基隆、澎湖島、安平、打狗相互間(途中航路は大阪商船株式會社汽船に由る)

○烏蘇里及東清鐵道線行

一、東京、汐留、横濱、名古屋、京都、梅小路、大阪、神戸、下關、門司、弘前、静岡、枇杷島の各驛と烏蘇里鐵道オケアンスカヤ、ニコリスクウスリースキト、エウゲニエフカ、ウスリーイーマン、ヒキン、ハバロフスク驛及東清鐵道ボグラニーチナヤ、ダイマゴウ、ハイリン、ハニダオヘツイ、シトウチエンツイ、ウエシヤーヘ、イミヤンホ、ウジミ、マオエルシヤン、アシヘ、ハルビン、ツイチンシヤン、チチハル、フリヤエルシ、ハイラル、

○歐露鐵道線行

一、横濱より莫斯科驛行生絲に對し大阪商船會社及露國義勇艦隊を介して直通連絡の取扱を爲す

連絡船

○下關釜山間(高麗丸、新麗丸、さくら丸、壹岐丸、對馬丸)青森函館間(比羅夫丸、田村丸、弘濟丸、滿成源丸、蛟龍丸)宇野高松間(玉藻丸、兒島丸)宮島嚴島間、下關門司間、舞鶴宮津間及宮津灣内の各航路に當院所屬の汽船を定期運航して鐵道との連絡を圖り併せて一般旅客荷物の運送を御取扱致候

マンチウリヤ驛相互間(但し東京及京都は急行便に限り取扱ふ、又梅小路驛以東よりは敦賀(金ヶ崎)浦鹽經由大阪以西よりは朝鮮經由に限る尤も大阪及神戸發、浦鹽斯德及ハバロフスク著に限り敦賀(金ヶ崎)浦鹽經由とす、而して浦鹽經由の場合に敦賀(金ヶ崎)浦鹽間は大阪商船株式會社又は露國義勇艦隊の汽船に由り朝鮮經由の場合に關釜間當院連絡汽船に由る)

沿線旅館一覽表

○東京

麹町區 東京停車場ホテル(精養軒、東京驛隣上) 帝國ホテル(内山下町)
 東京ホテル(有樂町) 植木屋、旭館(内幸町) 金生館、繁星館(平河町) 松葉館、越後屋(富士見町) 相模屋(麴町五丁目) 翠邊館、飯田館(飯田町)

神田區 今城館本店、昌平館、有恒館、映陽館、福家、美土代館(錦町) 旭樓本店、日芳館(表神保町) 茂壽家(關口町) 初谷支店、佐々木、今城館支店、旭樓支店(蓮雀町) 岩井館(元岩井町) 豐島館、會津館(豐島町) 万佐(山本町) 田島屋(末廣町) 常盤館(仲町) 龍名館(南甲賀町) 森田館、さぬき、香取館(三崎町) 關根屋(淡路町) 八重垣館(北神保町) 日昇館(鈴木町) 廣島屋(小柳町) 蛭田旅館(小川町)

日本橋區 島屋(歌寄屋町) 蓬萊屋(通二丁目) 島屋、福屋(西河岸町) 名倉屋(室町) 大友、伏見屋(本石町) 永田屋(兩邊) 大阪屋(馬喰町) 藤屋(元大工町) 城邊館(檜物町) 浦島館(通一丁目)

家橋區 岡本、水明館、厚生館、扶桑館、開旅館(木挽町) 金水館、有明館、六

方館(築地) 林屋(尾張町) 西澤(南金六町) 紅木屋(京十郎町) 精養軒ホテル(采女町) 「セントラルホテル」(明石町) 春木屋(新富町) 城東館(南區町) 和泉屋(銀座一丁目) 對山館、朝日館(南銀座町) 吾妻屋支店(南區町) 春日館(本木町) 中央旅館、鍛冶橋旅館、金明館(五郎兵衛町) 海水館(新島島東町)

芝區 吾妻屋、紀伊國屋、新橋館、信濃屋、花家旅館(新橋驛附近) 朝陽館(虎門) 月見旅館(愛宕町) 清光館(櫻田本郷町) 伊勢屋(南佐久間町) 品川館(高輪南町)

麻布區 井口屋(六本木町)

赤坂區 對翠館(田町) 万年屋(青山北町) 青山館、翠邊館(青山南町) 甲子旅館(溜池町)

四谷區 泉館(鹽町) 中徳(飯館町)

牛込區 植木屋(築土八幡町) 長島屋(神樂町)

小石川區 江戸川館(新調訪町)

本郷區 本郷館(元町) 安田(本郷三丁目) 大津館、上行館(本郷六丁目) 菊富士ホテル(菊坂町) 蓋手館別荘(森川町) 本郷家(赤門前) 長福館(龜岡町)

○東海道線

東海道本線

下谷區 名倉屋、山城屋、群玉舎、上野館、東洋館、井筒屋、惠比壽屋、埼玉屋、若葉屋、伊勢清、福仙(上野驛前) 那須館(上車坂町) 山城屋(廣小路)

淺草區 小松屋(駒形) 松木屋(下平右衛門町) 不二屋、惠比壽屋、淺草館、若松館、柳屋(東仲町) 松坂屋(材木町) 鹿島屋(花川戸町) 神吉館(神吉町)

本所區 清水館、櫻屋、總武館、豐田館(兩國橋驛附近)

荒川區 入船屋(入船町)

大森 松坂本店、大正俱樂部、魚樂(海岸) 磯樓(池上)

浦田 要館、信太館(羽根田浴場) 万金、富士川館、養生館(森ヶ崎浴場)

川崎 鶴田樓、富士見樓、長崎屋、春日野(川崎町) 梅園、松葉屋、惠比須屋(大師前)

鶴見 花月園

東神奈川 水明樓(子安浴場) 高津館(野前)

神奈川 武藏屋、富士沙(野前) 鶴屋(青木町)

横濱 神久井屋、蓬萊屋、廣島屋、福井屋、小田原屋、上州屋、大勢屋、霞屋(横濱市)

戸塚 勢樓、松木屋(戸塚町)

藤澤 船毛屋、角若松屋(藤前) 東屋(湯治) 岩本樓、蛭子屋、金龜樓、佐實屋、江戸屋、柳屋(江ノ島)

茅ヶ崎 茅ヶ崎館、松風亭、吾妻屋、立花屋

平塚 松本樓本店、田村屋、富士見屋、竹ノ屋(藤前) 旭館(海岸) 古久屋、若松屋、高島亭(厚木町) 伊勢作、小宮、松屋(伊勢原町) 駒屋、海老屋、紙屋、伊豆屋(大山町)

大磯 漢語館、長生館、山本樓、角半、大内館、宮代屋、鶴屋(大磯町)

二宮 二宮館、官本館、壽館(藤前) 大川樓、泰野館(泰野町)

國府津 國府津館、葛屋(藤前) 松湯園(酒匂) 福屋、小伊勢屋、養生館、勢清樓(小田原) 福住、小川(箱根湯本) 環翠樓、一ノ湯、福住、新玉の湯(箱根塔の澤) 富士屋ホテル、奈良屋(箱根宮ノ下) 大和屋、近江屋(箱根登ヶ島) 葛屋、梅屋(箱根底倉) 龜屋(箱根木質) 三河屋(箱根小涌谷) 松坂屋、紀ノ國屋(箱根堂の湯) 秀明館(箱根麩子) 強羅館(箱根強羅) 仙崎樓(箱根仙石) 天野屋、富士屋、中西屋(湯河原) 相模屋(伊豆山) 樋口、富士屋、相模屋、露木、隱居玉屋、鈴木(熱海) 暖香園、伊東館(伊豆伊東) 平野屋(下田)

御殿場 富士屋、松屋、大黒屋、御殿場館、住吉屋、箱根屋、田口屋、福田屋、富士野屋、相本屋(驛前) 近江屋、西川(舊御殿場) 米山館、大米屋、大甲學小申學(須走)

佐野 五福館(佐野)

三島 本多屋(驛前) 堀屋、菱屋、大和屋、松屋(三島町) 中葉亭
琴景舎(知毛温泉) 大和館、山田屋、肴屋、小松屋(長岡温泉) 池田屋、山本
屋(大仁驛前) 新井、菊屋、淺羽、大川、野田屋、橋本屋、四方館(修善寺
温泉)

沼津 杉本、仙松閣ホテル、臨川館、山本屋(沼津町) 三島館(牛臥) 保養館
(靜浦浴場) 土肥館、明治館、朝香家(土肥浴場) 松倉樓、中西(松崎町)

錦川 高砂館、山口屋、鯛屋(吉原町)

富士 加島館、鶴芝館、長谷川(驛前) 併樂園、梅月、中村屋(大宮町) 東陽
館(入山瀨) 大万、万屋(芝川) 田中屋、玉屋、梅屋(身延山)

岩田 谷屋(驛前)

興津 一碧樓、東海ホテル、身延樓支店、龜島樓、十文字屋(興津町)

江尻 朝陽館、大久屋(清水町) 大津館、清江館(江尻設止地) 石橋屋、
東府屋(久能山下) 石川屋、羽衣亭、桃花園(三保村)

靜岡 大東館、袋屋、品川屋、清鶴樓、魚安、榮松樓、靜樂館、大吉野、上
藤屋(靜岡市)

藤枝 潮生館(志太温泉)

島田 魚屋、鷹屋(島田町)

金谷 石橋亭、魚半(金谷町)

堀之内 迎友館、文明館、城東館(驛前) 相良屋(池新田) 櫻屋(箱山) 大瀧
屋(御前崎)

掛川 富士屋、森下屋、姫路屋(掛川町)

披井 江戸七、旭館(驛前) 本多屋(袋井町) 大黒屋、谷口屋(森町) 松本
屋、高木屋(秋葉神社山下) 佐野屋(横須賀町) 山田屋(法多山)

中泉 友愛館、千歳支店(中泉町) 迎陽館、大孫(見附町) 福田屋(二俣町)
淨影樓(池田村)

濱松 大米屋、花屋支店(驛前) 花屋本店、平野屋(飯島町)

辨天島 茗荷屋、九文、松月、登喜和、小松屋、伊勢屋、中村屋、開春樓(辨
天島海水浴場)

濱津 濱名館(濱名海岸海水浴場) 新月(同都築海水浴場) 万壽館(同佐久
米海水浴場)

橋市 小島屋、岡田屋、赤屋支店、山田屋館、豊橋ホテル、樹屋、大村屋(豊
橋市)

御油 柳忠、二宮館、とやま、曳馬野、たびや(御油海水浴場)

蒲原 常樂館、健製館、明月館、海月(蒲原海水浴場)

岡崎 丸藤、錦屋、清風軒、志賀乃屋(岡崎町)

熱田 富田屋、山丸、伊勢久、富士林、岡田屋、大森(熱田)

名古屋 名古屋ホテル、千秋樓、九文、志那屋水支店、清洲支店、大松、鐘屋

まるや 岐阜長、佐東館、三藤、松宗、鎗宗本店、志貴酒屋、井澤屋、谷屋(名
古屋市)

一ノ宮 九市、樋口(一ノ宮町)

岐阜 玉井屋、鐘秀館、住吉屋、十八樓、水琴亭、万松館、澤陽館(岐阜市)

大垣 玉屋、安田屋、新玉屋(大垣町) 栲水、村上(養老瀨)

彦根 樂々園、八景亭、館屋(養根) 樂々館、田井中(驛前)

能登川 藤屋、魚與(驛前)

八幡 兵四樓、角宗(八幡町)

津 魚虎(草津町)

石山 柳屋、三日月樓(石山)

大津 紅葉館、竹活樓、八景館、松坂屋、中村屋、魚善樓(大津市) 阪本屋
快風樓(終所町) 萩の屋(驛前)

船荷 玉屋、万壽樓、三茶樓(驛前)

京都 京都ホテル、都ホテル、大佛ホテル、澤文、終屋、俵屋、松吉、万屋、
迎木、中村樓、杉ノ井、晴鳴樓 龜屋、目貫屋、鳥居樓、山城屋、都館、伏見
屋、菊岡家(京都市)

高槻 三忠(高槻町)

大阪 花屋、大阪ホテル、観水樓、自由亭、花外樓、佐々木、金森館、渡路
屋、花房、岩瀬本支店、多岐色樓、紫雲樓、北川樓、播重、澁万、紅葉館、金

御館、前川、富士屋、吉岡、ます屋、五万樓、常樂、東雲樓、永井、小西(大
阪市)

西宮 阪東屋、丸長(西宮町)

蘆屋 若樂園(六甲山ラヂウム温泉)

三宮 「オリエンタルホテル、トリアホテル、西村、後藤、芳野館(神戸市)

神戸 音羽花壇、常樂花壇、加藤館、千秋樓(神戸市)

横須賀線

鎌倉 海濱院ホテル、三橋、海月樓(長谷) 小町園、松園樓(磯ノ下) 三橋
支店、角正(八幡前) 光明館(材木座)

逗子 養神亭(逗子) 日影茶屋、舞屋、長者園(葉山) 千代本、東屋(金澤)

横須賀 三層屋(横須賀市) 勝男館(大津浴場) 鈴木屋、徳田屋(浦賀町) 柳
陽館、三輪館(三輪町)

武豊線

島崎 翠洲樓(島崎町)

半田 小扇樓、末廣(半田町)

武豊 煙渡樓(武豊町) みどりや、十一屋(師崎海水浴) 古城館、長門屋(藤
島海水浴)

福知山線 有馬輕便線

- 尼ヶ崎 手岡、立花樓、金久(尼ヶ崎町)
- 池田 めんも樓(池田)
- 伊丹 岡竹、八木房(伊丹町)
- 寶塚 立美家、分銅家、櫻樓、松原庵、門龜、ひし富、相生樓(寶塚驛泉)
- 武田尾 ⑤、豊前、元陽、紅葉樓(武田尾驛泉)
- 三田 有馬館、欣華樓、熊野館(驛附近)
- 有馬 兵衛、御所坊、中之坊、池ノ坊、杉本ホテル、増田ホテル、有馬ホテル(有馬温泉)
- 篠山 近又樓、角源、深陽樓、大谷屋(篠山町)
- 柏原 霞月樓(柏原町)

○山陽線

山陽本線

- 舞子 万龜樓、龜屋、左海屋(驛前)
- 明石 山口、近安樓支店(驛前)、新誠樓、近安樓本店、錦明館(明石町)
- 加古川 増田屋(加古川町)、石寅(高砂町)

- 姫路 宇田川、瀧邊園、福島樓、入江(姫路市)
- 網干 梅玉、初音(龍野町)
- 那波 水月樓(相生港)、柴田(赤埜町)
- 西大寺 車屋、赤根屋(西大寺町)
- 岡山 三好野花樓、鶴岡、自由(倉岡山市)
- 倉敷 東雲樓、池田屋(倉敷町)
- 玉島 兒島屋(玉島町)
- 金神 海濱院(沙美海水浴)
- 笠岡 中利、伏源(笠岡町)
- 福山 栗定、坂田屋、松乃家(福山町)
- 尾道 尾道ホテル、鶴水館(尾道市)
- 糸崎 濱吉、風月樓(糸崎町)
- 三原 五雲樓
- 廣島 長沼本支店、吉川本支店、溝口(廣島市)
- 宮島 岩惣、龜福、松岡、錦水館(廣島)
- 岩國 米手(岩國町)
- 柳井津 渡渡館(柳井津町)
- 徳山 松政、廣瀬(徳山町)
- 三田尻 石田、旭館、防府館(三田尻)

- 小郡 石田(小郡町)、近江屋(秋吉村)
- 下關 山陽ホテル、春帆樓、大吉樓、濱吉、川卯、大成館、仲谷(下關市)

播但線

- 野里 梅崎館(増位温泉)
- 福崎 角屋(驛前)
- 生野 はまや、日下(生野町)

宇野線

- 宇野 海(驛前)

吳線

- 吳 吉川、岩越(吳市)

山口線

- 湯田 松田屋、野原、水野(湯田温泉)
- 山口 上田、中村(山口町)

○中央線

中央本線

- 中野 大つた、花園、しがらき(堀ノ内)、辰美野(新井)
- 國分寺 糸万、柳屋(驛前)、萬屋、万屋(府中町)、松葉館、角三上、細村屋所(深町)、小泉樓(入間川町)、金子、港屋(飯能)、今福、佐久間、松村(川越町)
- 立川 中村亭、東屋(驛前)、坂上、若狭屋(若狭町)
- 八王子 徳利龜屋、角喜、末廣館(八王子町)
- 淺川 花屋(淺川)、二軒茶屋(高尾山下)
- 大月 大外河芙蓉閣、刑部、小菊(吉田口)、精進ホテル(精進湖畔)
- 鹽山 甲禮館、廣友館(鹽山温泉)
- 甲府 談雲館、佐渡幸、米倉(甲府市)
- 草薙 金泉湯津金(増富村ラヂウム温泉)
- 上諏訪 牡丹屋、布半、諏訪ホテル、甘精軒(上諏訪町温泉)
- 下諏訪 桔梗屋、丸屋、龜屋(下諏訪町温泉)
- 水戸福島 岩屋、つたや(水戸福島)
- 中津川 十一屋、權利亭、梅信亭、近又(中津川町)、湯ノ島山荘(惠那湯ノ島ラヂウム温泉)
- 大井 市川
- 多治見 松屋、びいどろ屋(多治見)